

洛外における堀の変遷

馬瀬 智光

1. はじめに

城館の成立から衰退までを論じるときに様々な手法がある。考古学的手法を用いて分析するにしても、縄張り分析から、個々の遺構の分類まで数多くの手法がある。主に城館を構成する要素としては、堀（濠）、土塁、塀、石垣、櫓、天守、御殿、虎口（小口）、門、郭の形態や配置など様々なものを取り上げることが可能である。今回は城館跡を特徴づけるいくつかの要素の内、最も遺構として残存する可能性の高い堀（濠）跡を取り上げた。土塁は削平される可能性があり、石垣も削平や石材転用等の可能性があるのに対し、堀は耕作や宅地造成で削平される危険性はあるものの、埋め戻されることが多い。また、農業用水や運河等で再利用されるなど、残存度が他の遺構に比べて高い。

洛中の堀の登場から終焉については、『京都府中世城館跡調査報告書』第4冊の中で馬瀬が報告している¹⁾。報告文中で堀の深さと幅の関係を調べたところ、織田信長が室町幕府第15代将軍足利義昭のために築城した武家御城（旧二条城跡）に伴う堀から急激な大型化が始まり、聚楽第跡及び聚楽第武家屋敷跡に伴う堀が従前とは隔絶した規模になるということがわかった。

一方、室町幕府の歴代将軍邸に伴う堀は

幅・深さとも将軍邸以外の堀と大きな差異は認められない。

近年、足利義昭の将軍権力を見直す中で、相対的に織田信長の政治権力の限界が言われるようになってきた²⁾が、少なくとも洛中における埋蔵文化財の調査成果からは織田信長の登場が一つの画期となっており、その権力基盤を受け継いだ豊臣秀吉の築城した城館には、その他の権力との明瞭な差が認められる。

今回、洛外においてはどのような状況が進行するのを見るために、洛外及び平安京の条坊制の範囲外で平安時代後期から江戸時代前期までの区画溝及び堀とされる遺構を集成して考察を行った。区画溝は周囲や隣接地との境界を示すために築かれることが多く、堀（濠）は防御のために築かれることが多い。いくつかの区画溝は戦乱時には堀（濠）の機能を有することもあるし、逆に築城時に築かれた堀（濠）は、その内側と外側を区別するという意味では区画溝としての機能を有する。

筆者は、「堀（濠）は、一時的であれ、恒常的であれ、防御のために人工的に土地を溝状に掘削して、守ろうとする施設を周囲から隔絶させるもの」と考える³⁾が、発掘調査において調査員に共通する堀（濠）に関する明確な基準はない。そのため、発掘調査担当者や報告書ごとに同じ遺構が堀と記述される場合や、溝と記述される場合

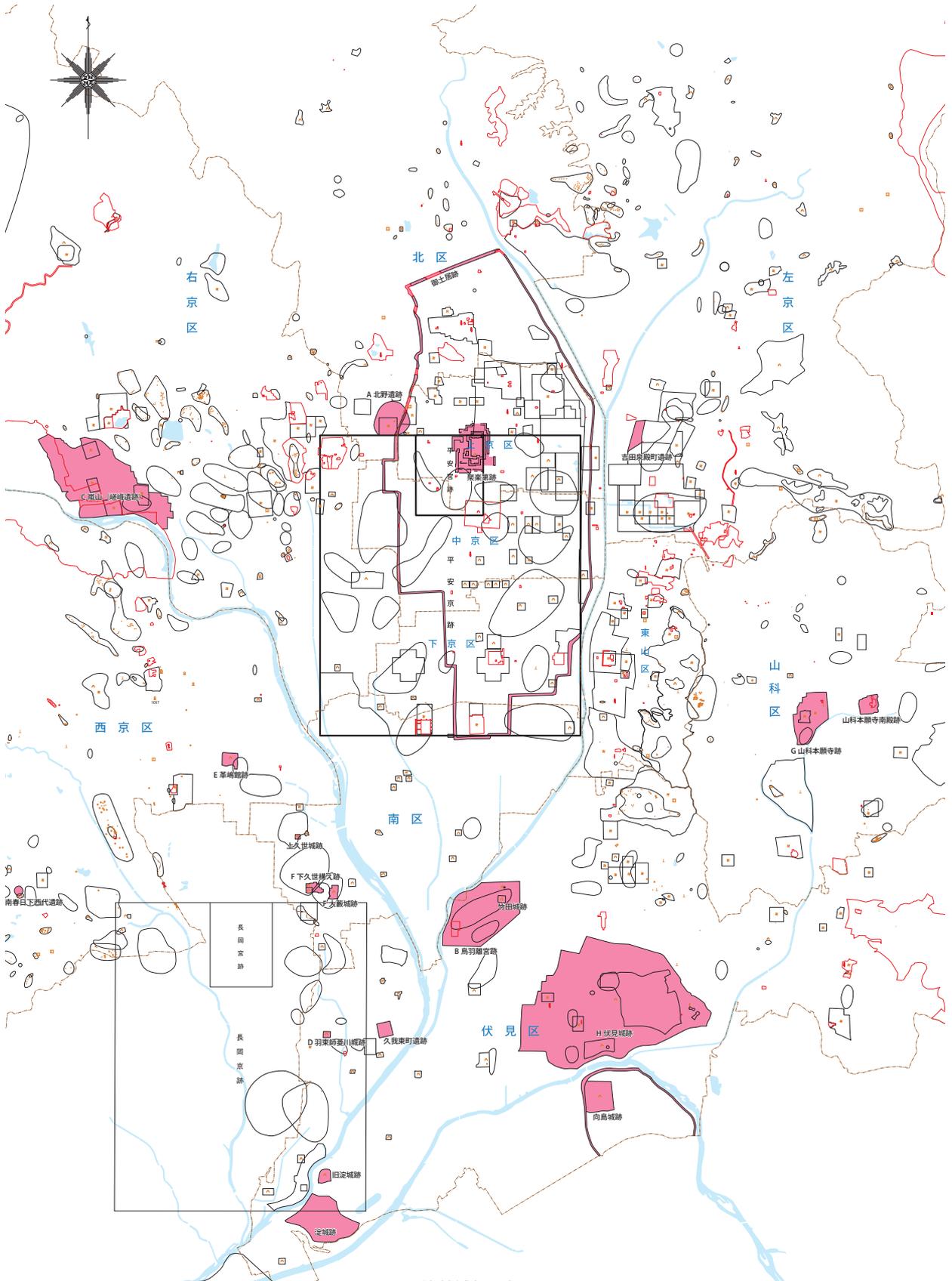


図1 洛外城郭分布図

もあり、今回は区別せずに抽出した。これは発掘調査担当者が堀（濠）と溝とを区分する目安をどこに置くのかを分析するためでもある。洛中の分析でも参考にしたが、『延喜式』の京程によると、平安京の朱雀大路の側溝は「溝廣各五尺（約1.5 m）」、その他の大路側溝は「溝廣各四尺（約1.2 m）」、小路側溝は「溝廣各三尺（約0.9 m）」となる。宮城南大路（二条大路）には、隍（ホリ）があり、「隍廣八尺（約2.4 m）」の規模があったとされる⁴⁾。発掘調査等で堀（濠）と認識するのは、遺構の時代とともに、『延喜式』京程の記述を上回る規模の遺構であることが多いと考える。その実態を探る上でもこの記述を上回る規模の遺構の急増する時期を探ることも同時に行っている。

2. 研究史

京都市内とその周辺の城館について、体系的に初めてまとめられたのは、1986年に山下正男氏が報告した『京都市内およびその近辺の中世城郭―復原図と関連資料―』においてである⁵⁾。京都の堀を体系的に整理したものについては、1995年に山本雅和氏の発表した「中世京都の堀について」（『研究紀要』第2号財団法人京都市埋蔵文化財研究所）と、2014年に発表した「洛中の構」（『関西近世考古学研究 22』）があり⁶⁾、洛中の堀（濠）に関しては筆者がまとめた前掲報告がある。

山下正男氏の論考では162箇所の城館が取り上げられており、堀の位置や現況について詳しく述べられている。山下氏の興味は、「土豪の小城の調査を発表するもの」

であるが、「調査の過程で見つかった將軍、管領、守護、守護代の城、そして法華、門徒、キリシタンのつくった城をも報告」されている⁷⁾。また、報告するにあたって、洛中、洛西、洛北、洛東、洛南、宇治・八幡の六地域に分類している。

山本雅和氏の論考では、洛外の堀を、A：居館・寺院を囲むもの、B：集落を囲むもの、C：主に水路としての機能を担うものの3種類に分類している。さらにA型式をA aとA bの二つに細分し、堀の形状による排土量の違いからみた土木量の差異を見出している⁸⁾。

筆者は、平成16年の論考で、京都市内の城郭を築城主体と城郭面積から分類し、両者の間に密接な関係があることを明らかにした。中でも、足利將軍家の室町殿（花の御所）跡と豊臣秀吉の築城した伏見城跡では面積において230倍以上の開きがあり、織豊系武将達の築城した城館は、それまでの城館とは隔絶した大きさを有していたことを明らかにした⁹⁾。

また、先述のとおり、堀（濠）の幅と深さの関係性の変化から織豊城郭の隔絶性を明らかにするとともに、堀の終焉には（1）戦乱の収束、（2）將軍の寺社への渡御、（3）天下人の破城令に基づくものがあることも明らかにした¹⁰⁾。

3. 資料の抽出

洛中・洛外といっても時代によってその範囲は大きく変遷するが、ここでは便宜的に豊臣秀吉の築造した洛中総構（御土居跡）に含まれる範囲を洛中とする。また、平安京の条坊施工範囲についても先の報

告（馬瀬2015）に含めており、今回の洛外のサンプルから除外している。

京都市内の史跡及び埋蔵文化財包蔵地の内、平安時代後期以降の洛外で検出された区画溝もしくは堀（濠）として記載された遺構734例を抽出した。耕作溝及び建物に取り付く雨落溝等は抽出例から外している。734例の中には、同一遺構が複数調査で検出された例もあるが、調査ごとにカウントしている。

埋蔵文化財調査は土木工事の内容によって決まることから、堀（濠）底の検出に至っていない例や、調査区設定の関係上、遺構の幅や最深部が調査区外となり規模の確定しないものも多い。また、削平等の人為的改変や、地震や土石流などによる自然的要因により、遺構の深度・幅とも築造当時と全く同じではない。さらに難しくするのが利便性の高い溝（堀・濠）ほど、浚渫・修理・掘り直しなどの改変を受けやすく、存続時期も長くなる傾向があるため、その遺構の当初の規模・形状を判別することが困難になることである。

抽出した734例の内、存続時期の長さを見無視して幅及び深さの両数値が明らかかなものは506例【表11】あり、表10に示した幅と深さの相関関係を見る資料として用いている。さらに、遺構の時期的な変遷を見る上で存続期間の設定が可能なものを抽出すると、幅の実測値が明らかかなものは553例、深さの実測値が明らかかなものは484例であった。存続期間は、平安時代後期、平安時代末期～鎌倉時代、室町時代前半、戦国時代（室町時代後半）、桃山時代、江戸時代の6期に分類した。平安時代後期は京都盆地が戦乱に巻き込まれる直前の様相を示しており、戦国時代は応仁・文明の乱以降、旧二条城跡が造られるまでの時期である。

4. 分析

(1) 存続期間ごとの溝（堀）状遺構の

規模の変遷（表1・図2）

幅のわかる溝（堀）状遺構553例の内、幅3m未満のものが409例、約74%を占

表1 時代別 堀（幅・深さ）分布状況

時代	溝・堀（幅）														時代別合計
	0~3m	率	3~6m	率	6~9m	率	9~12m	率	12~15m	率	15~18m	率	30m以上	率	
平安時代後期	63	82.9%	9	11.8%	4	5.3%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	76
平安時代末~鎌倉	124	77.0%	27	16.8%	10	6.2%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	161
室町時代前半	49	79.0%	11	17.7%	2	3.2%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	62
戦国時代	83	61.9%	36	26.9%	11	8.2%	3	2.2%	0	0.0%	1	0.7%		0.0%	134
桃山時代	85	78.0%	5	4.6%	0	0.0%	2	1.8%	0	0.0%	2	1.8%	15	13.8%	109
江戸時代	5	45.5%	3	27.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	27.3%	11
幅類型別合計	409	74.0%	91	16.5%	27	4.9%	5	0.9%	0	0.0%	3	0.5%	18	3.3%	553

※各項目最大数自身は含まない。(3~6m=3m以上, 6m未満)

時代	溝・堀（深さ）														時代別合計
	0~1m	率	1~2m	率	2~3m	率	3~4m	率	4~5m	率	5~6m	率	6m以上	率	
平安時代後期	56	83.6%	8	11.9%	2	3.0%	1	1.5%		0.0%		0.0%		0.0%	67
平安時代末~鎌倉	112	73.7%	40	26.3%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	152
室町時代前半	43	76.8%	12	21.4%	1	1.8%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	56
戦国時代	70	60.3%	38	32.8%	6	5.2%	1	0.9%	1	0.9%		0.0%		0.0%	116
桃山時代	57	65.5%	10	11.5%	4	4.6%	1	1.1%	2	2.3%	1	1.1%	12	13.8%	87
江戸時代	6	100.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	6
深さ類型別合計	344	71.1%	108	22.3%	13	2.7%	3	0.6%	3	0.6%	1	0.2%	12	2.5%	484

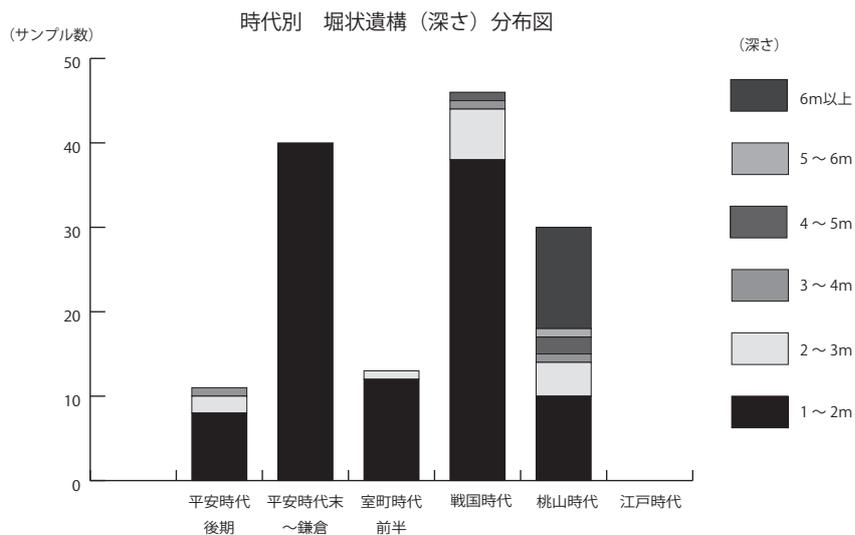
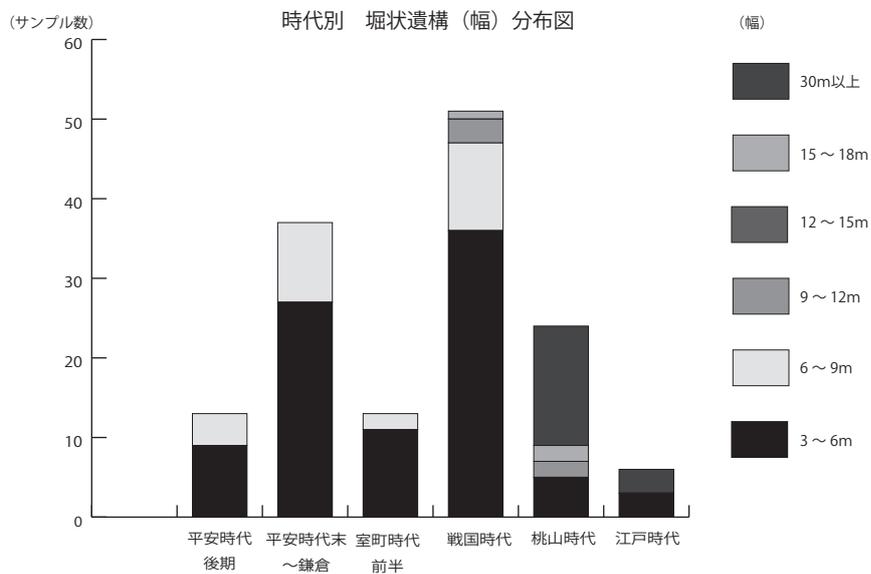
※江戸時代築城の淀城跡は、堀底の深さが不明なため、含まれない。

※各項目最大数自身は含まない。(1~2m=1m以上, 2m未満)

める。同様に、深さのわかる484例の内、深さ1m未満のものが約71%を占めている。京都市内において、幅3m以上、深さ1m以上のものが堀と認識されることが多いことを考えると、示唆的な数値である。

時代ごとの変遷をみていくと、幅においては、平安時代後期において幅6m、深さ

3mを超えるものが出現しているが、全体の83%は幅3m未満、深さ1m未満の小規模なものである。洛中とその近郊が本格的に戦乱に巻き込まれる平安時代末から鎌倉時代になると、幅3m、深さ1mを超えるものが全体の23%を占めるようになり、防御的な側面が増大したことを示すのであろうか。次の室町時代前半になると、



※ 淀城跡の堀は深度不明のため、江戸時代の堀に関するサンプルが0となっている。

図2 時代別 堀（幅・深さ）分布状況

南北朝期の戦乱に巻き込まれるものの、比較的安定した時代でもあり、幅3m以上、深さ1m以上のものが前代に比較すると減少する傾向がある。ただし、後述する嵯峨遺跡ではこの時期に大型の遺構が認められており、地域差がある。

さて、応仁・文明の乱以降の戦国時代になると、幅3m未満、深さ1m未満のものが全体の60%程度に下る一方、幅3～6m、深さ1～2mのものが全体の30%前後となるだけでなく、それまでの時代で確認できなかった幅9mを超えるもの、中には幅15m以上に達するものが出現するようになる。深さについても2m以上のものが約7%に達し、深さが4mを超えるものも出現する。

桃山時代になると、幅3m未満のものの比率が78%、深さが1m未満のものが65%と増加する一方、伏見城跡では従来

とはスケールの異なる超大型の遺構が出現し、幅30m、深さ6m以上のものが約14%を占めるようになる。

江戸時代になると、超大型に属すると考えられる徳川期に築造された淀城跡の堀について、幅に関する調査成果が蓄積されつつあるが、工事掘削深度の関係から深さに関する成果がなく、資料に偏りが出ている。傾向としては、幅30m以上ものが認められるとともに、幅3m未満のものが45%と前代に比べ減少している。

(2) 事例研究

以下では、個別の遺跡ごとに堀の規模の変遷を見ていく。なお、文中で紹介する遺構名の後の()の番号は、表11の堀番号に一致しており、参考文献がわかるようになっている。

表2 北野遺跡 時代別 堀(幅・深さ)分布状況

北野遺跡

時代	溝・堀(幅)							時代別合計
	0～3m	3～6m	6～9m	9～12m	12～15m	15～18m	30m以上	
平安時代後期	2	1						3
平安時代末～鎌倉	2							2
室町時代前半	4							4
戦国時代	6							6
桃山時代								0
江戸時代								0
幅単位合計	14	1	0	0	0	0	0	15

※各項目最大数自身は含まない。(3～6m=3m以上, 6m未満)

北野遺跡

時代	溝・堀(深さ)							時代別合計
	0～1m	1～2m	2～3m	3～4m	4～5m	5～6m	6m以上	
平安時代後期	3							3
平安時代末～鎌倉	2							2
室町時代前半	4							4
戦国時代	6							6
桃山時代								0
江戸時代								0
幅単位合計	15	0	0	0	0	0	0	15

※各項目最大数自身は含まない。(1～2m=1m以上, 2m未満)

A 北野遺跡（表2・図3）

平安京の北郊に位置する集落跡であり、その中心部には平安京以前に成立した北野廃寺が存在する。近年、堀状遺構とされるものが複数検出されており、注目されている。

時期、幅、深さの三項目全ての判明した15例の内、幅3mを超える事例は平安時代後期の1例だけであり、それ以外の14例は全て幅3m未満、深さ1m以内に収まる。平安時代後期の溝1(274)は、幅3.2m、深さ0.5mの溝で常住寺に関連する区画溝と考えられている。

平安時代末～鎌倉時代になると、幅2.5m、深さ0.3mの溝2条(598・599)が南

北方向に並行して確認されており、道路の側溝の可能性が指摘されている。

この遺跡で注目すべきは、戦国時代に造られた3mに満たないものの、「堀」と記述された二つの遺構である。堀30(531)と堀51(532)は、幅が1.3mと2.9m、深さが0.5mと0.25mであり、遺構面が削平されていることを考えても規模は小さいが、これらの両堀は中央部で途切れており、しかもその途切れた部分に門状の遺構があることから屋敷地を囲う防御施設と考えられている。

B 鳥羽離宮跡（表3・図4）

平安時代後期の11世紀末に白河天皇の

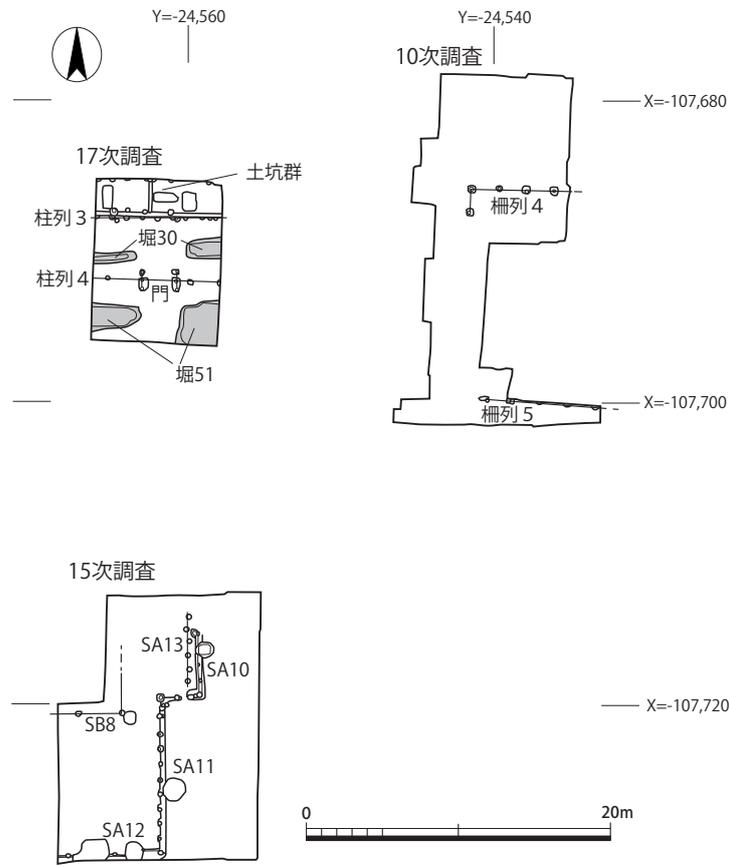


図3 北野遺跡中世以降 遺構分布状況（柏田有香 2011年の図144修正）

表3 鳥羽離宮跡（竹田城跡含む）時代別 堀（幅・深さ）分布状況

鳥羽離宮跡

時代	溝・堀（幅）							時代別合計
	0～3m	3～6m	6～9m	9～12m	12～15m	15～18m	30m以上	
平安時代後期	4	3	1					8
平安時代末～鎌倉	20	5	7					32
室町時代前半	3							3
戦国時代	2	2	2					6
桃山時代	1							1
江戸時代								0
幅単位合計	30	10	10	0	0	0	0	50

※各項目最大数自身は含まない。(3～6m=3m以上, 6m未満)

鳥羽離宮跡

時代	溝・堀（深さ）							時代別合計
	0～1m	1～2m	2～3m	3～4m	4～5m	5～6m	6m以上	
平安時代後期	5	3						8
平安時代末～鎌倉	19	13						32
室町時代前半	3							3
戦国時代	2	4						6
桃山時代								0
江戸時代	1							1
幅単位合計	30	20	0	0	0	0	0	50

※各項目最大数自身は含まない。(1～2m=1m以上, 2m未満)

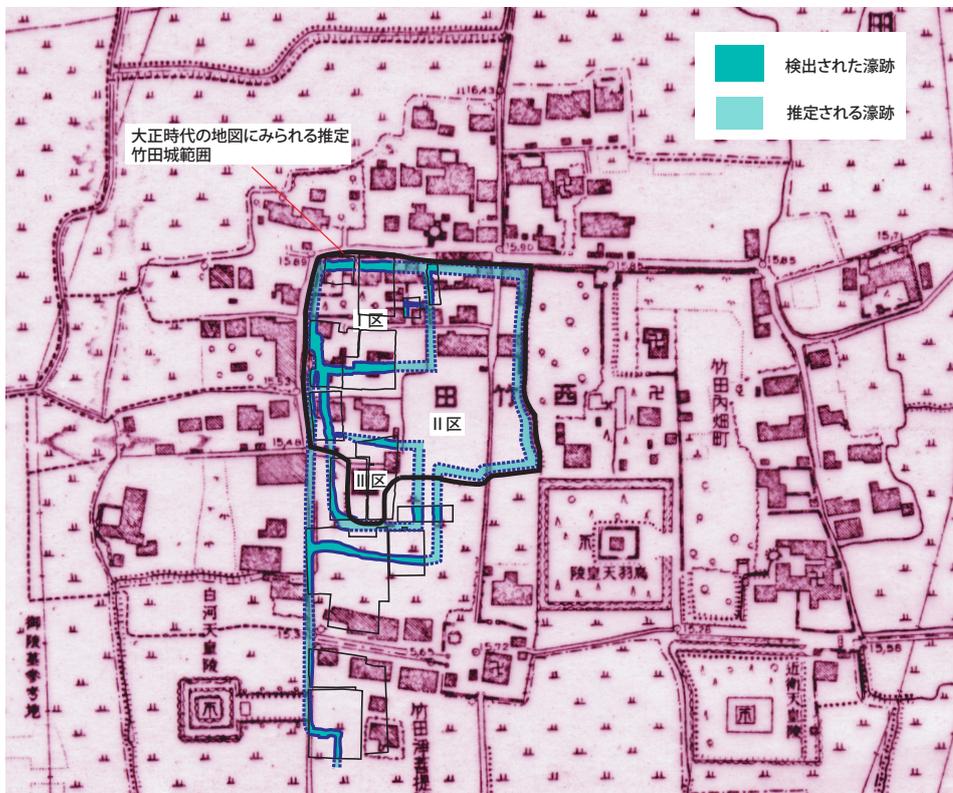


図4 竹田城跡復原図（馬瀬智光 2006年の図6転載）

退位後の後院として造営された離宮である。後鳥羽上皇が承久3年（1221）に挙兵した舞台の一つともなる。その後も当該地域の土豪である奥田氏の居城である竹田城が築かれるなど、中世を通じて居住が認められる。

鳥羽離宮跡では時期、幅、深さの判明するものが50例ある。草創期である平安時代後期8例の内、4例（50%）が幅3mを、3例が深さ1mを超える。平安時代末期～鎌倉時代の32例中幅3mを超えるものが12例（約38%）、深さ1mを超えるものが13例ある。

室町時代前半の事例は3例と少ないが、戦国時代になると6例の内、幅3m、深さ1mを超えるものが4例となり、約67%を占める。桃山時代の事例はなく江戸時代に1例あるが、幅3m未満、深さ1m未満

となる。この遺跡においては室町時代前半を除き、当初から半数前後がいわゆる堀（濠）の基準を超える。

ただし、平安時代後期から鎌倉時代にかけての事例の内、幅3mを超えるものに白河天皇陵、近衛天皇陵の事例を複数含んでおり、これら天皇陵に関連する遺構を除くと、戦国時代に規模の大きなものが増加する傾向がある。

C 史跡名勝嵐山（嵯峨遺跡）（表4）

史跡名勝嵐山の指定範囲の内、桂川東岸から北岸にかけては、天龍寺とその塔頭群の展開する嵯峨遺跡に含まれる。当遺跡で時期、幅、深さの判明した事例は32例ある。平安時代後期に幅6m、深さ2mの溝252（357）が出現する。平安時代後期から鎌倉時代の4例の内、2例は幅2mを超

表4 史跡・名勝嵐山，嵯峨遺跡 時代別 堀（幅・深さ）分布状況

史跡・名勝嵐山，嵯峨遺跡

時代	溝・堀（幅）							時代別合計
	0～3m	3～6m	6～9m	9～12m	12～15m	15～18m	30m以上	
平安時代後期			1					1
平安時代末～鎌倉	2	1	1					4
室町時代前半	8	5						13
戦国時代	10	3						13
桃山時代	1							1
江戸時代								0
幅単位合計	21	9	2	0	0	0	0	32

※各項目最大数自身は含まない。（3～6m＝3m以上，6m未満）

史跡・名勝嵐山，嵯峨遺跡

時代	溝・堀（深さ）							時代別合計
	0～1m	1～2m	2～3m	3～4m	4～5m	5～6m	6m以上	
平安時代後期			1					1
平安時代末～鎌倉	1	3						4
室町時代前半	8	5						13
戦国時代	7	6						13
桃山時代	1							1
江戸時代								0
幅単位合計	17	14	1	0	0	0	0	32

※各項目最大数自身は含まない。（1～2m＝1m以上，2m未満）

える。2012年に報告された溝1A(625)は幅6m、深さ1.5mある。室町時代前半でも13例中5例が幅3m、深さ1mを超える。逆に戦国時代になると、13例中幅3mを超えるものは3例となる。比率では室町時代前半が約38%、戦国時代が約23%に減少する。

この縮小傾向を示す事例として、2013年に報告されたSD16(647)とSD15(648)の新旧2本の区画溝がある。両溝は方位と切り合い関係から同じ天龍寺の塔頭を囲む溝と考えられる。戦国時代直前の15世紀中頃に埋没したSD16は幅4m、深さ1.7mあるのに対し、戦国時代である15世紀後半に成立しているSD15は幅1.7m、深さ0.8mに規模が縮小している。桃山時代になると幅3m未満、深さ1m未満の1例となる。

D 羽束師菱川城跡(表5・図5)

羽束師菱川城跡はその成立時期が不明であるものの長岡京期以降、周辺よりも標高の高い微高地であったことから連綿と居住が認められる遺跡である。城主は不明であり、羽束師菱川の土豪層が集団で維持した可能性がある。2016年の発掘調査により遺跡のピークは15世紀であると考えられる。また、これまでの調査から遺跡中心部が移動している可能性がある。

成立時期及び幅と深さの両方の数値がわかる事例は5例ある。戦国時代に成立した堀が近世、近代まで幅を変えながらも存続するものの、中世城館の典型的な事例の一つである。平安時代末～鎌倉時代に成立した溝SD207(685)は幅0.3m、深さ0.26mである。次に戦国時代に成立した

表5 羽束師菱川城跡 時代別 堀(幅・深さ)分布状況

羽束師菱川城跡

時代	溝・堀(幅)							時代別合計
	0~3m	3~6m	6~9m	9~12m	12~15m	15~18m	30m以上	
平安時代後期								0
平安時代末~鎌倉	1							1
室町時代前半								0
戦国時代			3					3
桃山時代								0
江戸時代	1							1
幅単位合計	2	0	3	0	0	0	0	5

※各項目最大数自身は含まない。(3~6m=3m以上, 6m未満)

羽束師菱川城跡

時代	溝・堀(深さ)							時代別合計
	0~1m	1~2m	2~3m	3~4m	4~5m	5~6m	6m以上	
平安時代後期								0
平安時代末~鎌倉	1							1
室町時代前半								0
戦国時代		3						3
桃山時代	1							1
江戸時代								0
幅単位合計	2	3	0	0	0	0	0	5

※各項目最大数自身は含まない。(1~2m=1m以上, 2m未満)

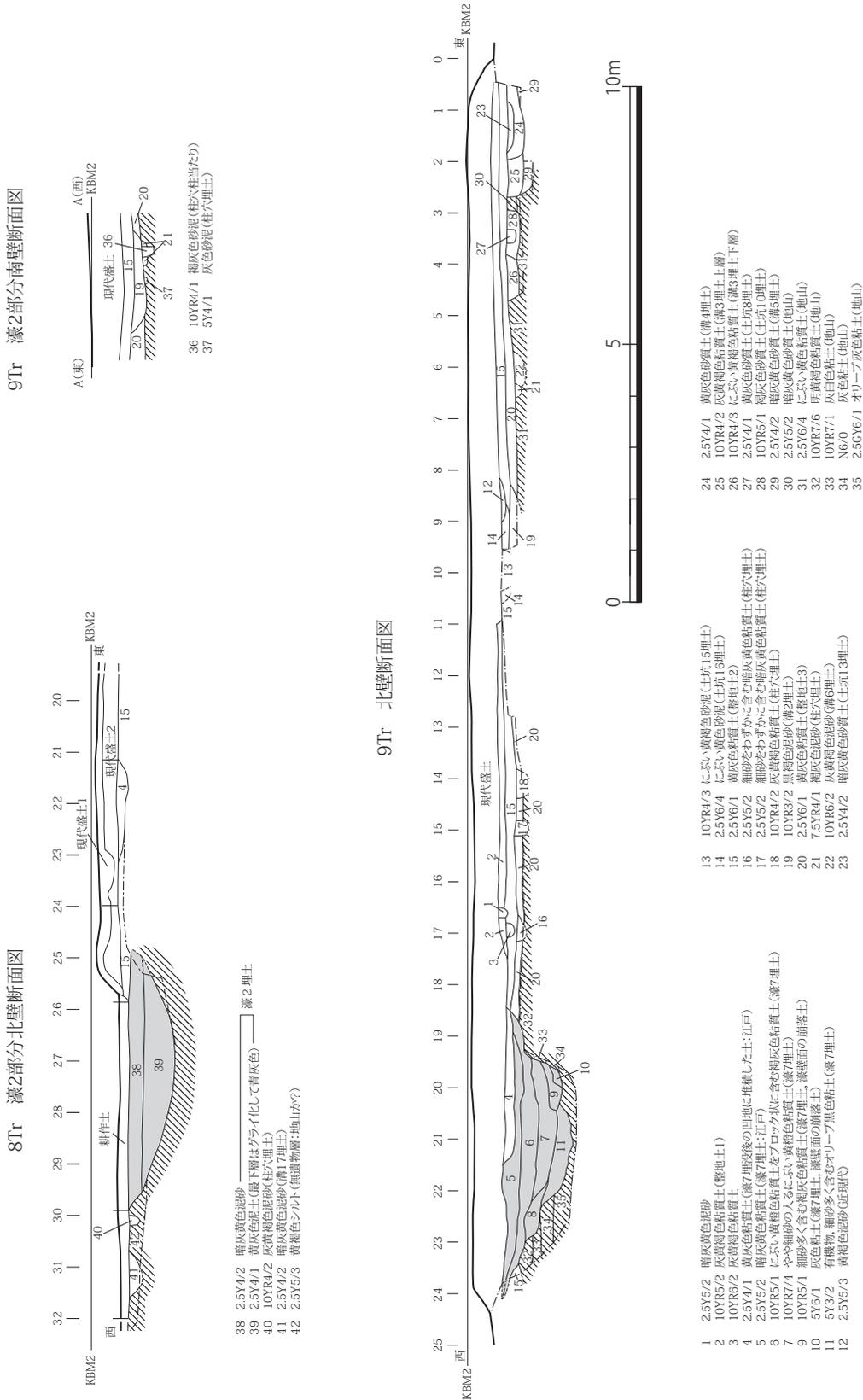


図5 羽束師菱川城跡関連の堀断面図 (馬瀬智光 2014年度の図86修正)

と考えられる堀3, 羽東師菱川城北堀SD195(689), 同東濠SD116(688)はそれぞれ, 幅6m・深さ1.2m, 幅7m・深さ1.9m, 幅8m・深さ1.5mである。幅は戦国時代の標準的な規模である3~6mを上回るものの, 深さは1~2mと標準的な規模である。桃山時代の溝SD176(686)は幅1.2m, 深さ0.15mである。

E 革嶋館跡(表6・図6・7)

中世桂川西岸域の土豪である革嶋氏の館跡であり, 近世まで存続するが濠は戦国時代まで遡る。近年の調査で時期, 幅, 深さのわかる事例が5例検出されている。5例とも深さは1mを超え, 幅も1例を除き3m以上の規模を有する。その1例も幅2.7mと3mに極めて近いことから, 堀といっても差し支えない。調査3の堀1

(476)は幅5m, 深さ1.9m, 堀2(477)は幅5m, 深さ2.0mである。残りの2例も幅約5mであり, 統一的な企画で堀が構築されたと考えられる。

F 大藪城跡・下久世構え跡(表7)

中世桂川西岸の土豪を中心とした居館である大藪城跡と下久世構え跡は東西に隣接した城館である。この二つの城館で共通するのは, 幅に比して深さが極めて浅いことである。後の耕作でかなりの削平を受けたとしても, 他の遺跡に比べて極めて浅い。

平安時代末~鎌倉時代に幅6m, 深さ0.8mのSD20(102)が検出されているが, 以後, 戦国時代まで幅3mを超えるものは検出されていない。戦国時代になると幅3mを超えるものが13例中7例を占めるよ

表6 革嶋館跡 時代別 堀(幅・深さ)分布状況

革嶋館跡

時代	溝・堀(幅)							時代別合計
	0~3m	3~6m	6~9m	9~12m	12~15m	15~18m	30m以上	
平安時代後期	0	0						0
平安時代末~鎌倉	0	0						0
室町時代前半	0	0						0
戦国時代	1	4						5
桃山時代	0	0						0
江戸時代	0	0						0
幅単位合計	1	4	0	0	0	0	0	5

※各項目最大数自身は含まない。(3~6m=3m以上, 6m未満)

革嶋館跡

時代	溝・堀(深さ)							時代別合計
	0~1m	1~2m	2~3m	3~4m	4~5m	5~6m	6m以上	
平安時代後期	0	0	0					0
平安時代末~鎌倉	0	0	0					0
室町時代前半	0	0	0					0
戦国時代	0	4	1					5
桃山時代	0	0	0					0
江戸時代	0	0	0					0
幅単位合計	0	4	1	0	0	0	0	5

※各項目最大数自身は含まない。(1~2m=1m以上, 2m未満)

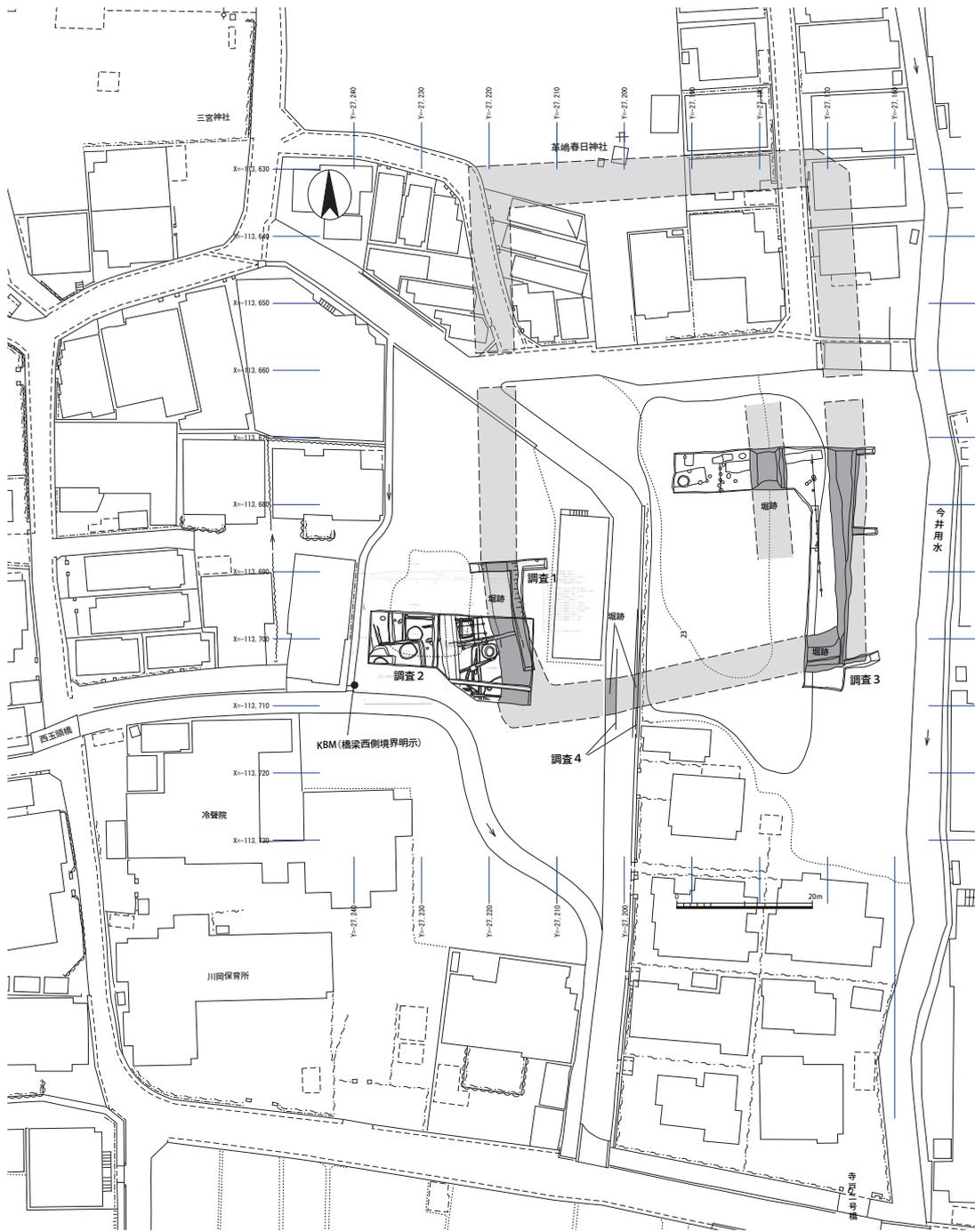


図6 葦嶋館跡 調査位置と復原図

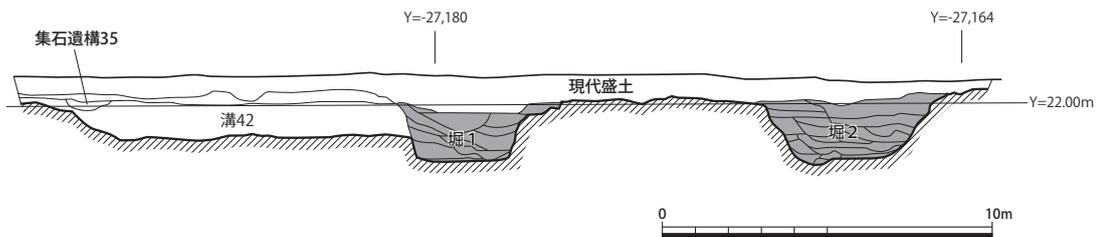


図7 葦嶋館跡 調査3検出堀断面図 (加納敬二・布川豊治・竜子正彦 2009年の図6修正)

表7 大藪城跡・下久世構え跡 時代別 堀（幅・深さ）分布状況

大藪城跡・下久世構え跡

時代	溝・堀（幅）							時代別合計
	0～3m	3～6m	6～9m	9～12m	12～15m	15～18m	30m以上	
平安時代後期	0	0	0	0	0	0		0
平安時代末～鎌倉	0	0	1	0	0	0		1
室町時代前半	2	0	0	0	0	0		2
戦国時代	6	5	1	0	0	1		13
桃山時代	1	0	0	0	0	0		1
江戸時代	0	1	0	0	0	0		1
幅単位合計	9	6	2	0	0	1	0	18

※各項目最大数自身は含まない。(3～6m=3m以上, 6m未満)

大藪城跡・下久世構え跡

時代	溝・堀（深さ）							時代別合計
	0～1m	1～2m	2～3m	3～4m	4～5m	5～6m	6m以上	
平安時代後期	0	0						0
平安時代末～鎌倉	1	0						1
室町時代前半	2	0						2
戦国時代	12	1						13
桃山時代	1	0						1
江戸時代	1	0						1
幅単位合計	17	1	0	0	0	0	0	18

※各項目最大数自身は含まない。(1～2m=1m以上, 2m未満)

表8 山科本願寺跡 時代別 堀（幅・深さ）分布状況

山科本願寺跡

時代	溝・堀（幅）							時代別合計
	0～3m	3～6m	6～9m	9～12m	12～15m	15～18m	30m以上	
平安時代後期	1							1
平安時代末～鎌倉								0
室町時代前半								0
戦国時代	7	4				1		12
桃山時代								0
江戸時代								0
幅単位合計	8	4	0	0	1	0	0	13

※各項目最大数自身は含まない。(3～6m=3m以上, 6m未満)

山科本願寺跡

時代	溝・堀（深さ）							時代別合計
	0～1m	1～2m	2～3m	3～4m	4～5m	5～6m	6m以上	
平安時代後期	1							1
平安時代末～鎌倉								0
室町時代前半								0
戦国時代	3	5	3			1		12
桃山時代								0
江戸時代								0
幅単位合計	4	5	3	0	1	0	0	13

※各項目最大数自身は含まない。(1～2m=1m以上, 2m未満)

うになる。特に大藪城の南北方向の堀状遺構であるSD40(520)は幅8.6m、深さ0.35m、同じく南北方向の堀状遺構SD40(515)は幅16mに達するが、深さは0.3mしかない。当該遺跡では桃山時代や江戸時代に相当する遺構も認められるが、深さ1mを超えるものは全18例で1例しか検出されていない。

G 山科本願寺跡(表8・図8～11)

浄土真宗中興の祖である蓮如上人が文明10年(1478)に創建した寺院である。数次の変遷を経て御本寺、内寺内、外寺内とそれに付随する複雑な折れをもつ土塁と堀を有する寺院であり、天文元年(1532)の焼き討ちにあうまで存続した。現代においても堀と土塁の一部は残存するが、調査事例が多いにも関わらず、堀の幅や深さを確認できることは少ない。これは堀が土地境界と一体となっており、堀の両側を確認することができないことも理由である。

山科本願寺が創建されるはるか以前に遡る平安時代後期の1例を除き、時期、幅、深さのわかる12例は戦国時代のものである。7例は幅3m未満、3例は3～6mの範囲に収まり、事例中最大のものは天文元年の落城時の原因でもあった「水落」付近の堀(268)で幅12m、深さ約4mを測る。また、山科本願寺跡の特徴は、幅は3m未満であっても深さが1m以上のものが4例あり、堀(濠)に近い構造を有していたことがわかる。

蓮如の隠居所であった山科本願寺南殿跡では内堀と土塁が現存している。現存土塁の延長上の3箇所を発掘調査が行われ

ており、平成14年度の堀1(343)は埋没過程から3時期の変遷が認められ、規模は幅5m、深さ2.2mに達する。

H 伏見城跡(表9・図12・13)

豊臣秀吉晩年の居城であり、徳川家康・秀忠・家光の3代が將軍宣下の儀式を執り行った桃山～江戸時代前期の武家の頭領の城郭である。南に宇治川、巨椋池を望み、大坂、京都、奈良、近江との交通の要衝であることから、古代より貴族の別業が営まれ、室町時代前期には伏見宮の屋敷が造られる他、三淵氏や三木氏の城館が築かれるなど、伏見城築城以前にも多くの城館が存在したと考えられる。伏見城も外堀の調査例は限られている他、深さのわかる事例は極めて少ない。

伏見城跡で時期、幅、深さの判明する事例は84例ある。平安時代後期1例は幅3m未満、深さ1m未満である。平安時代末～鎌倉時代にかけては4例あり、内2例は幅3mを超え、2015年に堤と共に検出された溝119(690)は幅6m、深さ0.9mを測る。ただし、この事例を含め、深さ1mを超えるものは戦国時代にならないと事例がない。戦国時代に属する9例の内、2例が幅3m以上であり、深さ2mを超えるものも出現する。伏見城の時期となる桃山時代は70例あるが、幅3m未満のものが50例、深さ1m未満のものが47例ある。しかし、前代までと大きく異なるのは、この時期の小規模な溝の内、石垣前面の雨落ち溝や道路側溝としての石組み溝など、石材で護岸した溝が多く認められることである。

一方、この遺跡が特殊であるのは、幅

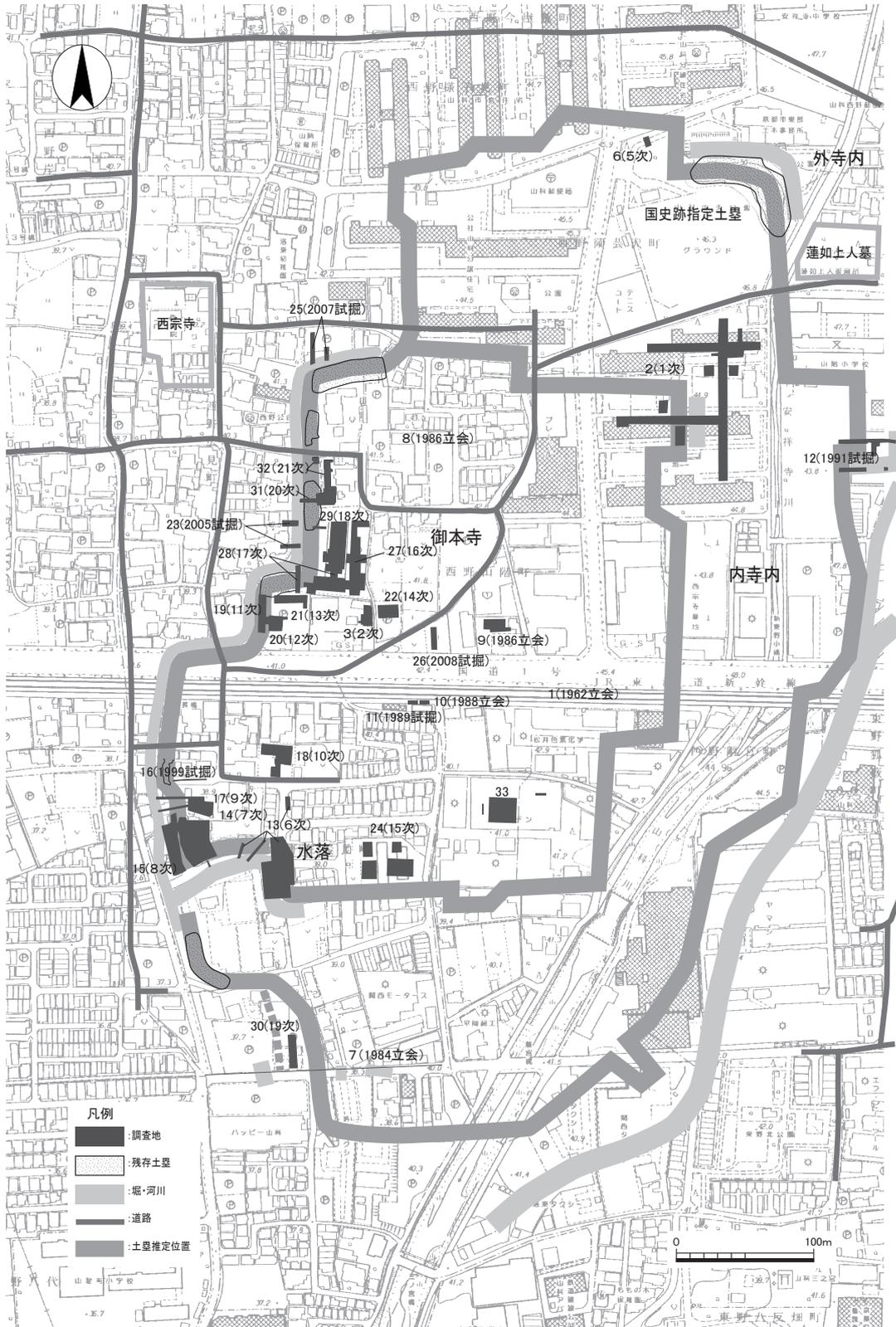


図8 山科本願寺跡と調査位置 (近藤章子 2015年の図6修正)

30m、深さ6mを超える規模の濠が出現することである。現存する「北堀」(122・145)は、平面E字形をしており、E字形の突出部3箇所にて調査が行われている。西端の突出部では石垣が良好に残っており、中央および東端の発掘調査で堀の規模が明らかになっている。突出部以外の堀幅は100m前後、突出部に至っては165mに達するところもある。深さは約14mを測る。

前代までの最大規模のものが山科本願寺跡のものであるが、隔絶した巨大化を遂

げている。

上記の事例から、遺跡ごとにかんがりの変異が認められることが分かった。北野遺跡では明確に門遺構に伴う屋敷の区画溝であり、報告者も堀としている遺構は、「堀(濠)」と認識する幅3m以上、深さ1m以上の規模を有していない。

鳥羽離宮跡では、洛中とその近郊が本格的に戦乱に巻き込まれる以前の平安時代後期に既に大型の堀状遺構が開削されている。事例の多くが天皇陵に伴うとはいえ、幅3m以上、深さ1m以上のものが

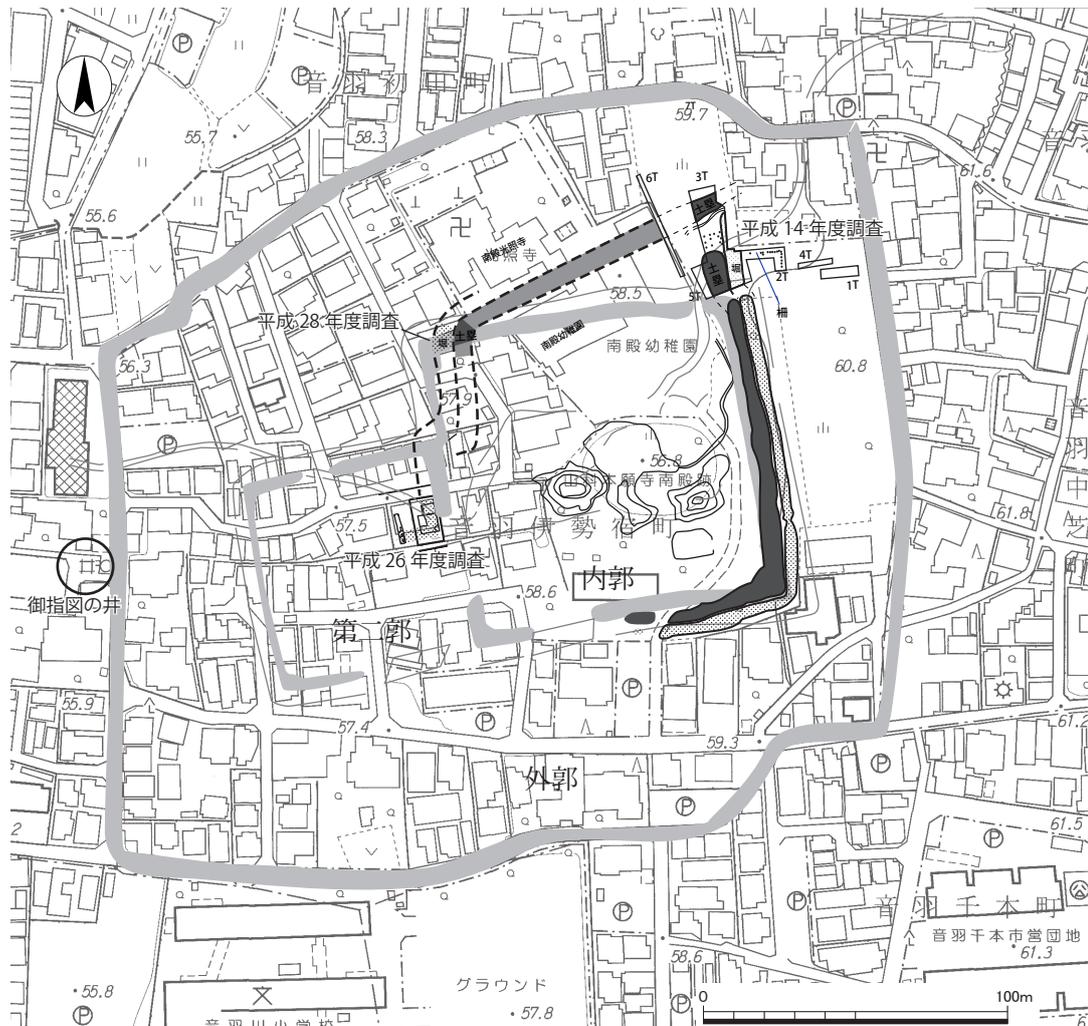


図9 山科本願寺跡南殿跡と調査位置 (赤松佳奈 2017年の図11修正)

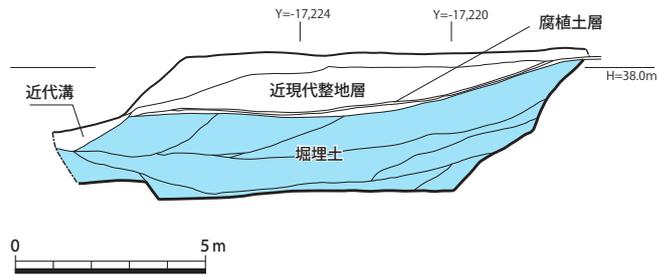


図10 山科本願寺跡 水落部分堀跡北壁断面図
(永田宗秀・近藤知子 1999年の図137修正)

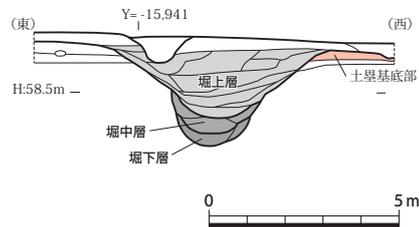


図11 山科本願寺跡南殿跡 堀1断面図
(出口 勲 2003年の図8修正)

表9 伏見城跡 時代別 堀(幅・深さ) 分布状況

時代	溝・堀(幅)							時代別合計
	0~3m	3~6m	6~9m	9~12m	12~15m	15~18m	30m以上	
平安時代後期	1							1
平安時代末~鎌倉	2	1	1					4
室町時代前半								0
戦国時代	7	2						9
桃山時代	50	4		2		2	12	70
江戸時代								0
幅単位合計	60	7	1	2	0	2	12	84

※各項目最大数自身は含まない。(3~6m=3m以上, 6m未満)

時代	溝・堀(深さ)							時代別合計
	0~1m	1~2m	2~3m	3~4m	4~5m	5~6m	6m以上	
平安時代後期	1							1
平安時代末~鎌倉	4							4
室町時代前半								0
戦国時代	7	1	1					9
桃山時代	47	6	1	1	2	1	12	70
江戸時代								0
幅単位合計	59	7	2	1	2	1	12	84

※各項目最大数自身は含まない。(1~2m=1m以上, 2m未満)

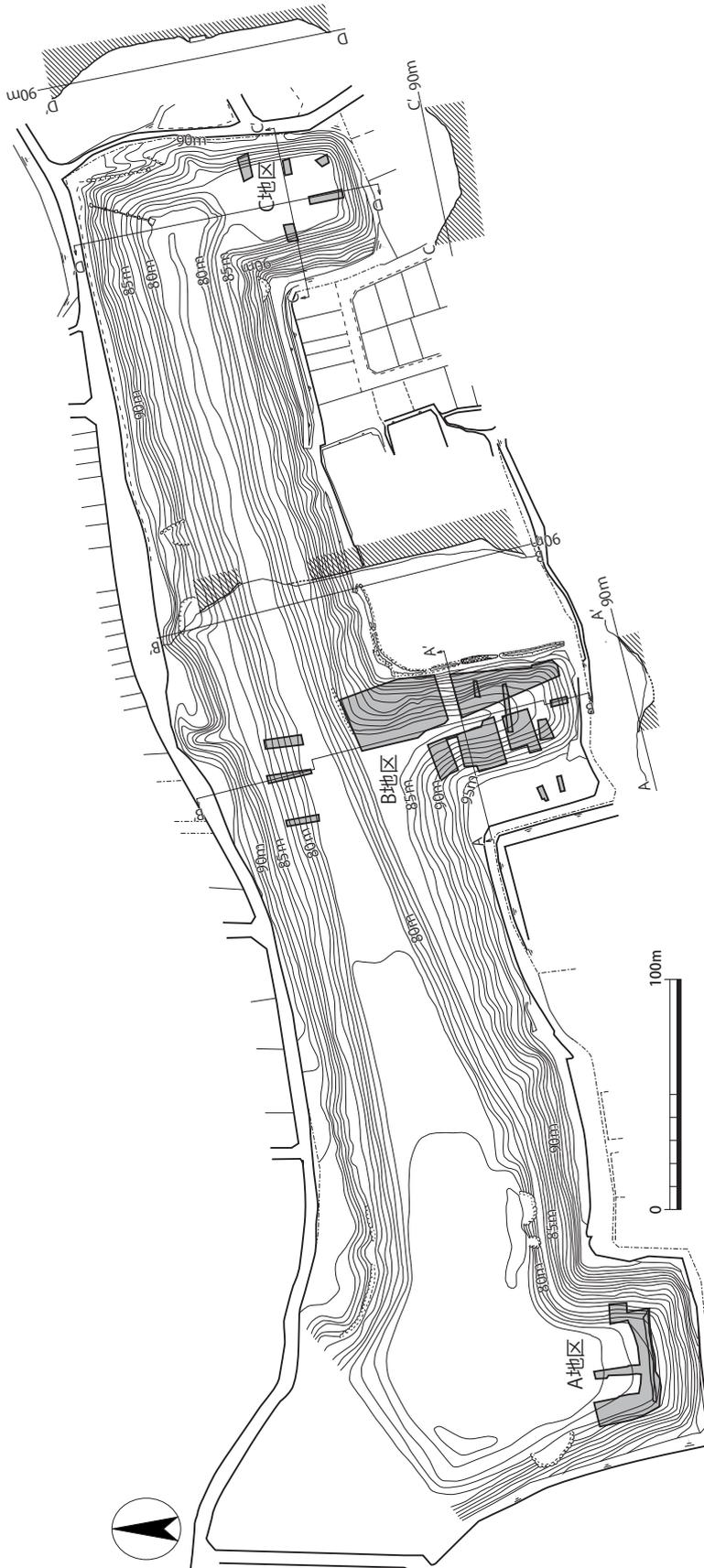


図13 伏見城跡 北堀調査 平・断面図 (星野猷二・三木善則・江谷 寛 1990年の図25修正)

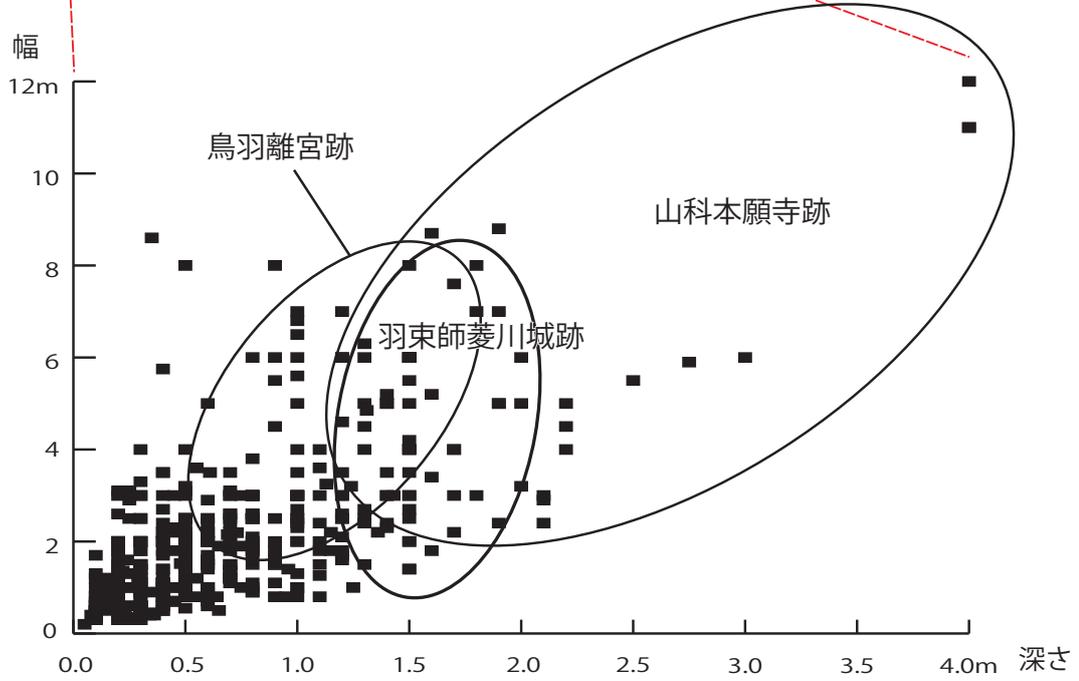
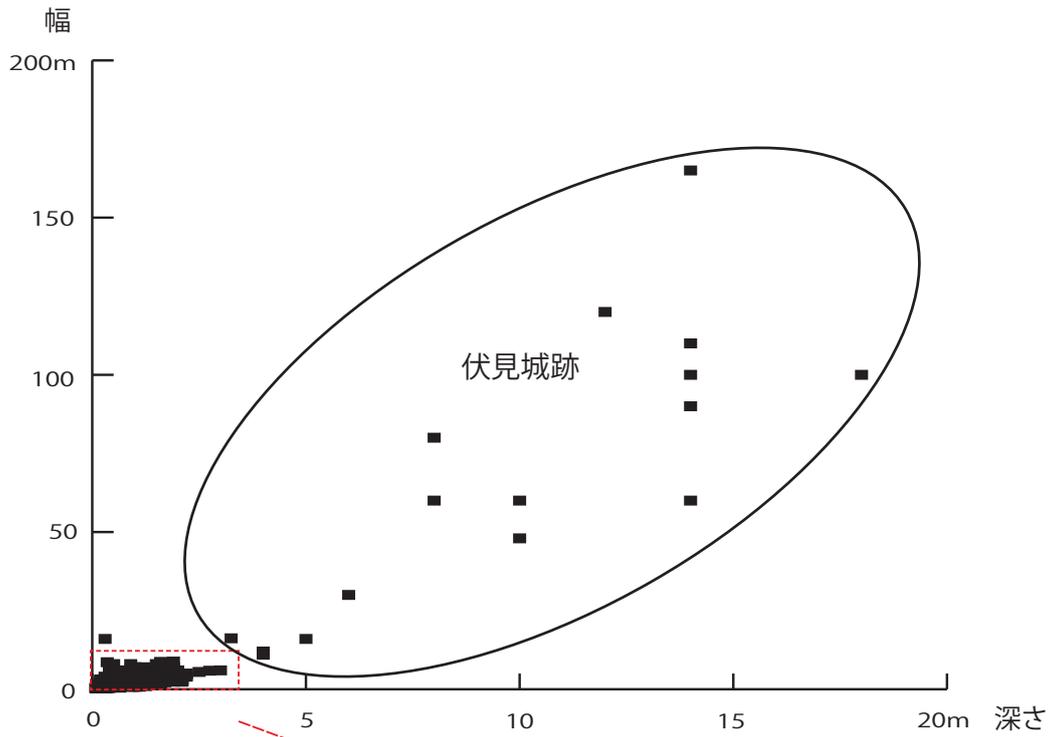


表10 洛外城館跡 堀（溝）幅・深さ相関表

50%を占めており、戦国時代の67%に次いで高い比率を示している。

天龍寺とその塔頭群を中核とする嵯峨遺跡においては、幅3m、深さ1mを超える遺構のピークが戦国時代ではなく、嵯峨遺跡の創建期である室町時代前半にある。幅3m以上の事例は室町時代前半に約38%であるのに対し、戦国時代では約23%に低下する。ただし、深さ1mを超えるものは室町時代前半が約38%、戦国時代が約46%とあまり大きな変動はない。

羽束師菱川城跡、草嶋館跡、大藪遺跡・下久世構え跡、山科本願寺跡は堀状遺構のピークが戦国時代にある。

一方、伏見城跡は戦国時代で幅3m、深さ1mを超える事例が約22%、桃山時代でも約29%と大きな変動はないが、他遺跡では見ることでできない幅30m、深さ6mを超える事例が17%を占めるだけでなく、3m以上の堀に限ると、幅30m以上の堀が占める割合は60%に達する。また、大型の堀は先述の北堀のように、石垣を伴う事例が多い。しかも伏見城跡に関しては、幅や深さの全貌を明らかにできる事例が少ないため、今後も巨大な堀の事例は増える傾向がある。

5. 考察

以上の個別事例や全体の傾向を踏まえたうえで、堀及び区画溝の幅と深さの関係性を見たときに、伏見城跡に伴う堀は他の堀と著しく隔絶した規模を有していることがわかる。伏見城以前で最大の規模を誇る山科本願寺跡や大藪城跡でさえ、表10上段ではその特徴を見出すことはできな

い。表10下段においては、山科本願寺跡に伴う堀がそれ以外のものよりも巨大であることがわかるものの、伏見城跡とはスケールがはるかに違うことが認識できる。伏見城跡については、遺構一覧表にあるとおり、幅10m・深さ3m未満のものも認められるが、表10上段にあるとおり、巨大な堀状遺構の事例は全て伏見城跡に伴うものである。

山科本願寺跡の分布域は、サンプルの大半が幅4m未満・深さ1.5m未満の範囲に集中する中では突出した規模を有している。

幅3m以上、深さ1m以上の遺構は平安時代後期に既に存在するが、爆発的に急増するのは戦国時代である。この規模の遺構が戦乱の最中に急増することは、この規模を堀（濠）と認識することが有効であることを示している。特に幅9m以上や12m以上の大型の堀が出現するのは戦国時代であり、深さが4mを超えるものも戦国時代である。

桃山時代になると、幅3m以上、深さ1m以上のものは急減する。これは、前著でも明らかにしたとおり、為政者の数次にわたる破城令の影響や戦乱そのものが収束していく中での出来事と考えられる。一方で伏見城跡だけが突出しており、洛中の聚楽第と並び、豊臣秀吉や徳川将軍による権力の集中度を示していると考えられる。

6. おわりに

今回の論考を考えるきっかけは二つあった。一つは京都府が中心となり府下の市町村とともに進めた京都府中世城館跡

調査がある。もう一つは、近年、足利義昭と織田信長との関係を見直す動きが文献史学を中心に進められていることに対し、考古資料から何が言えるのかということである。もし、戦国時代や桃山時代に古代以前のように十分な文字資料がなかった場合、遺構からどのようなことが言えるのかということである。

『京都府中世城館跡調査報告書』で扱った洛中と、今回の洛外での分析結果を通して、堀（濠）という特定の遺構を中心にみていくと、戦国時代に堀（濠）が急増すること、織田信長の築造した旧二条城跡や本能寺城跡は、石垣を要所で用いることと規模の巨大化の点でそれまでの城館と大きく異なることが分かった。さらに豊臣秀吉が洛中で築いた聚楽第跡と洛外で築いた伏見城跡は、隔絶した規模の堀を有するようになる。

以上、堀（濠）という遺構に着目する限りは、足利将軍家や細川京兆家等の築く城館と織田信長の築く城館では、規模と構造の両面で大きく異なる。さらに豊臣秀吉の築城した二城（聚楽第跡・伏見城跡）は、隔絶した規模を有しており、権力の集中度を表現していると思われることが可能である。

今回の調査では徳川幕府が畿内支配の拠点として築いた淀城跡を十分取り上げることができなかったことである。将来の課題としたい。

註

- 1) 馬瀬智光「室町から戦国時代京都の様相—洛中の堀を中心に—」『京都府中世城館跡調査報告書』第4冊（—山城編2—），京都府教育委員会，

2015年，375～385頁。

- 2) 久野雅司（編）『足利義昭』，戎光祥出版，2015年。
- 3) 註1文献，375頁。
- 4) 一丈=十尺=2.98445m。
以下の計算式を参考として使用。
辻 純一「条坊制とその復元」『平安京提要』，（財団法人古代学協会・古代学研究所，1994年，104頁。
- 5) 山下正男「京都市内およびその近辺の中世城館—復原図と関連資料—」『京都大学人文科学研究所調査報告』第35号，京都大学人文科学研究所，1986年。
- 6) 「中世京都の堀について」『研究紀要』第2号，財団法人京都市埋蔵文化財研究所，1995年，61～88頁。
- 7) 註5文献，1頁。
- 8) 註6文献。
- 9) 馬瀬智光「洛中・洛外の城館について～築城主体の類型化から～」『第12回京都市埋蔵文化財研究会発表資料集—京都の城・構・館—』，京都市埋蔵文化財研究会，2004年，40～56頁。
- 10) 註1文献。

参考文献

- 赤松佳奈「山科本願寺南殿跡」『京都市内遺跡発掘調査報告』平成28年度，京都市文化市民局，2017年，30～39頁。
- 馬瀬智光「洛中・洛外の城館について～築城主体の類型化から～」『第12回京都市埋蔵文化財研究会発表資料集—京都の城・構・館—』，京都市埋蔵文化財研究会，2004年，40～56頁。
- 馬瀬智光「京の城」『京都市文化財ボックス』第20集，京都市，2006年。
- 馬瀬智光「長岡京左京四條三坊十三・十四町・四坊三・四町・羽東師菱川城跡」『京都市内遺跡試掘調査報告』（京都市文化市民局，2014年，78～88頁）
- 馬瀬智光「室町から戦国時代京都の様相—洛中の堀

- を中心に一』『京都府中世城館跡調査報告書』第4冊（一山城編2一），京都府教育委員会，2015年，375～385頁。
- 馬瀬智光・新田和央『天下人の城』京都市文化財ブックス 第31集，京都市，2017年。
- 柏田有香「北野廃寺17次調査」『京都市内遺跡発掘調査報告』平成22年度，京都市文化市民局，2011年，134～156頁。
- 加納敬二・布川豊治・竜子正彦『革嶋館跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2009-6，財団法人京都市埋蔵文化財研究所，2009年。
- 近藤章子「山科本願寺跡（1）」『京都市内遺跡発掘調査報告』平成26年度，京都市文化市民局，2015年，375～385頁。
- 出口 勲「山科本願寺南殿跡」『京都市内遺跡発掘調査概報』平成14年度，京都市文化市民局，2003年，1～20頁。
- 永田宗秀・近藤知子「山科本願寺跡1」『平成9年度京都市埋蔵文化財調査概要』，財団法人京都市埋蔵文化財研究所，1999年，157～161頁。
- 星野猷二・三木善則・江谷 寛『伏見城跡発掘調査報告一伏見北堀公園整備工事に伴う事前発掘調査一』，伏見城研究会・京都市建設局公園建設課，1990年。
- 星野猷二・三木善則・江谷 寛『伏見城跡発掘調査報告一伏見北堀公園整備工事に伴う事前発掘調査一』，伏見城研究会，1989年。
- 辻 純一「条坊制とその復元」『平安京提要』，財団法人古代学協会・古代学研究所，1994年。
- 久野雅司（編）『足利義昭』，戎光祥出版，2015年。
- 山下正男『京都市内およびその近辺の中世城郭一復原図と関連資料一』京都大学人文科学研究所調査報告 第35号，京都大学人文科学研究所，1986年。
- 山本雅和「中世京都の堀について」『研究紀要』第2号，財団法人京都市埋蔵文化財研究所，1995年，61～88頁。
- 山本雅和「洛中の構」『関西近世考古学研究 22』，関西近世考古学研究会，2014年。

うませ ともみつ
馬瀬 智光（文化財保護課 埋蔵文化財係 係長）

表11 堀・溝 一覧表(1)

幅・深さ 番号	堀番号	時期	遺跡名	遺構名	性格	堀幅 (m)	検出深度 (m)	報告書名	発行年
1	154	平安末 ～鎌倉	仁和寺境内	SD21	仁和寺の僧坊北側の築地SC20の北辺から1.7m離れた位置にある東西方向の溝。	0.20	0.05	『仁和寺境内発掘調査報告-御室会館建設に伴う調査-』(『京都市埋蔵文化財研究所調査報告第9冊』)	1990/6/30
2	25	室町時代 前期	大藪遺跡 (大藪城跡)	SD2	中世大藪集落の南北溝?	0.30	0.10	『大藪遺跡発掘調査概要 昭和55年度』	1981/3/31
3	28	室町 時代	鳥羽離宮跡	SD2	礎石群を取り囲み南北方向から東に折れ曲がる。	0.30	0.30	『第70次発掘調査』『鳥羽離宮跡発掘調査概要 昭和56年度』	1982/3/31
4	388	江戸時代	淀城跡	石組溝5	淀城内の屋敷地の石組12の西側に接する石組溝。	0.30	0.25	『長岡京跡・淀城跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2006-3』)	2006/6/30
5	390	江戸時代	淀城跡	石組溝24	淀城内の屋敷地の石組12の西側に接する石組溝で暗渠排水。	0.30	0.20	『長岡京跡・淀城跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2006-3』)	2006/6/30
6	561	中世	鳥羽離宮跡	SD4601	中世竹田の東西溝。	0.30	0.20	『鳥羽離宮跡46次調査』『昭和53年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	2011/12/15
7	567	平安末～ 鎌倉	勝持寺旧境内	溝12	勝持寺旧境内平坦面4南半部の西辺掘形堀部で検出した南北方向の溝。	0.30	0.30	『勝持寺旧境内』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2011-5』)	2012/3/20
8	583	江戸時代	淀城跡	溝17(石製トラフを伴う)	淀城中堀(本丸東側)の石垣29に通じる石製トラフを有する暗渠排水。	0.30	0.25	『長岡京跡・淀城跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2011-7』)	2012/3/30
9	674	室町時代 前期	史跡・名勝嵐山	溝13	臨川寺に関連する遺構。門基壇推定範囲北端に取り付く東西溝。溝17と並行。	0.30	0.10	『史跡・名勝 嵐山』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2014-7』)	2015/3/31
10	685	平安末～ 鎌倉	羽束師菱川城跡	SD207	羽束師菱川城内の南北方向の素掘り溝。	0.30	0.25	『羽束師菱川城跡・長岡京跡(長岡京跡第561次調査)』	2015/5/26
11	381	室町時代	白河街区跡	溝255	溝428との心々間距離が1.5m。室町時代の南北区画溝で、白河街区の南北区画東側築地の推定ラインのうち側に位置し、宅地内の溝の可能性。	0.35	0.25	『白河街区跡・岡崎遺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2005-4』)	2005/9/30
12	512	室町時代 前半以前	北野廃寺	SD20A	平安京北限北側に展開する斜行溝。	0.35	0.10	『北野廃寺発掘調査報告書』	2010/9/30
13	127	平安時代 後期	尊勝寺跡	SD4	尊勝寺境内の東西方向の溝で、SD5と並行。心々距離は約3m。	0.40	0.10	『尊勝寺跡』『昭和61年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1989/3/31
14	329	桃山時代	伏見城跡	SD325	南北道路西側溝。	0.40	0.20	『伏見城跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2002-11』)	2002/10/31
15	340	室町時代	草木町遺跡	溝31	中世草木町の農道側溝。溝60とは1.6m前後の間隔で並行する。	0.40	0.10	『草木町遺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2001-13』)	2003/2/28
16	341	室町時代	草木町遺跡	溝60	中世草木町の農道側溝。溝31とは1.6m前後の間隔で並行する。	0.40	0.10	『草木町遺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2001-13』)	2003/2/28
17	370	室町時代 前期	石見城跡・長岡京跡	溝2053	初期石見城の区画溝?溝2050に合流し、建物9の雨落ち溝の可能性あり。	0.40	0.20	『長岡京石京一条四坊十五町跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2004-15』)	2005/3/31
18	429	戦国時代	伏見城跡(以前)	溝1731	1区溝1660と3区溝940で東を画された集落内を南北に走る小型の溝。	0.40	0.30	『伏見城跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-2』)	2007/3/31
19	435	桃山時代	伏見城跡	溝484	伏見城城下町造営時の「段差」遺構の上段段差下部で検出した南北方向の溝74の延長。	0.40	0.20	『伏見城跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-27』)	2007/3/31
20	447	戦国時代	伏見城跡	溝23	室町時代後期の溝。4区溝249とつながるか?1区の同時期の区画溝と同じ方位をとる。	0.40	0.20	『伏見城跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2007-15』)	2008/3/12
21	469	室町時代	常盤仲之町遺跡、広隆寺求刑代	溝39	太秦中世寺院等の区画溝。	0.40	0.20	『常盤仲之町遺跡・広隆寺旧境内』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2008-3』)	2008/9/29
22	480	室町時代	法住寺殿跡・六波羅政庁跡・方広寺跡	溝3-120a・溝195	法住寺殿期の南北道路を踏襲する道路西側溝。溝223と対になる。溝の西側に門2がある。	0.40	0.20	『法住寺殿跡・六波羅政庁跡・方広寺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2009-8』)	2010/1/29
23	494	桃山時代	伏見城跡・桃陵遺跡	溝SD1003	伏見城内の安土桃山時代の小規模な区画溝。	0.40	0.30	『伏見城跡・桃陵遺跡発掘調査報告書-(仮称)公務員宿舍伏見住宅整備事業に伴う-』	2010/3/20
24	570	室町時代 前期	勝持寺旧境内	溝240	勝持寺旧境内の基壇建物の北東側を画する雨落ち溝の可能性。L字状に屈曲する。平坦面5の南部で検出した南北方向の溝。土坑230・363を繋ぐ。	0.40	0.20	『勝持寺旧境内』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2011-5』)	2012/3/20
25	576	平安末～ 鎌倉	常盤仲之町遺跡	溝143	広隆寺旧境内の子院に関連する区画溝もしくは、旧城北街道側溝。	0.40	0.36	『常盤仲之町遺跡・常盤東ノ町古墳群』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2011-8』)	2012/3/30
26	662	桃山時代	伏見城跡	SD403	伏見城武家屋敷街の南北方向の区画溝。掘立柱建物4と6の区画溝。浅野但馬守もしくはその西隣の屋敷地の可能性(鍋島信濃守の屋敷地の可能性)。	0.40	0.08	『伏見城跡-集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-』(『イビソク京都市内遺跡調査報告』第9冊)	2014/12/26
27	691	平安末～ 鎌倉	伏見城跡	溝147	中世集落に伴う南北溝119、堤135に関連する内溝か?	0.40	0.34	『伏見城跡・桃陵遺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2015-2』)	2015/9/30
28	162	平安時代 後期	尊勝寺跡	SD34	尊勝寺跡に関連する南北区画溝か?	0.45	0.20	『尊勝寺跡』『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1991/12/5
29	380	室町時代	白河街区跡	溝428(幅3)	溝255との心々間距離が1.5m。室町時代の南北区画溝で、白河街区の南北区画東側築地の推定ライン付近。	0.45	0.35	『白河街区跡・岡崎遺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2005-4』)	2005/9/30
30	513	室町時代 前期	北野廃寺	SD20B	平安京北限北側に展開する斜行溝。	0.45	0.10	『北野廃寺発掘調査報告書』	2010/9/30

表11 堀・溝 一覧表(2)

幅・深さ 番号	堀番 号	時期	遺跡名	遺構名	性格	堀幅 (m)	検出深度 (m)	報告書名	発行年
31	24	室町時代 前期	大藪遺跡 (大藪城跡)	SD1	中世大藪集落の南北溝?	0.50	0.20	『大藪遺跡発掘調査概要 昭和55 年度』	1981/3/31
32	32	平安時代 後期～ 鎌倉時代	鳥羽離宮跡	SD6	鳥羽離宮期の東西溝。	0.50	0.10	『第70次発掘調査』『鳥羽離宮跡発 掘調査概要 昭和56年度』	1982/3/31
33	225	平安末～ 鎌倉	上里遺跡	溝2	上里遺跡の東西方向の溝で建物1の南側を 流れる区画溝。	0.50	0.40	『上里遺跡』『平成4年度 京都市埋 蔵文化財調査概要』	1995/9/1
34	282	桃山時代	伏見城跡	SD1	伏見城武家屋敷・上板橋通と伊達街道との 交差点で、石垣1と並行する石組溝。	0.50	0.40	『伏見城跡』『平成10年度 京都市 埋蔵文化財調査概要』	2000/3/31
35	284	桃山時代	伏見城跡	SD1	伏見城武家屋敷。上板橋通沿いの北端の 溝。石垣1と並行する東西方向の石組溝。	0.50	0.30	『伏見城跡』『平成10年度 京都市 埋蔵文化財調査概要』	2000/3/31
36	295	桃山時代	伏見城跡	SD2	伏見城武家屋敷。上板橋通沿いの北端の 溝。SD1の下層にあり、東西方向の溝。2区 の続き。	0.50	0.20	『伏見城跡』『平成10年度 京都市 埋蔵文化財調査概要』	2000/3/31
37	428	桃山時代	伏見城跡 (以前)	溝1357	1区溝1660と3区溝940で東を画された集 落内を南北に走る小型の溝。	0.50	0.20	『伏見城跡』(『京都市埋蔵文化財研 究所発掘調査報告 2006-27』)	2007/3/31
38	431	桃山時代	伏見城跡	溝74	伏見城下町造営時の「段差」遺構の上段 段差下部で検出した南北方向の溝。	0.50	0.20	『伏見城跡』(『京都市埋蔵文化財研 究所発掘調査報告 2006-27』)	2007/3/31
39	433	桃山時代	伏見城跡	溝185	伏見城下町造営時の「段差」間の平坦面 で溝102に並行して検出した南北方向の溝	0.50	0.10	『伏見城跡』(『京都市埋蔵文化財研 究所発掘調査報告 2006-27』)	2007/3/31
40	434	桃山時代	伏見城跡	溝469	伏見城下町造営時の「段差」遺構の上段 段差下部で検出した南北方向の溝74の延 長。	0.50	0.10	『伏見城跡』(『京都市埋蔵文化財研 究所発掘調査報告 2006-27』)	2007/3/31
41	467	平安末～ 鎌倉	常盤仲之町遺 跡、広隆寺求 刑代	溝172	太秦中世寺院等の区画溝。	0.50	0.15	『常盤仲之町遺跡・広隆寺旧境内』 (『京都市埋蔵文化財研究所発掘調 査報告2008-3』)	2008/9/29
42	490	桃山時代	伏見城跡・ 桃陵遺跡	溝SD182	伏見城内の安土桃山時代の小規模な区画 溝。	0.50	0.65	『伏見城跡・桃陵遺跡発掘調査報告 書- (仮称) 公務員宿舍伏見住宅整 備事業に伴う-』	2010/3/20
43	496	桃山時代	伏見城跡・ 桃陵遺跡	溝SD1002	伏見城内の徳川期伏見城の石垣直下の雨落 ち溝。	0.50	0.20	『伏見城跡・桃陵遺跡発掘調査報告 書- (仮称) 公務員宿舍伏見住宅整 備事業に伴う-』	2010/3/20
44	508	平安末～ 鎌倉	常盤仲之町遺 跡、広隆寺旧 境内	溝1	常盤仲之町遺跡の東西方向の区画溝。	0.50	0.20	『常盤仲之町遺跡・広隆寺旧境内』 (『京都市埋蔵文化財研究所発掘調 査報告2010-4』)	2010/8/31
45	601	平安末～ 鎌倉	中久世遺跡	SD6	SB11,SB12,SB10, SA1で構成される屋敷地 の北限を限る東西区画溝。	0.50	0.20	『中久世遺跡』『昭和54年度 京都 市埋蔵文化財調査概要』	2012/3/31
46	610	室町時代	常盤仲之町遺 跡、一ノ井遺 跡	溝1-11	溝1-30廃絶後の耕作溝の可能性。	0.50	0.10	『常盤仲之町遺跡・一ノ井遺跡』 (『京都市埋蔵文化財研究所発掘調 査報告 2012-11』)	2013/1/31
47	621	平安時代 後期	法住寺殿跡	溝706	法住寺殿内を東西方向に走る区画溝で、こ の溝の北側に柱列778が並行する。	0.50	0.10	『法住寺殿跡』(『京都市埋蔵文化財 研究所発掘調査報告 2012-10』)	2013/1/31
48	634	桃山時代	伏見城跡	溝6・土 塁15	伏見城伊達屋敷の北限の総構え土塁15の 内溝。	0.50	0.30	『伏見城跡』(『京都市埋蔵文化財研 究所発掘調査報告 2012-17』)	2013/3/31
49	656	中世前半	鶏冠井清水 遺跡	溝1	中世の鶏冠井清水遺跡の耕作もしくは区画 等に関する溝か?	0.50	0.20	『長岡京左京三条三坊十町跡・鶏冠 井清水遺跡』(『京都市埋蔵文化財 研究所発掘調査報告 2014-3』)	2014/8/29
50	672	室町時代 前期	史跡・名勝 嵐山	溝1	臨川寺に関連する遺構。北端で東に屈曲し て止まる石組溝。1975年調査の石組溝の 延長。	0.50	0.20	『史跡・名勝 嵐山』(『京都市埋蔵 文化財研究所発掘調査報告 2014-7』)	2015/3/31
51	124	桃山時代	伏見城跡	SD1 (南北 石組溝)	伏見城下武家屋敷に伴う石組溝で、石垣・ 犬走りとセット。	0.55	0.50	『伏見城跡 (FD32)』『京都市内遺跡 試掘立会調査概要 昭和63年度』	1989/3/31
52	660	桃山時代	伏見城跡	SD230	伏見城武家屋敷街の東西方向の区画溝。堀 形には最大径26cmの割石か平坦面を溝内 壁に沿うように配置されている。浅野但馬 守もしくはその西隣の屋敷地の可能性 (鍋 島信濃守の屋敷地の可能性)。	0.56	0.23	『伏見城跡-集合住宅建設に伴う埋 蔵文化財発掘調査報告書-』(『イビ ソク京都市内遺跡調査報告』第9 輯)	2014/12/26
53	36	平安時代 後期～ 鎌倉時代	鳥羽離宮跡	SD1	鳥羽離宮期の南北溝、北大路に取り付く か。	0.60	0.30	『第74次発掘調査』『鳥羽離宮跡発 掘調査概要 昭和56年度』	1982/3/31
54	53	平安末～ 鎌倉	鳥羽離宮跡	SD42	白河天皇陵に近接する東西溝。	0.60	0.25	『第91次調査』『鳥羽離宮跡発掘調 査概要 昭和58年度』	1984/3/31
55	140	室町時代 前期	鳥羽離宮跡	SD1	鴨川の溢流対策の溝か?	0.60	0.20	『第133次調査』『鳥羽離宮跡発掘調 査概要 平成元年度』	1990/3/11
56	195	平安時代 後期	下鳥羽遺跡	北側の溝 (SD4)	下鳥羽の平安時代末の集落に関連する溝?	0.60	0.30	『下鳥羽遺跡 (92TB325)』『京都市 内遺跡立会調査概要 平成5年度』	1994/3/31
57	216	平安末～ 鎌倉	南春日町遺跡	溝1	大原野神社を支える神職団の敷地の東西 溝。建物1の北側を走る。	0.60	0.60	『南春日町遺跡第22～24次調査』 『平成3年度 京都市埋蔵文化財調 査概要』	1995/3/31
58	262	平安末～ 鎌倉	下三橋遺跡	SD27	下三橋の平安時代末～鎌倉時代初頭の屋敷 地の南限を示す東西方向の溝。	0.60	0.10	『下三橋遺跡』『平成8年度 京都市 埋蔵文化財調査概要』	1998/3/31
59	286	桃山時代	伏見城跡	SD1	伏見城武家屋敷。上板橋通沿いの北端の 溝。石垣1と並行する東西方向の石組溝。2 区の続き。	0.60	0.30	『伏見城跡』『平成10年度 京都市 埋蔵文化財調査概要』	2000/3/31
60	288	桃山時代	伏見城跡	SD1	伏見城武家屋敷。上板橋通沿いの北端の 溝。石垣1と並行する東西方向の石組溝。2 区の続き。	0.60	0.30	『伏見城跡』『平成10年度 京都市 埋蔵文化財調査概要』	2000/3/31
61	293	桃山時代	伏見城跡	SD1・1期	伏見城武家屋敷。上板橋通沿いの北端の 溝。石垣1と並行する東西方向の溝。2区 の続き。犬走り1に対応。石組なし。	0.60	0.30	『伏見城跡』『平成10年度 京都市 埋蔵文化財調査概要』	2000/3/31

表11 堀・溝 一覧表(3)

幅・深さ 番号	堀番 号	時期	遺跡名	遺構名	性格	堀幅 (m)	検出深度 (m)	報告書名	発行年
62	317	平安時代 後期	六波羅政庁跡 方広寺跡	溝276	六波羅政庁に関連する東西溝か?	0.60	0.15	『六波羅政庁跡』『平成11年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	2002/6/30
63	376	室町時代	白河街区跡	溝342	室町時代の南北区画溝で、柵1と並行する。	0.60	0.30	『白河街区跡・岡崎遺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2005-4』)	2005/9/30
64	414	室町時代	長岡京跡	溝11	長岡京跡東京極大路を踏襲する区画溝	0.60	0.15	『長岡京左京三条四坊十三町跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-17』)	2007/1/31
65	432	桃山時代	伏見城跡	溝102	伏見城下町造営時の「段差」間の平坦面で検出した南北方向の溝	0.60	0.10	『伏見城跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-27』)	2007/3/31
66	436	桃山時代	伏見城跡	溝483	伏見城下町造営時の2区下段「段差」の南延長上にある。	0.60	0.20	『伏見城跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-27』)	2007/3/31
67	445	桃山時代	伏見城跡	溝215	伏見城期の区画溝。南部町通に直行する。	0.60	0.30	『伏見城跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2007-15』)	2008/3/12
68	446	戦国時代	伏見城跡	溝249	室町時代後期の溝。南側の1区溝1731と関連する。	0.60	0.30	『伏見城跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2007-15』)	2008/3/12
69	475	室町時代 前期	南禅寺境内	石組溝	南禅寺境内の参道に伴う東西方向の石組溝	0.60	0.40	『史跡 南禅寺境内』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2009-2』)	2009/6/30
70	491	桃山時代	伏見城跡・ 桃陵遺跡	溝SD333	伏見城内の安土桃山時代の小規模な区画溝。	0.60	0.10	『伏見城跡・桃陵遺跡発掘調査報告書 - (仮称)公務員宿舍伏見住宅整備事業に伴う-』	2010/3/20
71	524	桃山時代	大藪城跡	SD341	大藪城内の溝。SD151とSD255の合流部の角に沿って検出。建物の建つ微高地から溝(堀)に至る傾斜変換点に掘られている。	0.60	0.40	『大藪遺跡・大藪城跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2010-9』)	2010/11/30
72	525	室町時代	大藪城跡	SD5	大藪城内の東西方向の溝。SL3に並行している。	0.60	0.40	『大藪遺跡・大藪城跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2010-9』)	2010/11/30
73	562	桃山時代	松ヶ崎庵寺	東西方向 溝SD31	松ヶ崎庵寺内の東西区画溝。	0.60	0.20	『松ヶ崎庵寺』『昭和53年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	2011/12/15
74	572	室町時代 前期	勝持寺旧境内	溝342	勝持寺旧境内の平坦面5東部で検出した東西方向の溝。掘り込み地業である地業3と対となる一つの建物の基礎をなしていた可能性。	0.60	0.30	『勝持寺旧境内』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2011-5』)	2012/3/20
75	658	中世前半	鶏冠井清水遺跡	溝3	中世の鶏冠井清水遺跡の耕作もしくは区画等に関する溝か?	0.60	0.25	『長岡京左京三条三坊十町跡・鶏冠井清水遺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2014-3』)	2014/8/29
76	353	桃山時代	伏見城跡	溝1	武家屋敷西側の区画溝。	0.65	0.10	『伏見城跡・御香宮庵寺跡・金森出雲遺跡 No.57』(『京都市内遺跡試掘調査概報 平成15年度』)	2004/3/31
77	68	平安末～ 鎌倉	鳥羽離宮跡	SD2	鳥羽離宮田中殿金剛心院跡で、南北方向の区画溝。SD3との間隔は8mある。	0.70	0.20	『鳥羽離宮跡 第89次調査』『昭和58年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1985/3/31
78	69	平安末～ 鎌倉	鳥羽離宮跡	SD3	鳥羽離宮田中殿金剛心院跡で、南北方向の区画溝。SD2との間隔は8mある。	0.70	0.20	『鳥羽離宮跡 第89次調査』『昭和58年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1985/3/31
79	76	平安末～ 鎌倉	法住寺跡	SD04	法住寺の寺域及び最勝光院の推定地にあたる場所でSD03の北側にほぼ並行する形で検出された小規模な溝。	0.70	0.10	『法住寺跡』『昭和58年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1985/3/31
80	103	平安時代 後期	法住寺殿跡	溝 (南北溝)	蓮華王院(二町四方)の東西を二分する位置にある南北溝。	0.70	0.20	『法住寺殿跡(RT26)』『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和62年度』	1988/3/31
81	194	平安時代 後期	下鳥羽遺跡	南側の溝 (SD3)	下鳥羽の平安時代末の集落に関連する溝?	0.70	0.44	『下鳥羽遺跡(92TB325)』『京都市内遺跡立会調査概報 平成5年度』	1994/3/31
82	312	戦国時代	六波羅政庁跡、 方広寺跡	南北溝 162	妙法院に関連する南北溝か?	0.70	0.15	『六波羅政庁跡』『平成11年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	2002/6/30
83	334	室町時代	鹿苑寺庭園	SD47	鹿苑寺の門跡柱列に伴う区画溝か?	0.70	0.20	『特別史跡・特別名勝 鹿苑寺(金剛寺)庭園』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2001-9』)	2003/1/31
84	392	平安末～ 鎌倉	常盤仲之町遺跡・ 上ノ段町遺跡	溝109	中世常盤付近の南北区画溝?	0.70	0.40	『常盤仲之町遺跡・上ノ段町遺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-6』)	2006/7/31
85	430	戦国時代	伏見城跡(以前)	溝2006	1区溝1660と3区溝940で東を画された集落内を東西に走る溝。	0.70	0.20	『伏見城跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-27』)	2007/3/31
86	444	桃山時代	伏見城跡	石組側溝	伏見城武家屋敷街の部分で、大和大路の東側溝。佐竹氏館跡?	0.70	0.60	『伏見城跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2007-10』)	2008/1/31
87	448	伏見城期	伏見城跡	溝1	伏見城期の区画溝で、1区溝1453につながる。	0.70	0.20	『伏見城跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2007-15』)	2008/3/12
88	486	桃山～江 戸初期	法住寺殿跡・ 六波羅政庁跡・ 方広寺跡	溝43	方広寺南門東の整地にあたって、谷部の湧水処理のために一時的に穿たれた東西溝。	0.70	0.45	『法住寺殿跡・六波羅政庁跡・方広寺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2009-8』)	2010/1/29
89	487	桃山～江 戸初期	法住寺殿跡・ 六波羅政庁跡・ 方広寺跡	溝92	方広寺南門東の整地にあたって、谷部の湧水処理のために一時的に穿たれた南北溝。	0.70	0.45	『法住寺殿跡・六波羅政庁跡・方広寺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2009-8』)	2010/1/29
90	555	鎌倉時代	白河北殿跡	SD55	白河北殿地域の東西方向に走る溝を大量に含み溝。	0.70	0.15	『白河北殿跡』『昭和55年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	2011/9/30
91	557	室町時代 ～安土桃 山時代	鳥羽離宮跡	SD3	中世竹田の南北方向の区画溝。	0.70	0.15	『鳥羽離宮跡 57次調査』『昭和55年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	2011/9/30

表11 堀・溝 一覧表(4)

幅・深さ 番号	堀番号	時期	遺跡名	遺構名	性格	堀幅 (m)	検出深度 (m)	報告書名	発行年
92	571	鎌倉時代 ～ 室町時代	勝持寺旧境内	溝258	勝持寺旧境内旧境内の平坦面5上の西辺掘形に添って検出した東西方向の溝。平坦面掘形裾部の排水機能を担う。	0.70	0.30	『勝持寺旧境内』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2011-5』)	2012/3/20
93	597	鎌倉時代 ～ 室町時代	北野麩寺	SD25	中世北野の建物を囲う区画溝。東西方向から南北方向に逆L字状に屈曲する北西コーナーを検出。	0.70	0.20	『北野麩寺1』『昭和54年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	2012/3/31
94	644	室町時代 後期	妙法院境内・ 法住寺殿跡	溝260	仏光寺に関連する溝。調査区中央の段の底部に沿って作られた境界を意識した溝で、西面に石組がある。段の上には、この溝に並行して溝240がある。	0.70	0.20	『妙法院境内・法住寺殿跡』	2013/5/31
95	10	平安時代 後期	最勝寺跡	南側溝	最勝寺北築地内溝?	0.80	0.10	『最勝寺跡推定地第Ⅲ次発掘調査概要』『六勝寺跡 京都市埋蔵文化財年次報告 1976-II[平安時代後期の寺院跡]』	1977/3/31
96	14	室町時代	臨川寺旧境内	SD8	臨川寺旧境内の東西方向の溝。	0.80	0.50	『臨川寺旧境内遺跡発掘調査報告』(『京都市埋蔵文化財研究所調査報告IV』)	1979/3/20
97	20	安土桃山 時代	伏見城跡	溝-1	東西方向の石組溝。段上には長さ50cm程度の自然石。掘り幅240cm、肩口から段上まで45cm。	0.80	1.00	『伏見城跡 文化庁国庫補助事業による発掘調査の概要 昭和54年度』	1980/3/31
98	44	平安時代 後期	鳥羽離宮跡	SD-2	鳥羽離宮東殿跡の東西区画溝。	0.80	0.15	『鳥羽離宮跡第77次調査』『昭和57年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1984/3/1
99	104	15世紀末 ～1532年 まで	山科本願寺跡	石組溝 (東西溝)	山科本願寺御本寺内部の東西溝。	0.80	0.60	『山科本願寺跡(61年度RT10)』『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和62年度』	1988/3/31
100	123	15世紀末 ～1532年 まで	山科本願寺跡	東西石組 遺構	山科本願寺御本寺の区画溝、元年度のRT21に続く溝。	0.80	0.60	『山科本願寺跡(RT5)』『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和63年度』	1989/3/31
101	141	15世紀末 ～1532年 まで	山科本願寺跡	石組東西 溝	山科本願寺御本寺の区画溝。	0.80	0.90	『山科本願寺跡(RT21)』『京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成元年度』	1990/3/11
102	177	14世紀 中頃	珍皇寺旧境内	溝SD5	平安時代再興の珍皇寺に関する区画溝。	0.80	0.64	『珍皇寺旧境内(92RT240)』『京都市内遺跡立会調査概報 平成4年度』	1993/3/31
103	203	鎌倉時代	南春日町遺跡	溝2・石 組遺構	大原野神社を支える神職集団の敷地内で、石組遺構をコ字状に囲う溝。	0.80	0.50	『南春日町遺跡第17・19次調査』『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1994/9/10
104	283	桃山時代	伏見城跡	SD2	伏見城武家屋敷・上板橋通と伊達街道との交差点で、石垣2と並行する石組溝。	0.80	0.50	『伏見城跡』『平成10年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	2000/3/31
105	338	鎌倉時代	草木町遺跡	溝139	中世草木町集落の屋敷境の溝? 西端で南に折れ曲がる。	0.80	0.30	『草木町遺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2001-13』)	2003/2/28
106	350	平安時代 後期	慈照寺(銀閣 寺)旧境内	溝SD23	慈照寺成立前の石積SX22に伴う南北方向の溝。	0.80	0.20	『史跡 慈照寺(銀閣寺)旧境内』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2003-1』)	2003/7/31
107	369	14世紀 後半～ 15世紀 初頃	石見城跡・長 岡京跡	溝2050	初期石見城の土塁内溝か?	0.80	0.40	『長岡京右京一条四坊十五町跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2004-15』)	2005/3/31
108	459	1480年代 ～16世紀 前半	慈照寺(銀閣 寺)旧境内	溝8(石組 溝)	慈照寺旧境内の石組みの区画溝。	0.80	0.95	『史跡 慈照寺(銀閣寺)旧境内』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2007-16』)	2008/3/31
109	463	鎌倉時代	常盤仲之町遺 跡、広隆寺求 刑代	溝35	太秦中世寺院等の区画溝。	0.80	1.10	『常盤仲之町遺跡・広隆寺旧境内』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2008-3』)	2008/9/29
110	478	平安時代 後期	法住寺殿跡・ 六波羅政庁跡 ・方広寺跡	溝3-149・ 溝270	法住寺北殿に関連する南北泥の西側溝、溝150と対になる。溝の西側に門1がある。	0.80	0.50	『法住寺殿跡・六波羅政庁跡・方広寺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2009-8』)	2010/1/29
111	479	平安時代 後期	法住寺殿跡・ 六波羅政庁跡 ・方広寺跡	溝150	法住寺北殿に関連する南北泥の西側溝、溝270と対になる。	0.80	0.55	『法住寺殿跡・六波羅政庁跡・方広寺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2009-8』)	2010/1/29
112	503	平安時代 後期	常盤仲之町遺 跡	溝500	常盤仲之町遺跡の東西区画施設で、高まり272-1、石組790、石敷784を伴う。	0.80	0.40	『常盤仲之町遺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2009-16』)	2010/3/31
113	537	鎌倉時代 ～ 室町時代	常盤仲之町遺 跡	溝2-47	中世常盤の南北区画溝で、調査区南端より北へ約8mの地点で東に東西溝が取り付く。	0.80	0.50	『常盤仲之町遺跡・常盤東/町古墳群』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2010-15』)	2011/3/31
114	566	室町時代	勝持寺旧境内	溝6	勝持寺旧境内平坦面2西辺掘形にそって検出した南北方向の溝。	0.80	0.10	『勝持寺旧境内』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2011-5』)	2012/3/20
115	630	中世	白河街区跡	SD162	白河街区の溝で、SK60に取り付く斜行溝。SD123と直行して交わる可能性。	0.80	0.40	『京都大学病院構内AJ16区の発掘調査』『京都大学構内遺跡調査研究年報 2010年度』	2013/3/29
116	641	室町時代 後期	史跡・名勝 嵐山	溝136	調査地北側で検出した室町時代後期の溝は、整地層より深く開削され、区画溝もしくは堀と考えられる。	0.80	0.20	『史跡・名勝 嵐山』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012-22』)	2013/5/31
117	706	室町時代 後半	一ノ井遺跡	溝147	一ノ井遺跡の中世区画溝。L字状に屈曲する。	0.86	0.17	『一ノ井遺跡発掘調査報告書』	2016/3/31
118	4	中世	上久世遺跡	溝状遺構 -2	上久世遺跡で北西方向～南東方向の溝。	0.90	0.20	『上久世遺跡発掘調査報告』	1976/3/31
119	27	室町時代 ～	鳥羽離宮跡	SD2	中世竹田の区画溝、SD11に先行する。	0.90	0.60	『第63次発掘調査』『鳥羽離宮跡発掘調査概要 昭和55年度』	1981/3/31

表11 堀・溝 一覧表(5)

幅・深さ 番号	堀番 号	時期	遺跡名	遺構名	性格	堀幅 (m)	検出深度 (m)	報告書名	発行年
120	245	室町時代	法金剛院境内	SD8	法金剛院境内西端に近いの南北区画溝。	0.90	0.40	『法金剛院境内』『平成7年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1997/3/31
121	246	室町時代	法金剛院境内	SD16	法金剛院境内西端に近いの南北区画溝。	0.90	0.50	『法金剛院境内』『平成7年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1997/3/31
122	248	室町時代末	上ノ段町遺跡	溝1-2	上ノ段町の東西区画溝。溝1-1に先行する。	0.90	0.80	『上ノ段町遺跡』『平成7年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1997/3/31
123	251	Ⅸ期古	北野遺跡	SD1	道祖大路末西築地関連溝。	0.90	0.30	『北野遺跡・北野廃寺2(97RH65)』『京都市内遺跡立会調査概報 平成9年度』	1998/3/31
124	255	13~14世紀	法住寺殿跡	東西溝	法住寺殿跡に関連する区画溝	0.90	0.80	『法住寺殿跡・六波羅政庁跡(96RT512)』『京都市内遺跡立会調査概報 平成9年度』	1998/3/31
125	291	桃山時代	伏見城跡	SD2	伏見城武家屋敷。上板橋通沿いの北端の溝。SD1の下層にあり、東西方向の溝。2区の続き。	0.90	0.50	『伏見城跡』『平成10年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	2000/3/31
126	294	桃山時代	伏見城跡	SD1・2期	伏見城武家屋敷。上板橋通沿いの北端の溝。右垣1と並行する東西方向の溝。2区の続き。犬走り2に対応。石組なし。	0.90	0.40	『伏見城跡』『平成10年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	2000/3/31
127	316	14世紀	六波羅政庁跡方広寺跡	溝281	六波羅政庁に関連する東西溝か？	0.90	0.30	『六波羅政庁跡』『平成11年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	2002/6/30
128	458	16世紀後半	慈照寺(銀閣寺)旧境内	溝33・堀30・小堀35・37	慈照寺旧境内の区画溝で小堀36を伴う。溝8に連続する。	0.90	0.35	『史跡 慈照寺(銀閣寺)旧境内』『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2007-16』	2008/3/31
129	505	平安時代後期	常盤仲之町遺跡	溝412	常盤仲之町遺跡の東西区画施設で、高まり272-1、石組790、石敷784を伴う。	0.90	0.30	『常盤仲之町遺跡』『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2009-16』	2010/3/31
130	514	平安時代末~鎌倉時代	龍安寺御陵ノ下町遺跡	溝5A	龍安寺御陵ノ下町遺跡の南北方向の溝。前代の溝5Bを踏襲しているならば、南北道路の側溝の可能性。	0.90	0.20	『龍安寺御陵ノ下町遺跡』『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2010-5』	2010/9/30
131	564	13世紀中頃~後半	白河街区跡・吉田上大路町遺跡	溝157	白河街区北半にある南北方向の区画溝で、東側に集石土坑が連続する。平安時代後期の福勝院に関連する遺構か？	0.90	0.20	『白河街区跡・吉田上大路町遺跡』『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2011-3』	2012/1/31
132	573	鎌倉時代~室町時代	勝持寺旧境内	溝90	勝持寺旧境内の5区北東部にあるL字状に屈曲する溝。	0.90	0.50	『勝持寺旧境内』『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2011-5』	2012/3/20
133	635	伏見城期	伏見城跡	溝9・溝11	整地層13の下層の水切り溝。	0.90	0.30	『伏見城跡』『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012-17』	2013/3/31
134	6	桃山時代~江戸時代初期	六波羅政庁跡	SD2	方広寺周辺の豊臣秀吉関連の造成に伴う溝？	1.00	1.25	『六波羅政庁跡-東山郵便局新築敷地埋蔵文化財発掘調査報告』	1977/3/30
135	7	桃山時代~江戸時代初期	六波羅政庁跡	SD3	方広寺周辺の豊臣秀吉関連の造成に伴う溝？	1.00	0.75	『六波羅政庁跡-東山郵便局新築敷地埋蔵文化財発掘調査報告』	1977/3/30
136	15	桃山時代~江戸時代前期	臨川寺旧境内	SD04	臨川寺旧境内の南北方向の溝。	1.00	0.80	『臨川寺旧境内遺跡発掘調査報告』『京都市埋蔵文化財研究所調査報告IV』	1979/3/20
137	33	平安時代後期~鎌倉時代	鳥羽離宮跡	SD7	鳥羽離宮期の東北から南西に向かう溝。	1.00	0.20	『第70次発掘調査』『鳥羽離宮跡発掘調査概要 昭和56年度』	1982/3/31
138	41	室町時代	北野廃寺	SD04	北野廃寺の範囲内の中世南北方向の溝。溝の西方が屋敷群。	1.00	0.60	『北野廃寺発掘調査報告書』『京都市埋蔵文化財研究所調査報告第7冊』	1983/3/25
139	51	安土桃山時代~江戸時代初期	伏見城跡	石組溝	伏見城跡。桃山町伊賀で検出された東西方向の石組溝。	1.00	0.40	『伏見城跡(2)』『昭和57年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1984/3/1
140	65	平安時代後期~鎌倉時代	鳥羽離宮跡	SD3	鳥羽離宮東殿に関連する東西方向の溝。	1.00	0.50	『鳥羽離宮跡 第88次調査』『昭和58年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1985/3/31
141	135	平安時代後期	鳥羽離宮跡	SD2	鳥羽離宮造営時の区画溝(東西溝)か？	1.00	0.30	『第130次調査』『鳥羽離宮跡発掘調査概報 平成元年度』	1990/3/11
142	136	鎌倉時代	鳥羽離宮跡	SD6a(南北方向の堀)	在地土臺の屋敷の東南隅を区画する堀。	1.00	0.30	『第130次調査』『鳥羽離宮跡発掘調査概報 平成元年度』	1990/3/11
143	137	室町時代前半	鳥羽離宮跡	SD6b(南北方向の堀)	在地土臺の屋敷の東南隅を区画する堀。	1.00	0.60	『第130次調査』『鳥羽離宮跡発掘調査概報 平成元年度』	1990/3/11
144	139	室町時代前半	鳥羽離宮跡	SD7b(東西方向の堀)	在地土臺の屋敷の東南隅を区画する堀。	1.00	0.50	『第130次調査』『鳥羽離宮跡発掘調査概報 平成元年度』	1990/3/11
145	152	平安時代後期~中世	仁和寺境内	SD17	仁和寺の僧坊北側の土臺SA15の北側を東西に走る溝。	1.00	0.20	『仁和寺境内発掘調査報告-御室会館建設に伴う調査』『京都市埋蔵文化財研究所調査報告第9冊』	1990/6/30
146	178	平安時代後期	深草坊町遺跡	南北溝	平安時代前期~後期頃の寺院関連施設の溝。南で途切れる。	1.00	0.20	『深草坊町遺跡(92FD79)』『京都市内遺跡立会調査概報 平成4年度』	1993/3/31
147	252	Ⅸ期古	北野遺跡	SD2	道祖大路末西築地関連溝。	1.00	0.40	『北野遺跡・北野廃寺2(97RH65)』『京都市内遺跡立会調査概報 平成9年度』	1998/3/31

表11 堀・溝 一覧表(6)

幅・深さ 番号	堀番 号	時期	遺跡名	遺構名	性格	堀幅 (m)	検出深度 (m)	報告書名	発行年
148	325	13世紀 前半～ 中頃	下三橋遺跡	溝590	下三橋の鎌倉時代集落に関連する舌状に張り出す溝。南北方向から東西方向に屈曲する。建物5を取り囲むようにあり、その外側に建物3と南北欄がある。	1.00	0.50	『下三橋遺跡』『平成11年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	2002/6/30
149	377	12世紀 後半代	白河街区跡	溝121	白河街区に関連する南北区画溝。	1.00	0.25	『白河街区跡・岡崎遺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2005-4』)	2005/9/30
150	397	鎌倉時代 後半	常盤仲之町遺跡・上ノ段町遺跡	溝13	中世常盤付近の南北区画溝?	1.00	0.10	『常盤仲之町遺跡・上ノ段町遺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2006-6』)	2006/7/31
151	398	平安時代 後期～ 鎌倉時代	中臣遺跡	溝211	中世中臣の南北区画溝。	1.00	1.00	『中臣遺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2006-8』)	2006/9/30
152	423	13世紀 中葉	吉田本町遺跡	溝状遺構SD14	吉田本町の南北溝。	1.00	1.00	『京都大学本部構内AU25区の発掘調査』『京都大学構内遺跡調査研究年報2002年度』	2007/3/30
153	461	16世紀 後半	慈照寺(銀閣寺)旧境内	溝34・小堤35・37	慈照寺旧境内の区画溝で小堤35・37を伴う。	1.00	0.25	『史跡 慈照寺(銀閣寺)旧境内』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2007-16』)	2008/3/31
154	466	鎌倉時代	常盤仲之町遺跡・広隆寺旧境内	溝171	太秦中世寺院等の区画溝。	1.00	0.15	『常盤仲之町遺跡・広隆寺旧境内』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2008-3』)	2008/9/29
155	468	鎌倉時代	常盤仲之町遺跡・広隆寺旧境内	溝453	太秦中世寺院等の区画溝。	1.00	0.60	『常盤仲之町遺跡・広隆寺旧境内』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2008-3』)	2008/9/29
156	473	平安時代 後期	村ノ内町遺跡・常盤仲之町遺跡	溝1	中世城北街道に伴う側溝か? 2008年5-1区の溝453に関連するか?	1.00	0.15	『常盤東ノ町古墳群・村ノ内町遺跡・常盤仲之町遺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2008-20』)	2009/3/31
157	547	平安時代 ～ 鎌倉時代	得長寿院跡	東西溝SD8	得長寿院跡の東西区画溝。	1.00	0.30	『得長寿院跡』『昭和52年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	2011/9/30
158	565	13世紀頃	白河街区跡・吉田上大路町遺跡	溝166	白河街区北半にある南北方向の区画溝。溝の途切れた部分で柱穴が集中する。平安時代後期の福勝院に関連する遺構か?	1.00	0.45	『白河街区跡・吉田上大路町遺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2011-3』)	2012/1/31
159	586	室町時代 後期	六波羅蜜寺境内	溝99	六波羅蜜寺に関連する区画溝。門1の南東で検出された東西方向の溝で、門1の手前で南に屈曲する。	1.00	0.20	『六波羅蜜寺境内・六波羅政庁跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2011-6』)	2012/3/30
160	593	室町時代	鳥羽離宮跡	SD1	中世竹田の南北区画溝。	1.00	0.60	『鳥羽離宮跡51次調査』『昭和54年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	2012/3/31
161	615	室町時代 後期	常盤仲之町遺跡・一ノ井遺跡	溝3-17	溝3-18と合流する南北溝。広隆寺子院の区画溝か?	1.00	0.20	『常盤仲之町遺跡・一ノ井遺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2012-11』)	2013/1/31
162	629	中世	白河街区跡	SD123	白河街区の溝で、SK60に取り付き斜行溝。SD162と直行して交わる可能性。	1.00	0.45	『京都大学病院構内AJ16区の発掘調査』『京都大学構内遺跡調査研究年報2010年度』	2013/3/29
163	659	平安時代 後期以降	常盤東ノ町古墳群	溝138	太秦一ノ井町の東西の区画溝。	1.00	0.20	『常盤東ノ町古墳群』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2014-4』)	2014/8/31
164	673	室町時代 前期	史跡・名勝 嵐山	溝3	臨川寺に関連する遺構。溝1に並行する区画溝。	1.00	0.50	『史跡・名勝 嵐山』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2014-7』)	2015/3/31
165	677	室町時代 後期	史跡・名勝 嵐山	溝9	臨川寺に関連する遺構。南北溝で石列4及び5の西側に位置し、これら石列に関連する建物の西限を画する溝。	1.00	0.20	『史跡・名勝 嵐山』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2014-7』)	2015/3/31
166	8	平安時代 後期	得長寿院跡	南北溝	得長寿院跡の築地堀に伴う溝?	1.10	0.30	『得長寿院跡推定地発掘調査概要』『六勝寺跡 京都市埋蔵文化財年次報告1976-III平安時代後期の寺院跡』	1977/3/31
167	17	平安時代 後期～ 鎌倉時代	尊勝寺跡・最勝寺跡	SD60	築地関連遺構か? SD67との心々距離は5.1m。	1.10	0.30	『六勝寺跡発掘調査概要1978』	1979/3/31
168	193	平安時代 後期	六波羅政庁跡	南北溝(西)	平氏六波羅邸に関連する南北溝?	1.10	0.40	『六波羅政庁跡(93RT225)』『京都市内遺跡立会調査概要 平成5年度』	1994/3/31
169	253	Ⅳ期新	北野遺跡	SD3	道祖大路末西築地関連溝。	1.10	0.70	『北野遺跡・北野庵寺2(97RH65)』『京都市内遺跡立会調査概要 平成9年度』	1998/3/31
170	297	京都Ⅳ期 中段階	仁和寺院家跡	溝270	3区南端で溝443となる。仁和寺の子院の一つである浄光院に関連する区画溝。	1.10	0.80	『仁和寺院家跡(花園宮ノ上町遺跡)』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概要2001-1』)	2002/1/31
171	413	平安時代 後期	長岡京跡	溝10	長岡京跡東京極大路を踏襲する区画溝。	1.10	0.15	『長岡京左京三条四坊十三町跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2006-17』)	2007/1/31
172	449	伏見城期	伏見城跡	溝8	伏見城期の区画溝で、1区溝1472につながる。	1.10	0.40	『伏見城跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2007-15』)	2008/3/12
173	497	安土桃山 時代	伏見城跡・桃陵遺跡	溝SD2011	伏見城内の安土桃山時代の小規模な区画溝。	1.10	0.15	『伏見城跡・桃陵遺跡発掘調査報告書-(仮称)公務員宿舎伏見住宅整備事業に伴う-』	2010/3/20
174	511	室町時代 後半	北野庵寺	SD40	平安京北限北側に展開する南北溝。	1.10	0.14	『北野庵寺発掘調査報告書』	2010/9/30

表11 堀・溝 一覧表(7)

幅・深さ 番号	堀番 号	時期	遺跡名	遺構名	性格	堀幅 (m)	検出深度 (m)	報告書名	発行年
175	516	室町時代 後期～ 江戸時代 初頭	大藪城跡	SD41	大藪城の南北方向の溝で、SD40の東肩沿いの下部で検出。	1.10	0.50	『大藪遺跡・大藪城跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2010-9』)	2010/11/30
176	535	鎌倉時代 ～ 室町時代	常盤仲之町遺跡	溝1-150	中世常盤の北東から南北方向の区画溝。	1.10	0.50	『常盤仲之町遺跡・常盤東ノ町古墳群』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2010-15』)	2011/3/31
177	542	室町時代 後半～	常盤仲之町遺跡	溝3-150	中世常盤の溝。南北方向から西に直角に屈折する。溝3-149の埋没後に掘削されている。	1.10	0.40	『常盤仲之町遺跡・常盤東ノ町古墳群』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2010-15』)	2011/3/31
178	602	中世以降	大藪遺跡	逆L字形の溝	調査区南東部で検出された大藪遺跡の区画溝。逆L字形にクランクする。	1.10	0.50	『大藪遺跡』『昭和54年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	2012/3/31
179	676	室町時代 前期	史跡・名勝嵐山	溝21	臨川寺に関連する遺構。南北方向から東西方向にL形に屈曲する溝	1.10	0.30	『史跡・名勝 嵐山』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2014-7』)	2015/3/31
180	681	13世紀代	吉田二本松町遺跡	SD5	吉田二本松町遺跡の南北方向の溝	1.10	0.40	『京都大学吉田南橋内AN21区の発掘調査』『京都大学構内遺跡調査研究年報 2013年度』	2015/3/31
181	699	京都VIII 中～新	法勝寺跡	溝42	法勝寺の北限溝もしくは中世岡崎村の村境の溝	1.10	0.90	『岡崎遺跡・法勝寺跡 No.14』『京都市内遺跡試掘調査報告 平成27年度』	2016/3/31
182	71	室町時代	一乗寺松田町遺跡	矩形を呈する溝	一乗寺里ノ西町の中世区画溝。南北から東西方向に直角に折れ曲がる。北肩と西肩に長径20～30cmの川原石及び花崗岩で護岸されている。	1.20	0.30	『一乗寺松田町遺跡隣接地』『昭和58年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1985/3/31
183	243	平安時代 後期	法金剛院境内	SD5	法金剛院境内の南北区画溝。	1.20	0.30	『法金剛院境内』『平成7年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1997/3/31
184	254	V期中	北野遺跡	SD4	道祖大路末西築地関連溝	1.20	0.70	『北野遺跡・北野廃寺2(97RH65)』『京都市内遺跡立会調査概報 平成9年度』	1998/3/31
185	285	桃山時代	伏見城跡	SD2	伏見城武家屋敷。上板橋通沿いの北端の溝。SD1の下層にあり、東西方向の溝。	1.20	0.70	『伏見城跡』『平成10年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	2000/3/31
186	289	桃山時代	伏見城跡	SD2	伏見城武家屋敷。上板橋通沿いの北端の溝。SD1の下層にあり、東西方向の溝。2区の続き。	1.20	0.70	『伏見城跡』『平成10年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	2000/3/31
187	339	室町時代	草木町遺跡	溝36	柵1・2を伴う中世草木町集落の境の溝?	1.20	0.10	『草木町遺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2001-13』)	2003/2/28
188	441	15世紀 前半～ 16世紀 初頭	大藪遺跡・下久世構え跡	溝176	下久世構え跡の居館の北限を示す堀。	1.20	0.15	『大藪遺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-32』)	2007/3/31
189	493	安土桃山 時代	伏見城跡・桃陵遺跡	溝SD1002	伏見城内の安土桃山時代の小規模な区画溝。	1.20	0.20	『伏見城跡・桃陵遺跡発掘調査報告書-(仮称)公務員宿舍伏見住宅整備事業に伴う-』	2010/3/20
190	495	安土桃山 時代	伏見城跡・桃陵遺跡	溝SD1004	伏見城内の安土桃山時代の小規模な区画溝。	1.20	0.30	『伏見城跡・桃陵遺跡発掘調査報告書-(仮称)公務員宿舍伏見住宅整備事業に伴う-』	2010/3/20
191	509	室町時代 後半	北野廃寺	SD7	平安京北限北側に展開する東西溝	1.20	0.29	『北野廃寺発掘調査報告書』	2010/9/30
192	618	室町時代	常盤仲之町遺跡・一ノ井遺跡	溝4-40・4-60	東北東～西南西の区画溝。広隆寺子院の区画溝か?	1.20	0.40	『常盤仲之町遺跡・一ノ井遺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012-11』)	2013/1/31
193	623	京都X期	法住寺殿跡	溝630	法住寺殿内を南北方向に走る区画溝。路面821の東側溝か?	1.20	0.55	『法住寺殿跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012-10』)	2013/1/31
194	686	17世紀 初頭	羽東師菱川城跡	SD176	羽東師菱川城内の東西方向の溝で、西に行くくと二筋の並行した溝になる。溝SD116の手前で南へ屈曲する。	1.20	0.15	『羽東師菱川城跡・長岡京跡(長岡京跡第561次調査)』	2015/5/26
195	695	中世	嵯峨遺跡	南北溝	嵯峨遺跡の南北溝	1.20	0.50	『嵯峨遺跡・嵯峨北堀町遺跡 No.68』『京都市内遺跡試掘調査報告 平成27年度』	2016/3/31
196	507	中世	常盤仲之町遺跡	溝10	常盤仲之町遺跡の東西方向の区画溝	1.26	1.10	『常盤仲之町遺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2009-18』)	2010/4/15
197	85	鎌倉時代 前半	鳥羽離宮跡	溝1	鳥羽離宮時の区画溝か?	1.30	0.20	『鳥羽離宮跡(60年度TB53)』『京都市内遺跡試掘・立会調査概報 昭和61年度』	1987/3/31
198	192	平安時代 後期	六波羅政庁跡	南北溝(西)	平氏六波羅邸に関連する南北溝?	1.30	0.50	『六波羅政庁跡(93RT225)』『京都市内遺跡立会調査概報 平成5年度』	1994/3/31
199	211	15世紀	六波羅政庁跡	溝SD22	中世六波羅地域の東西区画溝。	1.30	1.00	『六波羅政庁跡』『平成2年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1994/12/10
200	228	室町時代	南春日町遺跡	溝1	南春日町遺跡の建物2の北側及び西側を区画する溝。	1.30	0.50	『南春日町遺跡28次調査』『平成5年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1996/3/1
201	481	桃山～ 江戸初期	法住寺殿跡・六波羅政庁跡・方広寺跡	溝3-120 溝140	法住寺殿期の南北道路を踏襲する安土桃山時代の西側溝。	1.30	0.10	『法住寺殿跡・六波羅政庁跡・方広寺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2009-8』)	2010/1/29
202	510	15世紀 以降	北野廃寺	SD8	平安京北限北側に展開する東西溝	1.30	0.20	『北野廃寺発掘調査報告書』	2010/9/30
203	531	京都IX期 中～ 新段階	北野廃寺	堀30	堀51及び門遺構・柱列2・3と群をなした小口遺構(門のある中央で途切れる)。門は南門で屋敷地が北側に展開する可能性	1.30	0.50	『北野廃寺17次調査』『京都市内遺跡発掘調査報告 平成22年度』	2011/3/31

表11 堀・溝 一覧表(8)

幅・深さ 番号	堀番号	時期	遺跡名	遺構名	性格	堀幅 (m)	検出深度 (m)	報告書名	発行年
204	675	室町時代 前期	史跡・名勝嵐 山	溝17	臨川寺に関連する遺構。門基壇推定範囲南 端に取り付く東西溝、溝13と並行。	1.30	0.30	『史跡・名勝 嵐山』(『京都市埋蔵 文化財研究所発掘調査報告 2014-7』)	2015/3/31
205	680	13世紀代	吉田二本松町 遺跡	SD4	吉田二本松町遺跡の南北方向の溝。	1.30	0.70	「京都大学吉田南構内AN21区の発 掘調査」『京都大学構内遺跡調査研 究年報 2013年度』	2015/3/31
206	705	16世紀末	一ノ井遺跡	溝145	一ノ井遺跡の中世区画溝。溝144と直角に 交わり、T字形をなす。	1.30	0.25	『一ノ井遺跡発掘調査報告書』	2016/3/31
207	577	中世	常盤仲之町遺 跡	溝10	広隆寺旧境内の子院に関連する区画溝。	1.35	0.70	『常盤仲之町遺跡・常盤東ノ町古墳 群』(『京都市埋蔵文化財研究所発 掘調査報告 2011-8』)	2012/3/30
208	704	室町時代 後半	一ノ井遺跡	溝144	一ノ井遺跡の中世区画溝。溝145と直角に 交わり、T字形をなす。	1.36	0.22	『一ノ井遺跡発掘調査報告書』	2016/3/31
209	23	中世(土 師器、石 器、青磁、 白磁)	植物園北遺跡	SD1	上賀茂の南北区画溝か?	1.40	0.70	「植物園北遺跡試掘調査 (No.329)」 『京都市内遺跡試掘・立会調査報告 国庫補助による試掘・立会調査 報告 昭和54年度』	1980/3/31
210	73	平安時代 後期	法住寺跡	SF5・SD4	SF5は蓮華王院の寺域の東西を二分する位 置にあたり、これを境に西と東では約2m の段差がある。SD4は西側溝。	1.40	0.30	「法住寺跡」『昭和58年度 京都 市埋蔵文化財調査概要』	1985/3/31
211	258	12世紀末	吉田泉殿町遺 跡	溝438	吉田泉殿の平安時代末の東西区画溝で、柵 と出入口を伴う。溝438と西側で接続す る。地方武士の京屋敷の区画溝の可能性。	1.40	0.50	「京都大学構内遺跡」『平成8年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1998/3/31
212	287	桃山時代	伏見城跡	SD2	伏見城武家屋敷。上板橋通沿いの北端の 溝。SD1の下層にあり、東西方向の溝。2区 の続き。	1.40	1.50	「伏見城跡」『平成10年度 京都 市埋蔵文化財調査概要』	2000/3/31
213	323	13世紀 中～後半	下三梧遺跡	溝1	下三梧の鎌倉時代集落に関連する南北溝。 溝40と並行。	1.40	0.40	「下三梧遺跡」『平成11年度 京都 市埋蔵文化財調査概要』	2002/6/30
214	324	13世紀 中～後半	下三梧遺跡	溝40	下三梧の鎌倉時代集落に関連する南北溝。 溝1と並行。	1.40	0.40	「下三梧遺跡」『平成11年度 京都 市埋蔵文化財調査概要』	2002/6/30
215	502	平安時代 後期	常盤仲之町遺 跡	溝797	常盤仲之町遺跡の東西区画施設で、高まり 272-2、溝802-1、石敷853を伴う。	1.40	0.30	『常盤仲之町遺跡』(『京都市埋蔵文 化財研究所発掘調査報告 2009-16』)	2010/3/31
216	589	室町時代 後期	六波羅蜜寺境 内	堀135	六波羅蜜寺の建物1の西に位置し、南は調 査区が、北端は東に曲がって終わる。	1.40	1.50	『六波羅蜜寺境内・六波羅政庁跡』 (『京都市埋蔵文化財研究所発掘調 査報告 2011-6a』)	2012/3/30
217	608	京都IX期 古段階	史跡・名勝嵐 山	堀404	天龍寺境内に近接する東西堀。	1.40	0.96	『史跡・名勝 嵐山』(『京都市埋蔵 文化財研究所発掘調査報告 2012-3』)	2012/8/31
218	679	13世紀 後半	史跡・名勝嵐 山	溝6	亀山殿以前の区画溝の可能性あり。2004 年度1区溝2・2・4と関連する可能性あり。	1.40	0.60	『史跡・名勝 嵐山』(『京都市埋蔵 文化財研究所発掘調査報告 2013-17』)	2015/3/31
219	692	13世紀～ 14世紀	伏見城跡	溝366	中世集落に伴う南北溝119、堀135に関連 する溝か?	1.40	0.50	『伏見城跡・桃陵遺跡』(『京都市埋 蔵文化財研究所発掘調査報告 2015-2』)	2015/9/30
220	717	平安時代 後期～ 鎌倉時代	鳥羽離宮跡	SD-01	田中殿東側の区画溝。SA-01(築地)を伴 う。	1.40	0.30	「第39次(田中殿IV)発掘調査」『鳥 羽離宮跡 国庫補助による発掘調 査概要—昭和53年度』、「鳥羽離宮 跡39次調査」『昭和53年度 京都 市埋蔵文化財調査概要』	1979/3/31、 2011/12/15
221	18	平安時代 後期～ 鎌倉時代	尊勝寺跡・最 勝寺跡	SD67	築地関連遺構か? SD60との心々距離は5.1 m。	1.50	0.20	『六勝寺跡発掘調査概要 1978』	1979/3/31
222	77	室町時代 後半頃	法住寺跡	SD05	法住寺の寺域及び最勝光院の推定地にあ たる場所SD03が埋まった後に成立する溝。	1.50	0.70	「法住寺跡」『昭和58年度 京都 市埋蔵文化財調査概要』	1985/3/31
223	144	平安時代 末期	中久世遺跡	溝1	条里区画に関連する東西溝か?	1.50	0.50	『中久世遺跡発掘調査概要 平成元 年度』	1990/3/31
224	188	平安時代 末～ 鎌倉時代	鳥羽離宮跡	溝244	城南宮道南側に面した屋敷地の東西区画溝 か。溝190と対。	1.50	0.50	「鳥羽離宮跡第127次調査」『昭和 63年度 京都市埋蔵文化財調査概 要』	1993/3/31
225	222	鎌倉時代	史跡・名勝嵐 山	濠2	嵐山の東西方向の濠で北側に濠1が走る。 濠の南側に遺構が展開する。	1.50	1.10	「史跡名勝嵐山」『平成4年度 京都 市埋蔵文化財調査概要』	1995/9/1
226	234	室町時代	北野遺跡	SD4	北野遺跡の南北方向の溝。この溝の東2m の位置で、南北方向の柵SA34がある。 SA34の南端で東西方向の垣塀SA1が東西 方向にある。	1.50	0.50	「北野遺跡」『平成6年度 京都 市埋蔵文化財調査概要』	1996/11/1
227	247	室町時代 末	上ノ段町遺跡	溝2-1	上ノ段町の南北区画溝。これに先行する溝 2-3は平安時代中期に遡る。	1.50	0.20	「上ノ段町遺跡」『平成7年度 京都 市埋蔵文化財調査概要』	1997/3/31
228	307	13世紀	六波羅政庁 跡、方広寺跡	溝1	六波羅政庁に関連する南北溝か?	1.50	0.70	「六波羅政庁跡」『平成11年度 京 都市埋蔵文化財調査概要』	2002/6/30
229	308	秀頼期整 地層 (17世紀 初頭)	六波羅政庁 跡、方広寺跡	路面東側 溝	秀頼期方広寺の南北路面の東側溝。護岸の 杭列あり。	1.50	0.30	「六波羅政庁跡」『平成11年度 京 都市埋蔵文化財調査概要』	2002/6/30
230	322	平安時代 後期～ 鎌倉時代 前期	醍醐麩寺	溝79	下醍醐の子院、越智堂に関連する地業及び 築地に関連する南北方向の側溝か?	1.50	0.30	「醍醐麩寺」『平成11年度 京都 市埋蔵文化財調査概要』	2002/6/30
231	330	12世紀後 ～13世紀 初頭	鳥羽離宮跡	SD2	鳥羽離宮に関連する溝か? No.31 トレンチ のSD1と同一の溝?	1.50	0.30	『鳥羽離宮跡・下鳥羽遺跡』(『京都 市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2001-8』)	2002/11/30

表11 堀・溝 一覧表(9)

幅・深さ 番号	堀番 号	時期	遺跡名	遺構名	性格	堀幅 (m)	検出深度 (m)	報告書名	発行年
232	400	京都IX期 中～新相	史跡・名勝 嵐山	堀60B (中)	天龍寺と霊庇廡を一緒に取り囲む区画の東限の堀。	1.50	0.60	『史跡・名勝 嵐山』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-9』)	2006/10/31
233	474	平安時代 後期	村ノ内町遺跡・常盤仲之町遺跡	溝2	中世城北街道に伴う側溝か? 2008年5-1区 の溝453に関連するか?	1.50	0.80	『常盤東ノ町古墳群・村ノ内町遺跡・常盤仲之町遺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2008-20』)	2009/3/31
234	605	京都IX期 中～新段 階	史跡・名勝嵐 山	堀90	天龍寺境内に近接する堀。	1.50	0.90	『史跡・名勝 嵐山』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012-3』)	2012/8/31
235	606	京都IX期 中～新段 階	史跡・名勝嵐 山	堀117	天龍寺境内に近接する南北堀。	1.50	1.30	『史跡・名勝 嵐山』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012-3』)	2012/8/31
236	612	室町時代 後半	常盤仲之町遺跡・一ノ井遺跡	溝2-45 (第1面)	1区に溝に延長する可能性のある区画溝。 広隆寺子院の区画溝か? 門2-1も関連する か?	1.50	0.50	『常盤仲之町遺跡・一ノ井遺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012-11』)	2013/1/31
237	649	室町時代	六波羅政庁跡、六波羅蜜寺跡	溝511	南北方向の室町時代溝。	1.50	0.60	『六波羅蜜寺境内・六波羅政庁跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2013-9』)	2014/1/31
238	655	平安時代 後期～室 町時代	法勝寺跡	SD01	法勝寺寺域西辺の溝。	1.50	0.90	『法勝寺跡・岡崎遺跡』(『京都市内遺跡試掘調査報告 平成25年度』)	2014/3/31
239	657	中世前半	鶏冠井清水遺跡	溝2	中世の鶏冠井清水遺跡の耕作もしくは区画等に 関する溝か?	1.50	0.30	『長岡京左京三条三坊十町跡・鶏冠井清水遺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2014-3』)	2014/8/29
240	661	桃山時代 ～江戸時 代前期	伏見城跡	SD403	伏見城跡・集住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書。掘立柱建物4と5の区画溝。浅野但馬守もしくはその西隣の屋敷地の可能性(鍋島信濃守の屋敷地の可能性)。	1.50	0.60	『伏見城跡・集住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』(『イビソク京都市内遺跡調査報告 第9輯』)	2014/12/26
241	668	伏見城期	伏見城跡	溝2	桑山丹波守屋敷推定地の路面152の東側溝。	1.50	0.50	『伏見城跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2014-8』)	2015/3/31
242	669	伏見城期	伏見城跡	溝149	桑山丹波守屋敷推定地の路面152の西側溝。	1.50	0.70	『伏見城跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2014-8』)	2015/3/31
243	265	平安時代 末期～鎌 倉時代	法住寺殿跡	東西溝	八条坊門小路末の北側溝か?	1.52	0.48	『法住寺殿跡(98RT194)』(『京都市内遺跡立会調査概報 平成10年度』)	1999/3/31
244	16	平安時代 後期～鎌 倉時代	鳥羽離宮跡	SD-02	建物SB01の外周石垣より約13m隔てたところをめぐるL字状の溝。	1.60	1.20	『第45次(田中殿VIII)』(『鳥羽離宮跡 国庫補助による発掘調査概要一昭和53年度』)	1979/3/31
245	74	平安時代 後期	法住寺跡	SD02	法住寺の寺域及び最勝光院の推定地にあたる場所の南北区画溝。この溝を境に東側は一段高い。	1.60	0.50	『法住寺跡』(『昭和58年度 京都市埋蔵文化財調査概要』)	1985/3/31
246	257	12世紀末	吉田泉殿町遺跡	溝253・柱列4・5・出入口	吉田泉殿の平安時代末の東西区画溝で、欄と出入口を伴う。溝438と西側で接続する。地方武士の京屋敷の区画溝の可能性。	1.60	0.60	『京都大学構内遺跡』(『平成8年度京都市埋蔵文化財調査概要』)	1998/3/31
247	464	鎌倉時代	常盤仲之町遺跡・広隆寺旧境内	溝39	太秦中寺院等の区画溝。	1.60	0.60	『常盤仲之町遺跡・広隆寺旧境内』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2008-3』)	2008/9/29
248	489	平安時代 後期	伏見城跡・桃陵遺跡	溝SD1136	平安時代後期の区画溝であり、伏見山荘等の別業に伴うものか。	1.60	0.24	『伏見城跡・桃陵遺跡発掘調査報告書』(仮称)公務員宿舍伏見住宅整備事業に伴う-	2010/3/20
249	526	鎌倉時代 前期	法性寺跡	溝22	東福寺伽藍と同じ地割りで造られた可能性のある区画溝。	1.60	0.50	『法性寺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2010-11』)	2010/12/28
250	563	13世紀中 頃～後半	白河街区跡・吉田上大路町遺跡	溝106	白河街区北半にある南北方向の区画溝で、平安時代後期の福勝院に関連する遺構か?	1.60	0.20	『白河街区跡・吉田上大路町遺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2011-3』)	2012/1/31
251	683	14世紀代	吉田二本松町遺跡	SD10	吉田二本松町の南北方向のV字溝。	1.60	0.90	『京都大学吉田南構内AN21区の発掘調査』(『京都大学構内遺跡調査研究年報 2013年度』)	2015/3/31
252	233	15世紀	中臣遺跡	溝SD1	中臣遺跡内にある中世館もしくは村落を囲む施設。	1.70	0.60	『中臣遺跡73次調査』(『平成6年度京都市埋蔵文化財調査概要』)	1996/11/1
253	437	16世紀後 葉	伏見城跡	溝931	1区溝1660と3区溝940で画された集落において、溝940の西側(内側)を弧状に巡る溝。	1.70	0.50	『伏見城跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-27』)	2007/3/31
254	539	鎌倉時代 ～室町時 代	常盤仲之町遺跡	溝3-149	中世常盤の区画溝で、南北方向から西に直角に折れ曲がる。城北街道西側溝の位置にくる。	1.70	1.20	『常盤仲之町遺跡・常盤東ノ町古墳群』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2010-15』)	2011/3/31
255	541	鎌倉時代 ～室町時 代	常盤仲之町	溝3-9	中世常盤の区画溝で、東西方向の溝。北1.8mの位置に、対応すると考えられる柱列がある。	1.70	0.50	『常盤仲之町遺跡・常盤東ノ町古墳群』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2010-15』)	2011/3/31
256	543	室町時代 ～江戸時 代	法性寺跡	溝6	中世本町通付近の溝で、北から東へ弧をなす溝。	1.70	0.40	『法性寺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2010-19』)	2011/6/30
257	575	平安時代 後期～鎌 倉時代	常盤仲之町遺跡	溝40	広隆寺旧境内の子院に関連する区画溝もしくは、旧城北街道側溝。	1.70	0.10	『常盤仲之町遺跡・常盤東ノ町古墳群』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2011-8』)	2012/3/30
258	648	京都IX期 中段階	嵯峨遺跡	SD15	嵯峨天龍寺の塔頭を囲む区画溝。北東～南西方向。	1.70	0.80	『嵯峨遺跡・嵯峨北堀町遺跡』(『西近畿文化財研究所調査報告書 7』)	2013/9/30
259	42	平安時代 後期～鎌 倉時代	鳥羽離宮跡	SD13	田中殿北限付近の区画溝。	1.80	0.70	『第74次II・75次・76次・79次発掘調査』(『鳥羽離宮跡発掘調査概要 昭和57年度』)	1983/3/31

表11 堀・溝 一覧表 (10)

幅・深さ 番号	堀番号	時期	遺跡名	遺構名	性格	堀幅 (m)	検出深度 (m)	報告書名	発行年
260	57	室町時代	鳥羽離宮跡	SD4	中世竹田周辺の東北から南西方向に流れる区画溝?	1.80	0.90	「第100・101次調査」『鳥羽離宮跡発掘調査概報 昭和59年度』	1985/3/31
261	61	平安時代 後期	成勝寺跡	SD28・ SD45	成勝寺跡に関連する南北区画溝。	1.80	0.45	「成勝寺跡」『昭和58年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1985/3/31
262	230	伏見城期	伏見城跡	南北溝跡	伏見城武家屋敷もしくは町家に伴う溝(濠)跡。2条の右列を伴う。	1.80	0.80	「伏見城跡 No.69」『京都市内遺跡試掘調査概報 平成7年度』	1996/3/31
263	354	伏見城期	伏見城跡	溝2	武家屋敷西側の区画溝。	1.80	0.40	「伏見城跡・御香宮鹿寺跡・金森出雲遺跡 No.57」『京都市内遺跡試掘調査概報 平成15年度』	2004/3/31
264	385	IX期新～ X期古 (15世紀 ～16世紀)	山科本願寺跡	堀9a	山科本願寺御本寺内部の堀。南北方向の堀。9bを造り替えたもの。	1.80	1.20	「山科本願寺跡(1)」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成17年度』	2006/3/3
265	506	中世	常盤仲之町遺跡	溝5	常盤仲之町遺跡の南北方向の区画溝。	1.80	0.80	『常盤仲之町遺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2009-18』)	2010/4/15
266	538	平安時代 ～ 室町時代	常盤仲之町遺跡	溝3-140	中世常盤の東西方向の溝で、平安時代に開削。北壁と南壁に石垣を築す。上下2層に分かれる。	1.80	1.10	『常盤仲之町遺跡・常盤東ノ町古墳群』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2010-15』)	2011/3/31
267	568	鎌倉時代 ?	勝持寺旧境内	溝24	勝持寺旧境内平坦面4上の西辺に沿って検出した南北方向の溝。	1.80	0.30	『勝持寺旧境内』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2011-5』)	2012/3/20
268	569	室町時代	勝持寺旧境内	溝190	勝持寺旧境内の基壇建物の北東側を画する雨落ち溝の可能性。L字状に屈曲する。	1.80	0.30	『勝持寺旧境内』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2011-5』)	2012/3/20
269	587	室町時代	六波羅蜜寺境内	溝133	六波羅蜜寺の門1西側にある東西方向の溝で、西区の溝134につながる。	1.80	0.20	『六波羅蜜寺境内・六波羅政庁跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2011-6』)	2012/3/30
270	604	京都IX期 新段階	史跡・名勝嵐山	堀86	天龍寺境内に近接する東西堀。	1.80	1.15	『史跡・名勝 嵐山』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012-3』)	2012/8/31
271	607	京都VIII 期新～ IX期 古段階	史跡・名勝嵐山	堀119	天龍寺境内に近接する東西堀。	1.80	1.60	『史跡・名勝 嵐山』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012-3』)	2012/8/31
272	613	室町時代	常盤仲之町遺跡・一ノ井遺跡	溝2-10 (第2面)	門2-1の南端から始まる南北溝で、広隆寺子院の区画溝か?	1.80	0.20	『常盤仲之町遺跡・一ノ井遺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012-11』)	2013/1/31
273	26	室町時代 ～	鳥羽離宮跡	SD1	中世竹田の区画溝。	1.90	0.75	「第63次発掘調査」『鳥羽離宮跡発掘調査概報 昭和55年度』	1981/3/31
274	156	江戸時代	鳥羽離宮跡	溝11	溝6と関係、中世～近世竹田村に関連する溝	1.90	0.50	「第136次調査」『鳥羽離宮跡発掘調査概報 平成2年度』	1991/3/30
275	393	鎌倉時代	常盤仲之町遺跡・上ノ段町遺跡	溝56	中世常盤付近の南北区画溝?	1.90	0.70	『常盤仲之町遺跡・上ノ段町遺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-6』)	2006/7/31
276	394	鎌倉時代	常盤仲之町遺跡・上ノ段町遺跡	溝266	中世常盤付近の南北区画溝?	1.90	0.65	『常盤仲之町遺跡・上ノ段町遺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-6』)	2006/7/31
277	399	京都IX期 中～新相	史跡・名勝嵐山	堀60A (新)	天龍寺と霊庇庵を一緒に取り囲む区画の東限の堀。	1.90	0.50	『史跡・名勝 嵐山』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-9』)	2006/10/31
278	619	室町時代	常盤仲之町遺跡・一ノ井遺跡	溝5-20	南北方向の区画溝。広隆寺子院の区画溝か?	1.90	0.80	『常盤仲之町遺跡・一ノ井遺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012-11』)	2013/1/31
279	13	中世?	鳥羽離宮跡	溝	中世竹田の南北溝。	2.00	0.50	「第34次(東殿XIX)」『鳥羽離宮跡-国庫補助による発掘調査概報-昭和52年度』、「鳥羽離宮跡34次調査」『昭和52年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1978/3/31
280	31	平安時代 後期～ 鎌倉時代	鳥羽離宮跡	SD5	鳥羽離宮期の南北方向から東西方向に折れ曲がるL字形の溝。	2.00	0.40	「第70次発掘調査」『鳥羽離宮跡発掘調査概報 昭和56年度』	1982/3/31
281	64	平安時代 後期～ 鎌倉時代	鳥羽離宮跡	SD2	鳥羽離宮東殿に関連する東西方向の溝。	2.00	0.80	「鳥羽離宮跡 第88次調査」『昭和58年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1985/3/31
282	72	平安時代 後期	中久世遺跡	SD2	中久世の中世前半の区画溝。北から南へ直行し、調査区の北半部で西へ曲折するL字状の溝。	2.00	0.60	「中久世遺跡」『昭和58年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1985/3/31
283	134	平安時代 後期	鳥羽離宮跡	SD1	鳥羽離宮造営時の区画溝(東西溝)か?	2.00	0.60	「第130次調査」『鳥羽離宮跡発掘調査概報 平成元年度』	1990/3/11
284	189	室町時代	羽東師志水町遺跡	東西溝 (北)	羽東師志水町の東西区画溝で、乙訓郡条里阿刀里十七坪と二十坪の境と考えられる。	2.00	0.90	「長岡京左京四条三・四坊、羽東師志水町遺跡」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1993/3/31
285	200	平安時代 末～ 鎌倉時代	鳥羽離宮跡	溝2	鳥羽離宮南限付近の北東から南西に向かう溝。	2.00	0.30	「鳥羽離宮跡第135-2次調査」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1994/9/10
286	208	14～15 世紀	六波羅政庁跡	溝SD1	六波羅政庁の南北区画溝で、南端で西に屈曲する。同軸線上にSD8があり、SB157(西門)とSA150(柱列:堀)の西側を走る。	2.00	0.60	「六波羅政庁跡」『平成2年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1994/12/10
287	209	14～15 世紀	六波羅政庁跡	溝SD8	六波羅政庁の南北区画溝で、同軸線上にSD1があり、SB157(西門)とSA150(柱列:堀)の西側を走る。	2.00	0.60	「六波羅政庁跡」『平成2年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1994/12/10

表11 堀・溝 一覧表 (11)

幅・深さ 番号	堀番 号	時期	遺跡名	遺構名	性格	堀幅 (m)	検出深度 (m)	報告書名	発行年
288	235	11世紀末 ～ 12世紀 初頭	安朱遺跡 (安祥寺下寺 跡)	溝3-22	安朱遺跡の南北区画溝。	2.00	1.50	『安祥寺下寺跡』『平成6年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1996/11/1
289	249	室町時代 末	上ノ段町遺跡	溝1-1	上ノ段町の東西区画溝。溝1-2の造り替え。	2.00	0.20	『上ノ段町遺跡』『平成7年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1997/3/31
290	328	桃山時代	伏見城跡	流路	伏見城切岸に伴う流路。	2.00	1.00	『伏見城跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2002-11』)	2002/10/31
291	333	鎌倉時代 前期以降	史跡木嶋坐天 照御魂神社 (蓋ノ社)境内	溝SD2	木嶋坐天照御魂神社(蓋ノ社)境内の東限土塁の内溝。	2.00	0.30	『史跡木嶋坐天照御魂神社(蓋ノ社)境内』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2002-15』)	2002/12/27
292	342	平安時代 ～ 室町時代	白河街区跡	SD2・ SD4	白河街区の寺院又は屋敷に伴う区画溝で、溝の東端に南北の柵を伴う。	2.00	0.50	『白河街区跡・岡崎遺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2001-14』)	2003/2/28
293	359	京都VII期 新～VIII 期中	史跡・名勝 嵐山	溝128	天龍寺塔頭に関連する区画溝。柵D及び溝184と関連する。	2.00	0.50	『史跡・名勝 嵐山』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2004-11』)	2005/1/31
294	362	12世紀以 降	柵ノ杜遺跡	溝3上層	柵ノ杜遺跡塔基壇及び石垣2の西側の区画溝。	2.00	0.30	『柵ノ杜遺跡』(『京都市内遺跡発掘調査概報 平成16年度』)	2005/3/31
295	422	12世紀後 葉～13世 紀代	吉田本町遺跡	溝状遺構 SD5	白川道北側溝?	2.00	0.40	『京都市本郷区AU25区の発掘調査』『京都市本郷区内遺跡調査研究年報 2002年度』	2007/3/30
296	427	16世紀代	伏見城跡 (以前)	溝1449	1区溝1660と3区溝940で東を画された集落内を東西に走る排水溝。	2.00	0.60	『伏見城跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-27』)	2007/3/31
297	460	京都X期 (16世紀 後半)	慈照寺(銀閣 寺)旧境内	溝31・小 堤36	慈照寺旧境内の区画溝で小堤36を伴う。	2.00	1.10	『史跡 慈照寺(銀閣寺)旧境内』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2007-16』)	2008/3/31
298	552	平安時代 後期	白河北殿跡	SD125	白河北殿の基壇SR21の南側を東西方向に走る側溝。	2.00	0.80	『白河北殿跡』『昭和55年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	2011/9/30
299	588	室町時代	六波羅蜜寺 境内	溝134	六波羅蜜寺の東西方向の溝で、東区の溝133につながる。	2.00	0.30	『六波羅蜜寺境内・六波羅政庁跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2011-6』)	2012/3/30
300	600	中世以降	北野麩寺	南北溝	中世北野の南北区画溝。南端で東西方向の落ち(もしくは溝)に合流する。	2.00	0.20	『北野麩寺2』『昭和54年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	2012/3/31
301	616	室町時代 後期	常盤仲之町遺 跡・一ノ井遺 跡	溝3-18	溝3-17と合流する南北溝で、北側を溝3-16に横断されている。広隆寺子院の区画溝か?	2.00	0.20	『常盤仲之町遺跡・一ノ井遺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012-11』)	2013/1/31
302	632	平安時代 後期	鳥羽離宮跡	堀	白河天皇陵の東堀。	2.00	1.50	『鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡』『京都市内遺跡試掘調査報告 平成24年度』	2013/3/31
303	684	14世紀代	吉田橋町遺跡	SD1	吉田橋町遺跡の南北方向の区画溝。	2.00	0.50	『自家発掘設備設置にかかわる発掘調査および立合調査』『京都市本郷区内遺跡調査研究年報 2013年度』	2015/3/31
304	702	古代～ 中世	長岡京跡	溝1	中世下久世等の区画溝?	2.00	0.40	『長岡京左京北辺二坊十四町跡No.111』『京都市内遺跡試掘調査報告 平成27年度』	2016/3/31
305	708	15世紀代	吉田二本松町 遺跡	南北溝 SD10	吉田二本松町遺跡の南北溝。『山城園吉田村古図』では、西側が「堀之内」「公方」、東側が「西の辻」となる。クランク状に曲がる溝。SD13とともに東西方向の区画の要地に相当している。	2.00	1.00	『京都市本郷区吉田南構内AM21区の発掘調査』『京都市本郷区内遺跡調査研究年報 2014年度』	2016/3/31
306	82	平安時代 後期～ 鎌倉時代	鳥羽離宮跡	SD1	鳥羽離宮関連か? SD1に合流。N-90° -Eである。	2.10	0.50	『第11 3次調査』『鳥羽離宮跡発掘調査概報 昭和60年度』	1986/3/31
307	105	室町時代 後半	北野鳥居前町 遺跡	SD30	北野鳥居前町にある室町時代後半の南北方向の堀状遺構。	2.10	0.80	『北野鳥居前町遺跡』『昭和60年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1988/3/31
308	371	14世紀後 半～ 15世紀 初頭	石見城跡・ 長岡京跡	溝3003	初期石見城の北限の区画溝か? 溝2001に合流する可能性あり。	2.10	0.70	『長岡京右京一条四坊十五町跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2004-15』)	2005/3/31
309	519	室町時代 後期～ 江戸時代 初頭	大藪城跡	SD114	大藪城内の南北方向の溝。SD40の西肩沿いの下部で検出。	2.10	0.50	『大藪遺跡・大藪城跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2010-9』)	2010/11/30
310	590	室町時代 後期	六波羅蜜寺 境内	溝204	六波羅蜜寺の南北方向の区画溝。	2.10	0.70	『六波羅蜜寺境内・六波羅政庁跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2011-6』)	2012/3/30
311	682	14世紀代	吉田二本松町 遺跡	SD2	吉田二本松町の南北方向のV字溝。	2.10	1.20	『京都市本郷区吉田南構内AN21区の発掘調査』『京都市本郷区内遺跡調査研究年報 2013年度』	2015/3/31
312	645	京都V期 中～新 (12世紀 前半～ 中頃)	白河街区跡	溝1050	白河街区の南北方向の区画溝。歡喜光院推定地。溝の上面(溝中心線)にはこぶし大～人頭大の川原石が石の面を揃えずに並べられている。	2.15	0.69	『白河街区跡・岡崎遺跡』(『イビソク京都市内遺跡調査報告』第5輯)	2013/9/30
313	646	京都V期 中～新 (12世紀 前半～ 中頃)	白河街区跡	溝2031	白河街区の南北方向の溝。歡喜光院推定地。	2.19	0.73	『白河街区跡・岡崎遺跡』(『イビソク京都市内遺跡調査報告』第5輯)	2013/9/30
314	81	平安時代 後期～ 鎌倉時代	鳥羽離宮跡	SD1	鳥羽離宮の他の方位と異なり、N-21° 5' 30" -Eである。	2.20	1.70	『第11 3次調査』『鳥羽離宮跡発掘調査概報 昭和60年度』	1986/3/31

表11 堀・溝 一覧表 (12)

幅・深さ 番号	堀番 号	時期	遺跡名	遺構名	性格	堀幅 (m)	検出深度 (m)	報告書名	発行年
315	185	平安時代 後期	白河街区跡	SD123	東光寺もしくは元応寺に関連する南北区画溝。	2.20	0.70	「白河街区・岡崎遺跡1」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1993/3/31
316	197	室町時代	法勝寺跡	南北溝46	法勝寺の寺域西側の南北街路の東側溝が中世まで踏襲。南北溝2と切り合う。南北溝2が新しい。	2.20	0.60	「法勝寺跡・岡崎遺跡」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1994/9/10
317	224	鎌倉時代	上里遺跡	溝1	上里遺跡の東西方向の溝で建物1の北側を流れる区画溝。	2.20	0.60	「上里遺跡」『平成4年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1995/9/1
318	351	13世紀 前半代	鹿苑寺庭園	溝SD6-8	北山第・西園寺の頃の区画溝。	2.20	0.45	『特別史跡・特別名勝 鹿苑寺(金閣寺)庭園』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2003-6』)	2003/12/28
319	361	12世紀 以降	栢ノ杜遺跡	溝3上層	栢ノ杜遺跡塔基壇及び石垣2の西側の区画溝。	2.20	0.50	「栢ノ杜遺跡」『京都市内遺跡発掘調査概報 平成16年度』	2005/3/31
320	374	12世紀 後半代	白河街区跡	溝668	白河街区の南北区画内溝、2区溝308と同一。	2.20	0.40	『白河街区跡・岡崎遺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2005-4』)	2005/9/30
321	462	鎌倉時代	常盤仲之町遺跡・広隆寺旧境内	溝146	太秦中世寺院等の区画溝。	2.20	0.60	『常盤仲之町遺跡・広隆寺旧境内』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2008-3』)	2008/9/29
322	548	平安時代 ～ 鎌倉時代	得長寿院跡	東西溝SD23	得長寿院の南限(二条大路北限)にあたと推定される。	2.20	1.15	「得長寿院跡」『昭和52年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	2011/9/30
323	574	鎌倉時代 室町時代	勝持寺旧境内	溝187	勝持寺旧境内の5区北端にある東西方向の溝、2区溝25に連続する。	2.20	0.40	『勝持寺旧境内』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2011-5』)	2012/3/20
324	614	室町時代 後期	常盤仲之町遺跡・一ノ井遺跡	溝3-16	L字形に屈曲する区画溝。広隆寺子院の区画溝か?	2.20	0.60	『常盤仲之町遺跡・一ノ井遺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012-11』)	2013/1/31
325	710	10世紀～ 13世紀	吉田本町遺跡	溝SD2	吉田本町遺跡の南北溝で、道路SF1を切る。AT27区のSD5と繋がる可能性がある。	2.20	1.36	「京大工学部構内AU27区」の発掘調査『京大工学部内遺跡調査研究年報 2014年度』	2016/3/31
326	237	12世紀末 ～13世紀 初頭	安朱遺跡 (安祥寺下寺跡)	溝5-207	安朱遺跡の東西区画溝。削平著しく初期の深さは不明。	2.30	0.45	「安祥寺下寺跡」『平成6年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1996/11/1
327	250	12世紀末 ～13世紀 初頭	安朱遺跡 (安祥寺下寺跡)	溝1	安朱遺跡の南北区画溝で、1次・2次調査と同様のもの。	2.30	1.40	「安祥寺下寺跡1」『平成7年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1997/3/31
328	299	京都V期 古段階	仁和寺院家跡	溝449	建物1の西雨落溝から約3.5m(12尺)離れて位置しており、仁和寺の子院の一つである浄光院の建物1に関連する区画溝。	2.30	1.00	『仁和寺院家跡(花園宮ノ上町遺跡)』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2001-1』)	2002/1/31
329	556	室町時代 ～ 安土桃山 時代	鳥羽離宮跡	SD2	中世竹田の東西方向の区画溝。	2.30	0.50	「鳥羽離宮跡57次調査」『昭和55年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	2011/9/30
330	56	鎌倉時代	鳥羽離宮跡	SD5	鳥羽離宮南端付近の東西溝。	2.40	0.60	「第100・101次調査」『鳥羽離宮跡発掘調査概報 昭和59年度』	1985/3/31
331	79	桃山時代 ～江戸時 代初期	伏見城跡	SD1・SD2	伏見城内の徳川屋敷と島津屋敷の境付近の南北溝。	2.40	1.10	「伏見城跡(2)」『昭和58年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1985/3/31
332	161	鎌倉時代 ～室町時 代	尊勝寺跡	SD3	尊勝寺跡に関連する東西区画溝か?	2.40	1.40	「尊勝寺跡」『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1991/12/5
333	236	12世紀末 ～13世紀 初頭	安朱遺跡 (安祥寺下寺跡)	溝3-1	安朱遺跡の南北区画溝で、北で約1度西に振れる。溝3-1と同時期。	2.40	1.30	「安祥寺下寺跡」『平成6年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1996/11/1
334	311	室町時代 ～ 桃山時代	六波羅政庁跡・方広寺跡	溝249	溝102に切られる南北方向の溝。	2.40	1.00	「六波羅政庁跡」『平成11年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	2002/6/30
335	382	IX期新～ X期古 (15世紀 ～16世 紀)	山科本願寺跡	堀7	山科本願寺御本寺内部の堀。堀8を切る。北西から南東に向かう堀跡。	2.40	1.90	「山科本願寺跡(1)」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成17年度』	2006/3/3
336	384	IX期新～ X期古 (15世紀 ～16世 紀)	山科本願寺跡	堀9b	山科本願寺御本寺内部の堀。南北方向の堀。	2.40	2.10	「山科本願寺跡(1)」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成17年度』	2006/3/3
337	395	鎌倉時代	常盤仲之町遺跡・上ノ段町遺跡	溝187	中世常盤付近の南北区画溝?	2.40	0.40	『常盤仲之町遺跡・上ノ段町遺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2006-6』)	2006/7/31
338	540	鎌倉時代 ～ 室町時代	常盤仲之町遺跡	溝3-312	中世常盤の区画溝で、溝3-149のコーナー部の約1m南から調査区の東端に沿うように南へ延びて、直角に西に折れ曲がる溝。東辺部は溝3-149と同様、城北街道西側溝の位置にくる。	2.40	0.70	『常盤仲之町遺跡・常盤東ノ町古墳群』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2010-15』)	2011/3/31
339	1	鎌倉時代 前期以降	円勝寺跡	大溝	円勝寺後期の区画溝か?東西方向の溝。	2.50	1.20	「円勝寺の発掘調査(上)」『佛教芸術』第82号	1971/11/5
340	21	安土桃山 時代	伏見城跡	溝一2	伏見城の区画溝。	2.50	0.50	『伏見城跡 文化庁国庫補助事業による発掘調査の概要 昭和54年度』	1980/3/31
341	60	鎌倉時代	中久世遺跡	溝(SD)2	中世久世の区画溝?	2.50	0.25	「中久世遺跡(MK6)」『京都市内遺跡発掘調査報告 昭和59年度』	1985/3/31

表11 堀・溝 一覧表 (13)

幅・深さ 番号	堀番 号	時期	遺跡名	遺構名	性格	堀幅 (m)	検出深度 (m)	報告書名	発行年
342	187	平安時代 末～ 鎌倉時代	鳥羽離宮跡	溝190	城南宮道南側に面した屋敷地の東西区画溝か。溝244と対。	2.50	0.60	『鳥羽離宮跡第127次調査』『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1993/3/31
343	231	平安時代 後期	最勝寺跡	南北溝	最勝寺東限の溝。	2.50	0.80	『最勝寺跡・岡崎遺跡(94K39)』『京都市内遺跡立会調査概要 平成7年度』	1996/3/31
344	279	京都X期 後半～ XI期前半 (16世紀 後半開削 ～17世紀 初頭埋没)	長岡京跡 (戎井遺跡隣 接地)	SD4	土川集落に関連する南北溝。調査2のSD4に繋がる可能性。	2.50	0.80	『長岡京右京一条三坊3』『平成10年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	2000/3/31
345	349	室町時代 後期	慈照寺(銀閣 寺)旧境内	溝SD18	慈照寺旧境内の石敷SX17の東延長上で、SX17の敷石が抜き取られ溝状になったもの。	2.50	0.50	『史跡 慈照寺(銀閣寺)旧境内』『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2003-1』	2003/7/31
346	365	15世紀	史跡・名勝 嵐山	SD28	神主家西限付近の南北方向の溝。塞ぎ止めるような石垣、付随するSD29がある。	2.50	1.50	『史跡・名勝嵐山』『京都市内遺跡発掘調査概要 平成16年度』	2005/3/31
347	368	14世紀後 半～15世 紀初頭	石見城跡・ 長岡京跡	溝2001	溝3003に合流する可能性のある初期石見城の区画溝。	2.50	0.60	『長岡京右京一条四坊十五町跡』『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2004-15』	2005/3/31
348	372	桃山～ 江戸前期	伏見城跡	溝SD287	伏見城武家屋敷に伴う東西区画溝か？欄1と並行し、欄2とも関連する可能性あり。	2.50	0.90	『伏見城跡』『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概要 2004-18』	2005/5/31
349	396	鎌倉時代	常盤仲之町遺 跡・上ノ段町 遺跡	溝294	中世常盤付近の南北区画溝？	2.50	0.50	『常盤仲之町遺跡・上ノ段町遺跡』『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-6』	2006/7/31
350	421	12世紀後 葉	吉田本町遺跡	溝状遺構 SD13	白川道下層の溝で、路面地業の際に深く掘り込まれた遺構の可能性が高い。土の採取や貯蔵の用に供していた可能性がある。	2.50	1.20	『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2002年度』	2007/3/30
351	440	15世紀 前半～ 16世紀 初頭	大藪遺跡・ 下久世構え跡	溝90	下久世構え跡の水堀で東に存在した旧河川から水を引き込んでいたと考えられる。	2.50	0.50	『大藪遺跡』『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-32』	2007/3/31
352	523	室町時代 後期～ 江戸時代 初頭	大藪城跡	SD170	大藪城内。2箇所折れを持つ堀状遺構。	2.50	0.50	『大藪遺跡・大藪城跡』『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2010-9』	2010/11/30
353	544	室町時代 後期	大藪城跡？	溝80	大藪城の東に展開する東西方向の溝で、溝80下層に繋がる。	2.50	0.80	『大藪遺跡』『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2010-18』	2011/6/30
354	598	鎌倉時代 ～ 室町時代	北野廃寺	SD27	中世北野の南北方向の区画溝？南端で切れる。SD28に並行。	2.50	0.30	『北野廃寺1』『昭和54年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	2012/3/31
355	599	鎌倉時代 ～ 室町時代	北野廃寺	SD28	中世北野の南北方向の区画溝？南端で切れる。SD27に並行。	2.50	0.30	『北野廃寺1』『昭和54年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	2012/3/31
356	611	室町時代 後半	常盤仲之町遺 跡・一ノ井遺 跡	溝1-30	2区の溝に延長する可能性のある区画溝。広隆寺子院の区画溝か？	2.50	0.80	『常盤仲之町遺跡・一ノ井遺跡』『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012-11』	2013/1/31
357	617	室町時代 後期	常盤仲之町遺 跡・一ノ井遺 跡	溝3-1・ 3-2・溝 4-1	北は5区溝5-20に続き、南端でL字形に屈曲する区画溝。広隆寺子院の区画溝か？	2.50	1.30	『常盤仲之町遺跡・一ノ井遺跡』『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012-11』	2013/1/31
358	651	室町時代 後期後半	六波羅政庁 跡・六波羅 寺跡	溝513	南北方向の室町時代溝。土橋572を伴う。六波羅寺北西部の防御施設。	2.50	1.00	『六波羅宮跡境内・六波羅政庁跡』『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2013-9』	2014/1/31
359	671	伏見城期	伏見城跡	溝88(堀)	桑山丹波守屋敷推定地。西岸に船が接岸できる係留施設がある堀	2.50	0.70	『伏見城跡』『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2014-8』	2015/3/31
360	709	13世紀 前半代	吉田二本松町 遺跡	東西溝 SD35	吉田二本松町遺跡の東西方向の溝で、この溝が途切れる部分は柱穴やビットが南北方向に密に分布している。南北溝SD37とともに一つの区画を形成する可能性。	2.50	1.00	『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2014年度』	2016/3/31
361	9	平安時代 後期	最勝寺跡	溝(堀)	最勝寺北築地溝？	2.60	0.70	『最勝寺跡推定地第III次発掘調査概要』『六勝寺跡 京都市埋蔵文化財年次報告 1976-III[平安時代後期の寺院跡]』	1977/3/31
362	128	平安時代 後期	最勝寺跡	SD5	最勝寺境内の東西方向の溝で、SD4と並行。心々距離は約3m。	2.60	0.70	『最勝寺跡』『昭和61年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1989/3/31
363	465	平安時代 ～ 鎌倉時代	常盤仲之町遺 跡・広隆寺旧 境内	溝164	太秦中世寺院等の区画溝。	2.60	0.20	『常盤仲之町遺跡・広隆寺旧境内』『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2008-3』	2008/9/29
364	654	11世紀後 半開削・ 12世紀以 降埋没	山科本願寺跡 (旧野村)	溝33	検出された掘立柱建物と同様、条里区画に規制された領主居館の萌芽的な存在の可能性。	2.60	0.80	『山科本願寺跡・左義長町遺跡』『京都市内遺跡発掘調査報告 平成25年度』	2014/3/31
365	667	12世紀 以降	芝古墳	後円部	前方後円墳の周溝を中世に防御用に再利用した可能性	2.60	1.20	『芝古墳』『京都市内遺跡発掘調査報告 平成26年度』	2015/3/31
366	701	平安時代 後期～ 鎌倉時代	中臣遺跡	溝10	中世前半の区画溝。	2.60	0.80	『中臣遺跡 No.92』『京都市内遺跡試掘調査報告 平成27年度』	2016/3/31
367	210	14～15 世紀	六波羅政庁跡	溝SD140	六波羅政庁の南北区画溝でSB157(西門)とSA150(柱列：堀)の東側を走る。	2.70	0.40	『六波羅宮跡』『平成2年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1994/12/10
368	401	京都IX期 中～新相	史跡・名勝 嵐山	堀60C (古)	天龍寺と霊庇廟を一緒に取り囲む区画の東限の堀。	2.70	1.30	『史跡・名勝 嵐山』『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-9』	2006/10/31

表11 堀・溝 一覧表 (14)

幅・深さ 番号	堀番号	時期	遺跡名	遺構名	性格	堀幅 (m)	検出深度 (m)	報告書名	発行年
369	500	中世～ 元禄15年 (1702)頃	革嶋館跡	水路5	西堀から約6m西側。「外構之堀」か?	2.70	1.00	「革嶋館跡」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成21年度』	2010/3/31
370	665	京都IX期 新段階	山科本願寺跡	堀1	山科本願寺創建時もしくは山科七郷に伴う南北堀。	2.70	1.50	「山科本願寺跡(2)」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成26年度』	2015/3/31
371	438	16世紀 後葉	伏見城跡	溝940	1区溝1660とともに伏見城造営前の集落の東側を画する溝。	2.90	0.60	『伏見城跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-27』)	2007/3/31
372	532	15世紀 後半	北野麩寺	堀51	堀30及び門遺構・柱列2・3と群をなした小口遺構(門のある中央で途切れる)。門は南門で屋敷地が北側に展開する可能性	2.90	0.25	「北野麩寺17次調査」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成22年度』	2011/3/31
373	663	桃山時代～ 江戸時代 初頭	伏見城跡	SD7	伏見城推定伊達屋敷の東西の段差間にある南北堀状遺構。4期の変遷がある。	2.90	2.10	『伏見城跡発掘調査報告書』	2014/12/30
374	2	南北朝期	臨川寺旧境内	南北溝	臨川寺庭園部分の南北溝	3.00	0.80	『臨川寺庭園遺跡発掘調査概要』	1975/3/31
375	3	南北朝期	臨川寺旧境内	東西溝	臨川寺庭園部分の南北溝	3.00	0.80	『臨川寺庭園遺跡発掘調査概要』	1975/3/31
376	5	桃山時代～ 江戸時代 初期	六波羅政庁跡	SD1	方広寺周辺の豊臣秀吉関連の造成に伴う溝?	3.00	0.75	『六波羅政庁跡-東山郵便局新築敷地埋蔵文化財発掘調査報告』	1977/3/30
377	30	平安時代 後期～ 鎌倉時代	鳥羽離宮跡	SD4	鳥羽離宮期の東西溝	3.00	0.30	「第70次発掘調査」『鳥羽離宮跡発掘調査概要 昭和56年度』	1982/3/31
378	62	平安時代 後期～ 鎌倉時代	尊勝寺跡	SD1	白河街区跡の東西区画溝?	3.00	1.50	「尊勝寺跡」『昭和58年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1985/3/31
379	78	桃山時代～ 江戸時代 初期	伏見城跡	溝	伏見城期の屋敷地境の溝	3.00	1.40	「伏見城跡(1)」『昭和58年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1985/3/31
380	80	平安時代 後期	鳥羽離宮跡	SD3(溝3)	近衛天皇陵西限の堀?	3.00	0.50	「第112次調査」『鳥羽離宮跡発掘調査概要 昭和60年度』	1986/3/31
381	143	15世紀末～ 16世紀 前半	植物園北遺跡	溝4	上賀茂社家町の構えに関する堀。L形に屈曲し、調査では西側と南側を確認。	3.00	1.43	『植物園北遺跡発掘調査概要 平成元年度』	1990/3/31
382	153	平安時代 後期～ 中世	仁和寺境内	SD19	仁和寺の借坊北側の土塁SA15に伴う溝。	3.00	0.30	『仁和寺境内発掘調査報告-御室会館建設に伴う調査-』(『京都市埋蔵文化財研究所調査報告第9冊』)	1990/6/30
383	190	室町時代	羽束師志水町遺跡	東西溝(南)	羽束師志水町の東西区画溝で、乙訓郡条里阿刀里十七坪と二十坪の境と考えられる。	3.00	1.40	「長岡京左京四条三・四坊、羽束師志水町遺跡」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1993/3/31
384	202	鎌倉時代	南春日町遺跡	溝1	大原野神社を支える神職集団の敷地を限る大溝。	3.00	1.00	「南春日町遺跡第17・19次調査」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1994/9/10
385	270	11世紀中頃～ 12世紀末	史跡醍醐寺境内	溝707	醍醐寺境内内、「實相寺」の境界を区切る東西区画溝か。土橋状に幅約3mにわたって途切れる。建物1に切られる。	3.00	0.80	「史跡醍醐寺境内2」『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1999/3/31
386	277	戦国期～ 江戸時代 初期	長岡京跡(戎井遺跡隣接地)	SD2	土川集落に関連する溝。	3.00	1.00	「長岡京左京一条三坊1」『平成10年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	2000/3/31
387	336	平安時代 後期～17 世紀中葉	史跡賀茂御祖神社境内	流路1(奈良の小川)	下鴨神社の奈良の小川	3.00	0.20	『史跡賀茂御祖神社境内』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2001-12』)	2003/2/28
388	344	14～15世紀 前半	栢ノ杜遺跡	南北溝状遺構	栢ノ杜遺跡西側の区画溝	3.00	0.80	「栢ノ杜遺跡」『京都市内遺跡発掘調査概要 平成14年度』	2003/3/31
389	355	15世紀中～ 16世紀 初頭	史跡・名勝嵐山	溝260	天龍寺に関連する防御用の堀	3.00	1.80	『史跡・名勝 嵐山』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2004-7』)	2004/11/30
390	356	12世紀～ 13世紀	史跡・名勝嵐山	溝224	葛野郡条里に近い方向をもつ防御用の堀?	3.00	1.70	『史跡・名勝 嵐山』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2004-7』)	2004/11/30
391	358	京都IX期	史跡・名勝嵐山	溝33	天龍寺塔頭に関連する防御用の堀?	3.00	1.00	『史跡・名勝 嵐山』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2004-11』)	2005/1/31
392	366	15世紀	史跡・名勝嵐山	SD32	神主家西限付近の南北方向の溝。中央部が一段深くなる断面形状を示している。	3.00	1.20	「史跡・名勝嵐山」『京都市内遺跡発掘調査概要 平成16年度』	2005/3/31
393	383	IX期新～ X期古 (15～16 世紀)	山科本願寺跡	堀8	山科本願寺御本寺内部の堀。東西方向の堀。	3.00	2.10	「山科本願寺跡(1)」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成17年度』	2006/3/3
394	439	15世紀前半～ 16世紀 初頭	大藪遺跡・下久世構え跡	溝81	下久世構え跡の居館区域の区画溝でL字に屈曲する。	3.00	0.40	『大藪遺跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-32』)	2007/3/31
395	472	IX期新～ X期古 (15世紀～ 16世紀)	北白川麩寺	溝54	室町時代前半の15世紀代に形成され、流水があったと考えられる。16世紀までに埋没。	3.00	0.70	「北白川麩寺」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成20年度』	2009/3/31
396	529	16世紀中頃～ 17世紀 初頭	大藪城跡	溝3B	大藪城の南北方向の溝で、堀211が北へ方向を変える辺りで繋がる。堀210との間に土塁があった可能性。	3.00	1.00	『大藪遺跡・大藪城跡』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2010-13』)	2011/2/28
397	533	中世以降	鳥羽離宮跡	溝1	流水堆積。護岸の繰り返し施工。大正11年都市計画図にも水路として認められる。	3.00	1.10	「鳥羽離宮跡1 No.20」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成22年度』	2011/3/31

表11 堀・溝 一覧表 (15)

幅・深さ 番号	堀番 号	時期	遺跡名	遺構名	性格	堀幅 (m)	検出深度 (m)	報告書名	発行年
398	594	中世	鳥羽離宮跡	SD6	中世竹田の南北溝で、逆L字状にクランクする。	3.00	0.70	『鳥羽離宮跡54-A次調査』『昭和54年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	2012/3/31
399	609	江戸時代	大藪城跡	堀12	大藪城跡に伴う堀か、近世集落に伴う堀かは不明。埋没時期は江戸時代。	3.00	0.80	『大藪遺跡・大藪城跡』（『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012-6』）	2012/9/28
400	624	14～ 15世紀	史跡・名勝 嵐山	溝18	室町時代の天龍寺期の朱雀大路側溝。	3.00	1.50	『史跡・名勝 嵐山』（『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012-16』）	2013/2/28
401	627	京都VII期 新～VIII期	吉田橋町遺跡	SD40	吉田橋町の東西方向の大規模な溝状遺構。単純な区画溝というよりは、土取りの遺構を天地返し状に埋め戻したかのような状態といえる。	3.00	0.80	『京都大学医学部構内AQ18区の発掘調査』『京都大学構内遺跡調査研究年報 2010年度』	2013/3/29
402	631	中世	白河街区跡	SD100	白河街区の斜行溝。	3.00	0.45	『京都大学病院構内AJ16区の発掘調査』『京都大学構内遺跡調査研究年報 2010年度』	2013/3/29
403	707	15世紀代	吉田二本松町 遺跡	東西溝 SD13	吉田二本松町遺跡の東西方向の溝。『山城園吉田村古図』の南側の小字「堀之内」と北側の小字「西の辻」を隔てる東西ライン上に位置しており、中世以来重要な地境。	3.00	1.20	『京都大学吉田南構内AM21区の発掘調査』『京都大学構内遺跡調査研究年報 2014年度』	2016/3/31
404	712	13世紀代	吉田本町遺跡	溝SD1	吉田本町遺跡の東西溝。	3.00	1.00	『京都大学本部構内AU27区の発掘調査』『京都大学構内遺跡調査研究年報 2014年度』	2016/3/31
405	59	鎌倉時代	中久世遺跡	溝(SD)1	中世久世の区画溝？	3.10	0.25	『中久世遺跡(MK6)』『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和59年度』	1985/3/31
406	488	13世紀 中葉	伏見城跡・ 桃陵遺跡	溝 SD1064	平安時代後期の区画溝であり、伏見山荘等の別業に伴うものか。	3.10	0.20	『伏見城跡・桃陵遺跡発掘調査報告書 - (仮称) 公務員宿舍伏見住宅整備事業に伴う -』	2010/3/20
407	504	平安時代 後期	常盤仲之町遺 跡	溝290	常盤仲之町遺跡の東西区画施設で、高まり272-1、石組790、石敷784を伴う。	3.10	0.70	『常盤仲之町遺跡』（『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2009-16』）	2010/3/31
408	521	室町時代 後期～ 江戸時代 初頭	大藪城跡	SD323	大藪城内。SD255の西沿いの下部で検出した南北方向の溝。	3.10	0.50	『大藪遺跡・大藪城跡』（『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2010-9』）	2010/11/30
409	95	15世紀末 ～ 16世紀前 半	山科本願寺跡	I-6区溝 (南北方 向、西北 ～東南方 向の溝と 繋がる)	山科本願寺跡の土塁とセットになる溝。	3.20	1.24	『山科本願寺跡』『昭和59年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1987/3/31
410	274	平安時代 前期 後半代	北野遺跡	溝1	常住寺関連の区画溝か？	3.20	0.50	『北野遺跡(99RH132)』『京都市内遺跡立会調査概報 平成11年度』	2000/3/31
411	666	京都IX期 新段階	山科本願寺跡	堀2	山科本願寺創建時もしくは山科七郷に伴う東西堀。	3.20	2.00	『山科本願寺跡(2)』『京都市内遺跡発掘調査報告 平成26年度』	2015/3/31
412	256	12世紀 前半～ 室町時代	下三橋城跡	溝1	下三橋集落に関連する堀跡か？	3.25	1.13	『下三橋遺跡(97TB63)』『京都市内遺跡立会調査概報 平成9年度』	1998/3/31
413	378	12世紀 後半代	白河街区跡	溝308	白河街区の南北区画内溝、1区溝668と同一。	3.30	0.30	『白河街区跡・岡崎遺跡』（『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2005-4』）	2005/9/30
414	271	室町時代	伏見城跡・ 三淵伏見城跡	溝30(堀)	伏見城以前の堀。前回調査区の延長で室町時代の堀跡。	3.40	1.60	『伏見城跡・御香宮廃寺』『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1999/3/31
415	86	室町時代	北野廃寺	SD47(南 北溝)	北野付近の中世集落に伴う南北区画溝？	3.50	0.70	『第11次発掘調査』『北野廃寺発掘調査概報 昭和61年度』	1987/3/31
416	90	鳥羽離宮 期	鳥羽離宮跡	SD75	鳥羽離宮1金剛心院東側の溝の延長。	3.50	1.50	『鳥羽離宮跡第106次調査』『昭和59年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1987/3/31
417	160	鎌倉時代 ～ 町時代	尊勝寺跡	SD1	尊勝寺跡に関連する東西区画溝。	3.50	1.40	『尊勝寺跡』『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1991/12/5
418	276	戦国期～ 江戸時代 初期	長岡京跡 (戎井遺跡隣 接地)	SD1南北 溝	土川集落に関連する溝。	3.50	1.00	『長岡京左京一条三坊1』『平成10年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	2000/3/31
419	335	平安時代 後期	史跡賀茂御祖 神社境内	流路2	奈良の小川に切られる南北方向の流路。	3.50	0.40	『史跡賀茂御祖神社境内』（『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2001-12』）	2003/2/28
420	442	京都VIII 期新段階	法勝寺跡	溝11	中世岡崎村の境界溝か？溝1と溝2の肩口間の距離は3.7～4.0mある。冷泉小路末の側溝の可能性もある。	3.50	0.61	『法勝寺跡』（『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2007-9』）	2007/12/28
421	545	室町時代 後期	大藪城跡？	溝105	大藪城の東堀210より上層にある南北方向の区画溝。溝80の下層と接続。	3.50	0.40	『大藪遺跡』（『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2010-18』）	2011/6/30
422	670	伏見城期	伏見城跡	溝3(堀)	桑山丹波守屋敷推定地、北岸に船が接岸できる係留施設がある堀。	3.50	1.20	『伏見城跡』（『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2014-8』）	2015/3/31
423	457	京都X期 新段階	慈照寺(銀閣 寺)旧境内	溝29・堀 30	慈照寺旧境内の大規模な区画溝で堀30を伴う。	3.60	1.10	『史跡 慈照寺(銀閣寺)旧境内』（『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2007-16』）	2008/3/31
424	517	室町時代 後期～ 江戸時代 初頭	大藪城跡	SD50	大藪城の南北方向の溝で、SD40の底部ほぼ中央で検出。	3.60	0.55	『大藪遺跡・大藪城跡』（『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2010-9』）	2010/11/30

表11 堀・溝 一覧表 (16)

幅・深さ 番号	堀番号	時期	遺跡名	遺構名	性格	堀幅 (m)	検出深度 (m)	報告書名	発行年
425	622	京都V期 ～VI期 古段階	法住寺殿跡	溝833	法住寺殿内を南北方向に走る区画溝。路面900B及び路面900Aに伴う東側溝か？	3.80	0.80	『法住寺殿跡』（『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012-10』）	2013/1/31
426	22	安土桃山 時代	伏見城跡	溝-3	伏見城の区画溝	4.00	1.30	『伏見城跡 文化庁国庫補助事業による発掘調査の概要 昭和54年度』	1980/3/31
427	101	平安時代 末～ 鎌倉時代	烏羽離宮跡	溝31	中世前半の区画溝	4.00	0.50	『第124次調査』『烏羽離宮跡発掘調査概報 昭和62年度』	1988/3/31
428	238	室町時代 前期	小倉町別当町遺跡	SD15	小倉町別当町の南北堀状遺構	4.00	2.20	『小倉町別当町遺跡』『平成6年度京都市埋蔵文化財調査概要』	1996/11/1
429	269	15世紀末 ～1532年 まで	山科本願寺跡	SD66	山科本願寺内部の東西方向の石組溝で、堀に注ぎ込む。	4.00	1.70	『山科本願寺1』『平成9年度京都市埋蔵文化財調査概要』	1999/3/31
430	345	烏羽離宮 期	烏羽離宮跡	溝(SD101)	金剛心院北限を画する溝	4.00	1.10	『烏羽離宮跡』（『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2002-18』）	2003/6/30
431	352	中世	史跡・名勝嵐山	溝1	慈濟院の区画溝か？	4.00	0.30	『史跡名勝嵐山 No.44』『京都市内遺跡試掘調査概報 平成15年度』	2004/3/31
432	551	室町時代 後半？	烏羽離宮跡	東西溝SD11B	室町時代後半には西端部で張り出しを持つ溝SD11A（図なし）となる。第53次濠と繋がる可能性。	4.00	1.50	『烏羽離宮跡35次調査』『昭和52年度京都市埋蔵文化財調査概要』	2011/9/30
433	647	京都IX期 古段階	嵯峨遺跡	SD16	嵯峨天龍寺の塔頭を囲む堀か？北東～南西方向の堀。	4.00	1.70	『嵯峨遺跡・嵯峨北堀町遺跡』（『西近畿文化財研究所調査報告書 7』）	2013/9/30
434	678	14世紀末 ～15世紀 初頭	史跡・名勝嵐山	溝38	亀山殿期の区画溝か？	4.00	1.50	『史跡・名勝嵐山』（『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2013-17』）	2015/3/31
435	716	室町時代	烏羽離宮跡	SD3302	中世竹田の東西溝	4.00	1.00	『第33次（東殿XVII）発掘調査』『烏羽離宮跡-国庫補助による発掘調査概要-昭和52年度』、『烏羽離宮跡33次調査』『昭和52年度京都市埋蔵文化財調査概要』	1978/3/31, 2011/9/30
436	718	平安時代 後期～ 鎌倉時代	烏羽離宮跡	溝(SD-01)	烏羽離宮期の北東から南西に流れる区画溝？11次・32次調査で検出されたものと一連。	4.00	1.50	『第49次（東殿XXIX）発掘調査』『烏羽離宮跡 文化庁国庫補助事業による発掘調査の概要 昭和54年度』、『烏羽離宮跡49次調査』『昭和54年度京都市埋蔵文化財調査概要』	1980/3/31 2012/3/31
437	424	15世紀 中頃	吉田二本松町遺跡	SD13・SD14	吉田二本松町のクランク状に折れ曲がる溝。	4.20	1.50	『京都大学吉田南構内AR25区の立合調査』『京都大学構内遺跡調査研究年報 2002年度』	2007/3/30
438	259	13世紀中 ～近世	下三橋遺跡	SD2	東西方向の溝で3時期に分かれる。紀伊郡条里の坪境。	4.50	1.30	『下三橋遺跡』『平成8年度京都市埋蔵文化財調査概要』	1998/3/31
439	263	15世紀末 ～16世紀	醍醐麩寺	SD2	『醍醐総構』に関連する南北方向の堀状遺構か？	4.50	2.20	『醍醐麩寺』『平成8年度京都市埋蔵文化財調査概要』	1998/3/31
440	426	16世紀末 ～17世紀 前葉	伏見城跡（以前）	溝1660	3区溝940とともに伏見城造営前の集落の東側を画する溝	4.50	0.90	『伏見城跡』（『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-27』）	2007/3/31
441	223	室町時代	史跡・名勝嵐山	濠1	嵐山の東西方向の濠で南側に濠2が走る。濠の南側に地業をはじめ宅地であったことを示す遺構が展開する。濠の南肩の一部で石垣がある。	4.60	1.20	『史跡名勝嵐山』『平成4年度京都市埋蔵文化財調査概要』	1995/9/1
442	142	15世紀末 ～16世紀 前半	植物園北遺跡	溝1	上賀茂社家町の構えに関する堀。東端で堀幅が細くなり、門等の遺構が考えられる。	4.85	1.31	『植物園北遺跡発掘調査概報 平成元年度』	1990/3/31
443	11	戦国時代 ～ 桃山時代	烏羽離宮跡	SD3103	SD1201、SD3511と関連した中世竹田の城館に伴う南北濠跡。SD04とは幅6mの間隔	5.00	1.00	『第31次（東殿XVI）発掘調査』『烏羽離宮跡-国庫補助による発掘調査概要-昭和52年度』	1978/3/31
444	43	平安時代 後期	烏羽離宮跡	SD-1	烏羽離宮東殿跡の東西区画溝	5.00	0.60	『烏羽離宮跡第77次調査』『昭和57年度京都市埋蔵文化財調査概要』	1984/3/1
445	63	平安時代 後期～ 鎌倉時代	烏羽離宮跡	SD1	烏羽離宮東殿に関連する東西方向の溝	5.00	1.30	『烏羽離宮跡 第88次調査』『昭和58年度京都市埋蔵文化財調査概要』	1985/3/31
446	83	平安時代 末～ 鎌倉時代	烏羽離宮跡	SD1	田中殿北限の区画溝	5.00	1.40	『第119次調査』『烏羽離宮跡発掘調査概報 昭和61年度』	1987/3/31
447	217	室町時代	南春日町遺跡	堀1	大原野神社を支える神職集団の敷地の東を限る大溝。第19次・21次調査と同一。	5.00	1.90	『南春日町遺跡第22～24次調査』『平成3年度京都市埋蔵文化財調査概要』	1995/3/31
448	343	15世紀末 ～1532年 まで	山科本願寺南殿跡	堀1	山科本願寺南殿の内堀北東隅、西側に土塁あり。	5.00	2.20	『山科本願寺南殿跡』『京都市内遺跡発掘調査概報 平成14年度』	2003/3/31
449	471	中世～元 禄15年 (1702)頃	革嶋館跡	濠1	革嶋館の西堀で堀東側に土塁56が伴う。	5.00	1.50	『革嶋館跡 No.24』『京都市内遺跡試掘調査報告 平成20年度』	2009/3/31
450	476	室町時代 ～ 江戸時代	革嶋館跡	堀1・柵1	堀2との共存関係の可能性があると同時に、館に先行する政所屋敷の堀の可能性もある。	5.00	1.90	『革嶋館跡』（『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2009-6』）	2009/10/30
451	477	室町時代 ～ 江戸時代	革嶋館跡	堀2・柵2	2009年調査の堀と関連する革嶋館の堀跡。	5.00	2.00	『革嶋館跡』（『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2009-6』）	2009/10/30

表11 堀・溝 一覧表 (17)

幅・深さ 番号	堀番号	時期	遺跡名	遺構名	性格	堀幅 (m)	検出深度 (m)	報告書名	発行年
452	499	中世～元禄15年(1702)頃	革嶋館跡	堀3	革嶋館の西堀で堀東側に土塁56が伴う。	5.00	1.40	『革嶋館跡』『京都市内遺跡発掘調査報告 平成21年度』	2010/3/31
453	54	12世紀後半	法住寺跡	水路跡	法住寺跡の庭園関連の排水路として機能した可能性。	5.20	1.60	『大谷中・高等学校構内遺跡発掘調査報告書』	1984/10/1
454	58	平安時代後期～鎌倉時代	鳥羽離宮跡	SD2(東西溝)	田中殿北限の区画溝	5.20	1.40	『第104次調査』『鳥羽離宮跡発掘調査概報 昭和59年度』	1985/3/31
455	603	室町時代末～桃山時代	伏見城跡	溝	指月城期舟入の東側台地上で西北西～東南東へ走る堀	5.50	2.50	『伏見城跡1』『昭和54年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	2012/3/31
456	652	中世	羽東師菱川城跡	濠2	鬼門の塚西端を南北に限る濠、濠3よりも古い	5.50	0.90	『長岡京左京四条三坊十三・十四町・四坊三・四町跡・羽東師菱川城跡 No.34.No.138』『京都市内遺跡発掘調査報告 平成25年度』	2014/3/31
457	721	平安時代後期	白河街区跡	堀26	白河街区の南北区画に関連する堀	5.50	1.50	『白河街区跡・岡崎遺跡』『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2002-17』	203/5/31
458	326	鎌倉時代中期	下三橋遺跡	溝132	下三橋の鎌倉時代集落に関連する東西方向の溝。溝の一部に杭列がある。	5.60	1.00	『下三橋遺跡』『平成11年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	2002/6/30
459	260	13世紀中～後期	下三橋遺跡	SD3	下三橋の鎌倉時代屋敷地の北限を示す東西方向の溝。	5.75	0.40	『下三橋遺跡』『平成8年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1998/3/31
460	620	京都V期	法住寺跡	濠150	法住寺跡内の東西方向の濠で、濠の東部で濠内部を遮断する南北方向の木組み遺構あり。	5.90	2.75	『法住寺跡』『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012-10』	2013/1/31
461	12	戦国時代～桃山時代	鳥羽離宮跡	SD3104	SD1201, SD3511と関連した中世竹田の城館に伴う南北濠跡、SD03とは幅6mの間隔	6.00	1.00	『第31次(東殿XVI)発掘調査』『鳥羽離宮跡・国庫補助による発掘調査概要-昭和52年度』	1978/3/31
462	34	平安時代後期～鎌倉時代	鳥羽離宮跡	SD4	鳥羽離宮「北大路」SF10の北側溝	6.00	1.20	『第72次発掘調査』『鳥羽離宮跡発掘調査概要 昭和56年度』	1982/3/31
463	75	平安時代後期以降	法住寺跡	SD03	法住寺の寺域及び最勝光院の推定地にあたる場所をSD02を切って成立する堀。	6.00	3.00	『法住寺跡』『昭和58年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1985/3/31
464	84	12世紀前半	鳥羽離宮跡	SD3	白河天皇陵北堀(南面は石垣)	6.00	1.50	『第121次調査』『鳥羽離宮跡発掘調査概報 昭和61年度』	1987/3/31
465	102	鎌倉時代～大蔵遺跡(大蔵城跡)	SD20(南北濠)	大蔵城もしくは下久世構え跡の南北濠	6.00	0.80	『大蔵遺跡発掘調査概報 昭和62年度』	1988/3/31	
466	239	平安時代後期～天文年間	鳥羽離宮跡	堀(SD1)	白河天皇陵の西堀	6.00	1.50	『鳥羽離宮跡第140次調査』『京都市内遺跡発掘調査概報 平成8年度』	1997/3/31
467	357	11世紀～12世紀	史跡・名勝 嵐山	溝252	嵐山付近の平安時代後期の区画溝?	6.00	2.00	『史跡・名勝 嵐山』『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2004-7』	2004/11/30
468	595	室町時代～江戸時代	鳥羽離宮跡	SD7	中世竹田の南北濠。	6.00	1.30	『鳥羽離宮跡54-B次調査』『昭和54年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	2012/3/31
469	625	13～14世紀	史跡・名勝 嵐山	溝1A	鎌倉時代亀山殿期の朱雀大路側溝	6.00	1.50	『史跡・名勝 嵐山』『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012-16』	2013/2/28
470	653	戦国～近世初頭	羽東師菱川城跡	濠3	鬼門の塚西端を南北に限る濠、濠2よりも新しい	6.00	1.20	『長岡京左京四条三坊十三・十四町・四坊三・四町跡・羽東師菱川城跡 No.34.No.138』『京都市内遺跡発掘調査報告 平成25年度』	2014/3/31
471	690	13世紀～14世紀	伏見城跡	溝119・堤135	中世集落に伴う南北溝、堤135、溝147を伴う。	6.00	0.90	『伏見城跡・桃蔭遺跡』『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2015-2』	2015/9/30
472	719	平安時代後期～桃山時代	鳥羽離宮跡	濠	第35次調査SD-11と同一化。	6.00	1.50	『第53次(東殿XXXII)発掘調査』『鳥羽離宮跡 文化庁国庫補助事業による発掘調査の概要 昭和54年度』、『鳥羽離宮跡53次調査』『昭和54年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1980/3/31 2012/3/31
473	720	平安時代後期～桃山時代	鳥羽離宮跡	SD5	鳥羽離宮東殿南東隅の区画溝、32次で検出したものと同一であり、さらに当地から南西へ大きく迂回しながら、10次調査、さらに49次調査で検出している溝へと続く。総延長320mに達する。	6.00	1.50	『第59次発掘調査』『鳥羽離宮跡発掘調査概要 昭和55年度』、『鳥羽離宮跡59次調査』『昭和55年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1981/3/31 2011/9/30
474	199	平安時代末～鎌倉時代	鳥羽離宮跡	溝1	鳥羽離宮南限付近の北東から南西に向かう溝。	6.30	1.30	『鳥羽離宮跡第135-2次調査』『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1994/9/10
475	215	戦国時代～江戸時代初頭	大覚寺御所跡	堀状遺構	東西方向の大規模な堀で、東側で幅2.4mに狭まる。	6.50	1.00	『史跡大覚寺御所跡』『平成3年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1995/3/31
476	191	室町時代後期	吉田泉殿町遺跡	大溝	吉田泉殿町の北東から南北方向の区画溝	6.80	1.00	『京都工芸繊維大学構内遺跡発掘調査報告書-京都大学西部構内遺跡-』	1993/9/30
477	100	平安時代末～鎌倉時代	鳥羽離宮跡	溝28	中世前半の区画溝	7.00	1.20	『第124次調査』『鳥羽離宮跡発掘調査概報 昭和62年度』	1988/3/31
478	159	14世紀～15世紀	岡崎遺跡	SD38	中世岡崎の南北区画溝。	7.00	1.00	『岡崎遺跡・法勝寺跡隣接地』『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』	1991/12/5

表11 堀・溝 一覧表 (18)

幅・深さ 番号	堀番 号	時期	遺跡名	遺構名	性格	堀幅 (m)	検出深度 (m)	報告書名	発行年
479	689	15世紀 半ば～ 17世紀第 二四半期	羽東師 菱川城跡	SD195(北 濠)	羽東師菱川城の北堀。15世紀半ば～16世 紀前半に掘削され、16世紀前半～半ばに濠 の分断と拡張が行われる。16世紀半ば～末 に水濠として機能し、16世紀末～17世紀 初頭には水濠機能が喪失し、17世紀第2四 半期に終焉を迎える。	7.00	1.90	『羽東師菱川城跡・長岡京跡(長岡 京跡第561次調査)』	2015/5/26
480	714	平安時代 末～ 桃山時代	鳥羽離宮跡	SD3202	東殿東辺を南北に走る大溝	7.00	1.80	『第32次(東殿XVII)発掘調査』『鳥 羽離宮跡-国庫補助による発掘調査 概要-昭和52年度』『鳥羽離宮跡 32次調査』『昭和52年度 京都市 埋蔵文化財調査概要』	1978/3/31 2011/9/30
481	55	平安時代 後期～ 鎌倉時代	鳥羽離宮跡	SD10	白河天皇陵北西隅の堀	7.60	1.70	『第96次調査』『鳥羽離宮跡発掘調 査概報 昭和59年度』	1985/3/31
482	298	京都IV期 中段層 ～V期古 段層	仁和寺院家跡	溝443	3区で溝270となる。仁和寺の子院の一つ である浄光院に関連する区画溝	8.00	0.50	『仁和寺院家跡(花園宮ノ上町遺 跡)』『京都市埋蔵文化財研究所発 掘調査概報2001-1』	2002/1/31
483	559	平安時代 後期～ 室町時代	沖殿町遺跡	SD1	修学院周辺の集落に伴う溝?	8.00	0.90	『沖殿町遺跡』『昭和55年度 京都 市埋蔵文化財調査概要』	2011/9/30
484	560	平安時代 後期～ 室町時代	沖殿町遺跡	SD4	修学院周辺の集落に伴う溝?	8.00	1.80	『沖殿町遺跡』『昭和55年度 京都 市埋蔵文化財調査概要』	2011/9/30
485	688	15世紀～ 18世紀代	羽東師 菱川城跡	SD116(東 濠)	羽東師菱川城の東濠。	8.00	1.50	『羽東師菱川城跡・長岡京跡(長岡 京跡第561次調査)』	2015/5/26
486	520	室町時代 後期～ 江戸時代 初頭	大藪城跡	SD255	大藪城内の南北方向の堀状遺構。SD40よ り0.5m間隔をあげた西側に位置し、北部 でSD151と合流する。	8.60	0.35	『大藪遺跡・大藪城跡』『(京都市埋 蔵文化財研究所発掘調査報告 2010-9)』	2010/11/30
487	52	平安時代 後期～ 鎌倉時代	鳥羽離宮跡	SD10	白河天皇陵北東隅の堀	8.70	1.60	『第91次調査』『鳥羽離宮跡発掘調 査概報 昭和58年度』	1984/3/31
488	99	平安時代 末～ 鎌倉時代	鳥羽離宮跡	溝3	白河天皇陵南堀(北面は石垣)	8.80	1.90	『第122次調査』『鳥羽離宮跡発掘調 査概報 昭和62年度』	1988/3/31
489	49	安土桃山 時代～ 江戸時代 初期	伏見城跡	南北堀状 遺構	伏見城跡。桃山町伊賀で検出された南北堀 状遺構	11.00	4.00	『伏見城跡(2)』『昭和57年度 京都 市埋蔵文化財調査概要』	1984/3/1
490	50	安土桃山 時代～ 江戸時代 初期	伏見城跡	南北堀状 遺構	伏見城跡。桃山町伊賀で検出された南北堀 状遺構	11.00	4.00	『伏見城跡(2)』『昭和57年度 京都 市埋蔵文化財調査概要』	1984/3/1
491	268	15世紀末 ～1532年 まで	山科本願寺跡	堀	山科本願寺入り部分の堀。	12.00	4.00	『山科本願寺1』『平成9年度 京都 市埋蔵文化財調査概要』	1999/3/31
492	498	安土桃山 時代	伏見城跡・ 桃陵遺跡	堀 SD1400	伏見城内の安土桃山時代の南北方向の堀 で、B地区の堀SD1001に継続する。	16.00	5.00	『伏見城跡・桃陵遺跡発掘調査報告 書-(仮称)公務員宿舍伏見住宅整 備事業に伴う-』	2010/3/20
493	515	室町時代 後期～ 江戸時代 初頭	大藪城跡	SD40	大藪城の南北方向の溝	16.00	0.30	『大藪遺跡・大藪城跡』『(京都市埋 蔵文化財研究所発掘調査報告 2010-9)』	2010/11/30
494	492	安土桃山 時代	伏見城跡・ 桃陵遺跡	堀 SD1001	伏見城内の安土桃山時代の南北方向の堀 で、B地区の堀SD1400に継続する。	16.20	3.25	『伏見城跡・桃陵遺跡発掘調査報告 書-(仮称)公務員宿舍伏見住宅整 備事業に伴う-』	2010/3/20
495	725	桃山時代	伏見城跡	本丸北堀	伏見城本丸北堀	30.00	6.00	『桃山(大正11年測図・昭和10年 修正測図)』都市計画図	昭和11年
496	724	桃山時代	伏見城跡	出丸北堀	伏見城出丸北堀	48.00	10.00	『桃山(大正11年測図・昭和10年 修正測図)』都市計画図	昭和11年
497	723	桃山時代	伏見城跡	西ノ丸北 堀	伏見城西ノ丸北堀	60.00	8.00	『桃山(大正11年測図・昭和10年 修正測図)』都市計画図	昭和11年
498	727	桃山時代	伏見城跡	松ノ丸北 堀	伏見城松ノ丸北堀	60.00	10.00	『桃山(大正11年測図・昭和10年 修正測図)』都市計画図	昭和11年
499	728	桃山時代	伏見城跡	本丸・西 ノ丸間堀	伏見城本丸・西ノ丸間堀	60.00	14.00	『桃山(大正11年測図・昭和10年 修正測図)』都市計画図	昭和11年
500	729	桃山時代	伏見城跡	治部池	伏見城治部少丸堀	80.00	8.00	『桃山(大正11年測図・昭和10年 修正測図)』都市計画図	昭和11年
501	726	桃山時代	伏見城跡	紅雪堀	伏見城紅雪堀	90.00	14.00	『桃山(大正11年測図・昭和10年 修正測図)』都市計画図	昭和11年
502	145	安土桃山 時代	伏見城跡	北堀中央 部～東部	伏見城北堀。E字形で現存しており、中央E 字部分を含めると、幅152mとなる。	100.00	14.00	『伏見城跡発掘調査報告-伏見北堀公 園整備工事に伴う事前発掘調査-』	1990/3/31
503	730	桃山時代	伏見城跡	木幡山期 舟入	伏見城木幡山期舟入	100.00	18.00	『桃山(大正11年測図・昭和10年 修正測図)』都市計画図	昭和11年
504	731	桃山時代	伏見城跡	指月城期 舟入	伏見城指月城期舟入	110.00	14.00	『桃山(大正11年測図・昭和10年 修正測図)』都市計画図	昭和11年
505	722	桃山時代	伏見城跡	北堀	伏見城北堀	120.00	12.00	『桃山(大正11年測図・昭和10年 修正測図)』都市計画図	昭和11年
506	122	安土桃山 時代	伏見城跡	北堀西部	伏見城北堀。E字形で現存しており、西端E 字部分を含めると、幅165mとなる。	165.00	14.00	『伏見城跡発掘調査報告-伏見北堀 公園整備工事に伴う事前発掘調査 -』	1989/3/20